

学習院大学 国際文化交流学部
設置の趣旨等を記載した書類
添付資料 目次

【資料1】 『総合知』の基本的考え方及び戦略的に推進する方策（中間とりまとめ）	2
【資料2】 教育未来創造会議 第一次提言のポイント	3
【資料3】 独立行政法人日本学生支援機構「2023（令和5）年度外国人留学生在籍状況調査結果」	4
【資料4】 文部科学統計要覧（令和5年版）	6
【資料5】 文部科学省「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申） 18歳人口の減少を踏まえた高等教育機関の規模や地域配置 関係資料」	7
【資料6】 学習院女子大学「IRデータ集」志願者数	9
【資料7】 進研アド「学習院大学『国際文化交流学部』設置に関するニーズ調査」令和6年5月	12
【資料8】 学習院女子大学 令和3～5年の就職データ	21
【資料9】 進研アド「学習院女子大学 卒業生アンケート報告書」令和5年度	24
【資料10】 学習院女子大学「IRデータ集」履修状況	31
【資料11】 日本文化学科 履修方法一覧、履修方法付表	34
【資料12】 国際コミュニケーション学科 履修方法一覧、履修方法付表	36
【資料13】 英語コミュニケーション学科 履修方法一覧	38
【資料14】 日本文化学科 コースによる履修モデル、カリキュラム・マップ	39
【資料15】 国際コミュニケーション学科 コースによる履修モデル、カリキュラム・マップ	44
【資料16】 英語コミュニケーション学科 履修モデル、カリキュラム・マップ	49
【資料17】 既修得単位の読替表	51
【資料18】 編入後の履修モデル	53
【資料19】 海外研修受入大学による承諾書・協定書	61
【資料20】 学習院女子大学「IRデータ集」海外短期研修参加者	76
【資料21】 入学者選抜ごとの評価項目	77
【資料22】 学習院教職員停年規程 学習院大学・学習院女子大学統合における専任教員の停年の特例に関する規程	78
【資料23】 校舎案内図	80
【資料24】 令和6年度 教室使用状況一覧	81
【資料25】 内部質保証に関わる組織と役割、教育研究に関する内部質保証プロセスの概念図	83
【資料26】 学習院大学における内部質保証の推進に関する規程	88
【資料27】 学習院大学FD・SD推進委員会規程	91
【資料28】 シラバス「ボランティア演習」「国際文化交流演習XVI（韓国におけるボランティア）」 「国際文化交流演習IX（中欧研修）」「インディペンデント・スタディ（課題研究）」	93
【資料29】 学習院大学キャリア・就職委員会規程	101
【資料30】 在籍学生に対する大学統合に関する説明資料	102
【資料31】 入学予定者に対する大学統合に関する説明資料	106

「総合知」の基本的考え方及び戦略的に推進する方策 中間とりまとめ



令和4年3月17日

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局

0

3-1. 「総合知」の基本的考え方

我が国の科学技術やイノベーションが様々な課題へ適切に対応し、世界に伍していくためには、「総合知」すなわち、多様な「知」が集い、新たな価値を創出する「知の活力」を生むことが不可欠である。多様な「知」が集うとは、属する組織の「矩」を超え、専門領域の枠にとらわれない多様な「知」が集うことであり、新たな価値を創出するとは、安全・安心の確保とWell-beingの最大化に向けた未来像を描くだけでなく、社会実装に向けた具体的な手段も見出し、社会の変革をもたらすことである。これらによって「知の活力」を生むことこそが「総合知」であり、「総合知」を推し進めることが、科学技術・イノベーションの力を高めることにつながる。

総合知とは

多様な「知」が集い、新たな価値を創出する「知の活力」を生むこと

- 多様な「知」が集うとは、属する組織の「矩」を超え、専門領域の枠にとらわれない多様な「知」が集うことである。
 - 新たな価値を創出するとは、安全・安心の確保とWell-beingの最大化に向けた未来像を描くだけでなく、社会実装に向けた具体的な手段も見出し、社会の変革をもたらすことである。
- これらによって「知の活力」を生むことこそが「総合知」であり、「総合知」を推し進めることが、科学技術・イノベーションの力を高めることにつながる。

- ・高等教育の発展と少子化の進行（18歳人口は2022年からの10年間で9%減少）
- ・デジタル人材の不足（2030年には先端IT人材が54.5万人不足）
- ・グリーン人材の不足（2050カーボンニュートラル表明自治体のうち、約9割が外部人材の知見を必要とする）
- ・高等学校段階の理系離れ（高校において理系を選択する生徒は約2割）
- ・諸外国に比べて低い理工系の入学者（学部段階：OECD平均27%、日本17%、うち女性：OECD平均15%、日本7%）
- ・諸外国に比べ少ない修士・博士号の取得者（100万人当たり修士号取得者：英4,216人、独2,610人、米2,550人、日588人
博士号取得者：英375人、独336人、韓296人、日120人）
- ・世帯収入が少ないほど低い大学進学希望者
- ・諸外国に比べて低調な人材投資・自己啓発（社外学習・自己啓発を行っていない個人の割合は、諸外国が2割を下回るのに対し、我が国は半数近く）
- ・進まないリカレント教育

- ・日本の社会と個人の未来は教育にある。教育の在り方を創造することは、教育による未来の個人の幸せ、社会の未来の豊かさの創造につながる。
- ・人への投資を通じた「成長と分配の好循環」を教育・人材育成においても実現し、「新しい資本主義」の実現に資する。



- ◎一人一人の多様な幸せと社会全体の豊かさの実現（ウェルビーイングを実現）
- ◎ジェンダーギャップや貧困など社会的分断の改善
- ◎社会課題への対応、SDGsへの貢献（国民全体のデジタルリテラシーの向上や地球規模の課題への対応）
- ◎生産性の向上と産業経済の活性化
- ◎全世代学習社会の構築

◎未来を支える人材像

好きなことを追究して高い専門性や技術力を身に付け、自分自身で課題を設定して、考えを深く掘り下げ、多様な人とコミュニケーションをとりながら、新たな価値やビジョンを創造し、社会課題の解決を図っていく人材

<高等教育で培う資質・能力>

リテラシー/論理的思考力/規範的判断力/課題発見・解決能力/未来社会を構想・設計する力/高度専門職に必要な知識・能力

◎今後特に重視する人材育成の視点 ⇒ 産学官が目指すべき人材育成の大きな絵姿の提示

- ・予測不可能な時代に必要な文理の壁を超えた普遍的知識・能力を備えた人材育成
- ・デジタル、人工知能、グリーン（脱炭素化など）、農業、観光など科学技術や地域振興の成長分野をけん引する高度専門人材の育成
- ・現在女子学生の割合が特に少ない理工系等を専攻する女性の増加（現在の理工系学生割合：女性7%、男性28%）
- ・高い付加価値を生み出す修士・博士人材の増加
- ・全ての子供が努力する意思があれば学ぶことができる環境整備
- ・一生涯、何度でも学び続ける意識、学びのモチベーションの涵養
- ・年齢、性別、地域等にかかわらず誰もが学び活躍できる環境整備
- ・幼児期・義務教育段階から企業内までを通じた人材育成・教育への投資の強化

現在35%にとどまっている自然科学（理系）分野の学問を専攻する学生の割合についてOECD諸国で最も高い水準である5割程度を目指すなど具体的な目標を設定

2024年5月

2023（令和5）年度
外国人留学生在籍状況調査結果



3. 出身地域別留学生数

出身地域別留学生の割合については、アジア地域からの留学生が91.0%（前年度93.0%）、欧州・北米地域からの留学生が合わせて6.5%（同4.6%）となっている。

地域名	留学生数	構成比
アジア	254,224人 (214,858)	91.0% (93.0)
欧州	13,364人 (8,583)	4.8% (3.7)
北米	4,667人 (1,972)	1.7% (0.9)
アフリカ	2,595人 (2,273)	0.9% (1.0)
中南米	2,238人 (1,819)	0.8% (0.8)
中東	1,291人 (1,143)	0.5% (0.5)
大洋州	883人 (491)	0.3% (0.2)
その他 (無国籍)	12人 (7)	0.0% (0.0)
計	279,274人 (231,146)	100.0% (100.0)

()内は2022年5月1日現在の数

7. 専攻分野別留学生数

専攻分野	留学生数		構成比	
人文科学	134,310人	(80,291)	48.1%	(34.7)
社会科学	57,563人	(63,096)	20.6%	(27.3)
理学	4,640人	(4,361)	1.7%	(1.9)
工学	35,135人	(37,487)	12.6%	(16.2)
農学	4,057人	(4,200)	1.5%	(1.8)
保健	6,073人	(5,829)	2.2%	(2.5)
家政	3,185人	(3,921)	1.1%	(1.7)
教育	3,200人	(2,854)	1.1%	(1.2)
芸術	11,560人	(10,855)	4.1%	(4.7)
その他	19,551人	(18,252)	7.0%	(7.9)
計	279,274人	(231,146)	100.0%	(100.0)

()内は2022年5月1日現在の数

入 学 者 数 (2-1)

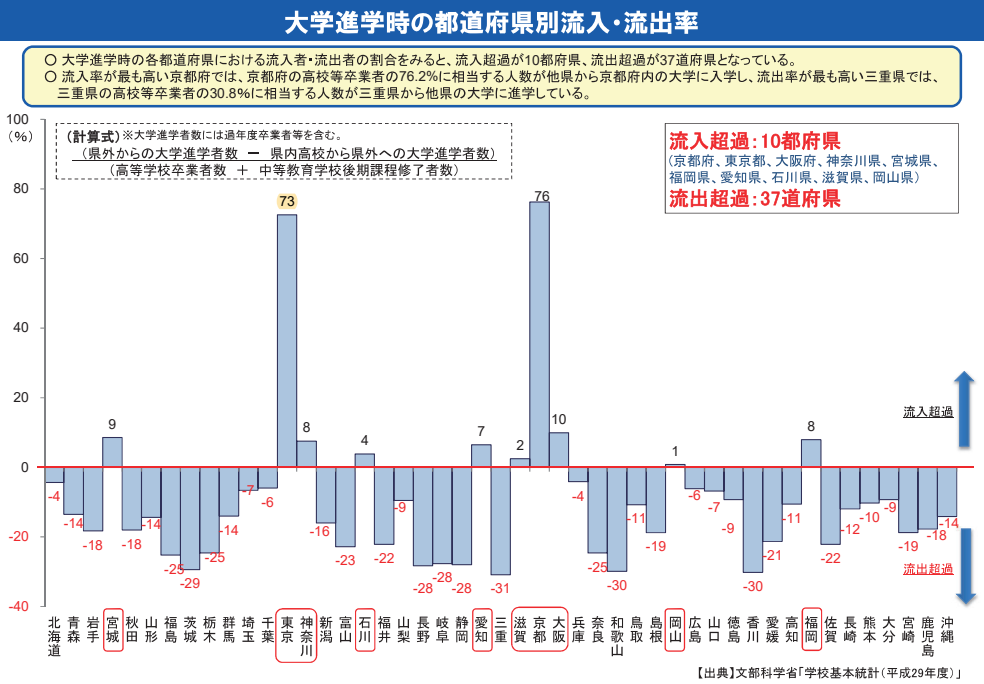
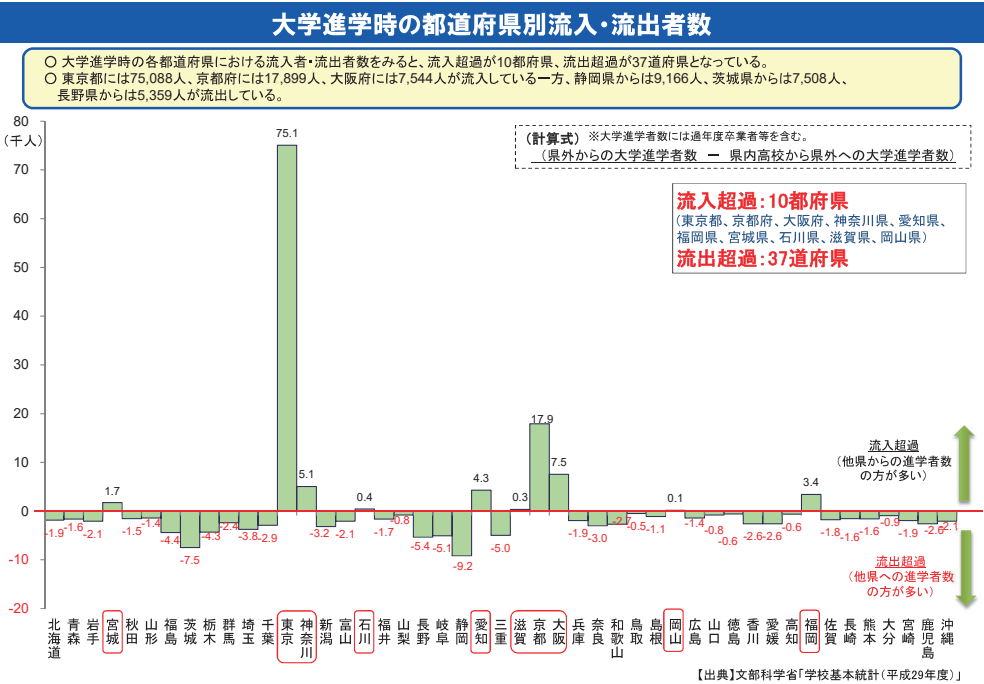
New Entrants

大学・学部 <University --Undergraduate Courses>

区 分	計 Total	国 立 National	公 立 Local	私 立 Private
昭和30年('55)	132,296	46,155	5,494	80,647
35('60)	162,922	44,847	6,925	111,150
40('65)	249,917	54,681	9,130	186,106
45('70)	333,037	64,519	10,215	258,303
50('75)	423,942	75,479	10,673	337,790
55('80)	412,437	84,731	10,848	316,858
60('85)	411,993	88,103	11,364	312,526
平成 2('90)	492,340	100,991	14,182	377,167
7 ('95)	568,576	108,599	18,835	441,142
12('00)	599,655	103,054	23,578	473,023
17('05)	603,760	104,130	26,050	473,580
22('10)	619,119	101,310	29,107	488,702
27('15)	617,507	100,631	30,940	485,936
28('16)	618,423	100,146	31,307	486,970
29('17)	629,733	99,462	31,979	498,292
30('18)	628,821	99,371	33,073	496,377
令和元('19)	631,273	99,136	33,712	498,425
2('20)	635,003	98,365	33,439	503,199
3('21)	627,040	98,156	33,967	494,917
4('22)	635,156	98,471	34,679	502,006
男 Male	342,466	60,891	15,038	266,537
女 Female	292,690	37,580	19,641	235,469
昼 間 Day courses	631,549	97,566	34,566	499,417
夜 間 Evening courses	3,607	905	113	2,589
人文科学 Humanities	84,881	6,181	4,232	74,468
社会科学 Social science	205,247	14,146	10,117	180,984
理 学 Science	19,180	6,299	1,111	11,770
工 学 Engineering	90,728	25,912	5,160	59,656
農 学 Agriculture	18,620	6,763	1,126	10,731
保 健 Health	76,675	10,629	6,924	59,122
商 船 Mercantile marine	206	206	—	—
家 政 Home economics	17,406	268	659	16,479
teacher training	45,328	13,788	609	30,931
芸 術 Arts	19,166	802	1,485	16,879
そ の 他 Others	57,719	13,477	3,256	40,986
17歳以下	50	14	—	36
18 歳	514,637	73,445	28,302	412,890
19 歳	94,204	20,539	5,304	68,361
20 歳	14,599	2,951	646	11,002
21 歳	5,060	570	156	4,334
22 歳	2,386	270	79	2,037
23 歳	1,226	141	47	1,038
24 歳	832	118	25	689
25～29歳	1,380	235	50	1,095
30～39歳	453	103	38	312
40～49歳	152	42	11	99
50～59歳	99	25	10	64
60歳以上	78	18	11	49

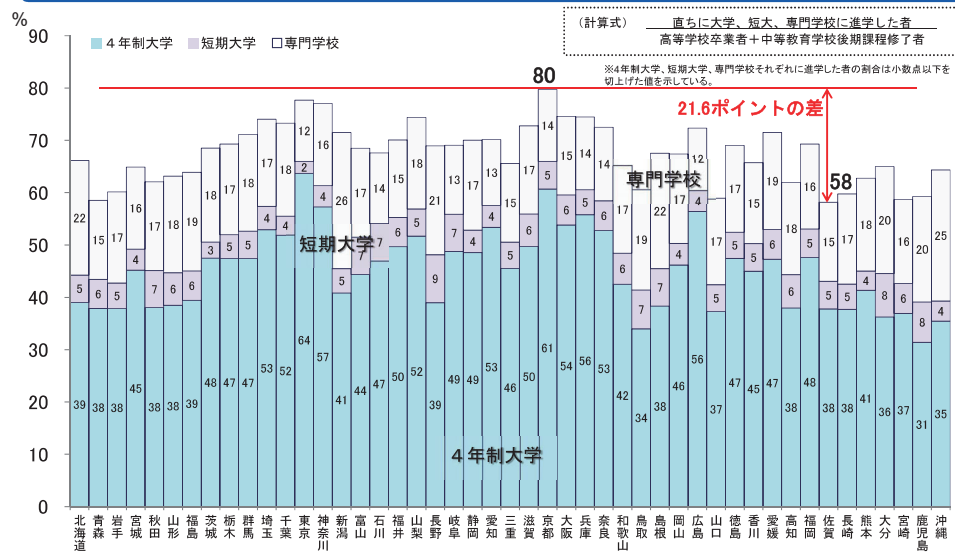
IV. 18歳人口の減少を踏まえた 高等教育機関の規模や地域配置

関係資料



都道府県別高校新卒者の4年制大学、短期大学、専門学校への進学率

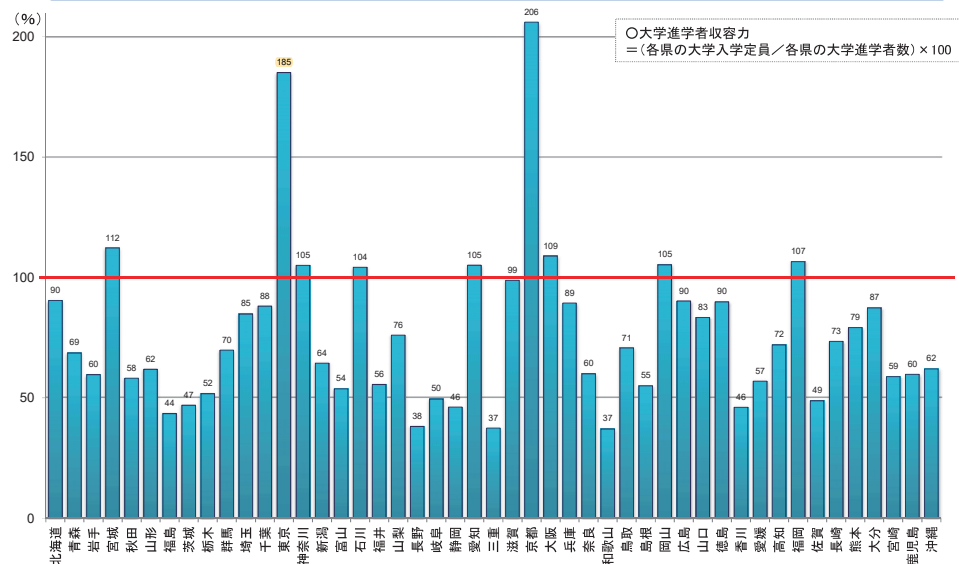
平成29年度の都道府県別高校新卒者の4年制大学、短期大学、専門学校への進学率は、京都(79.7%)が最も高く、佐賀(58.1%)が最も低い。京都と佐賀では21.6ポイントの差。



出典:文部科学省「学校基本統計(平成29年度版)」

都道府県別大学進学者収容力

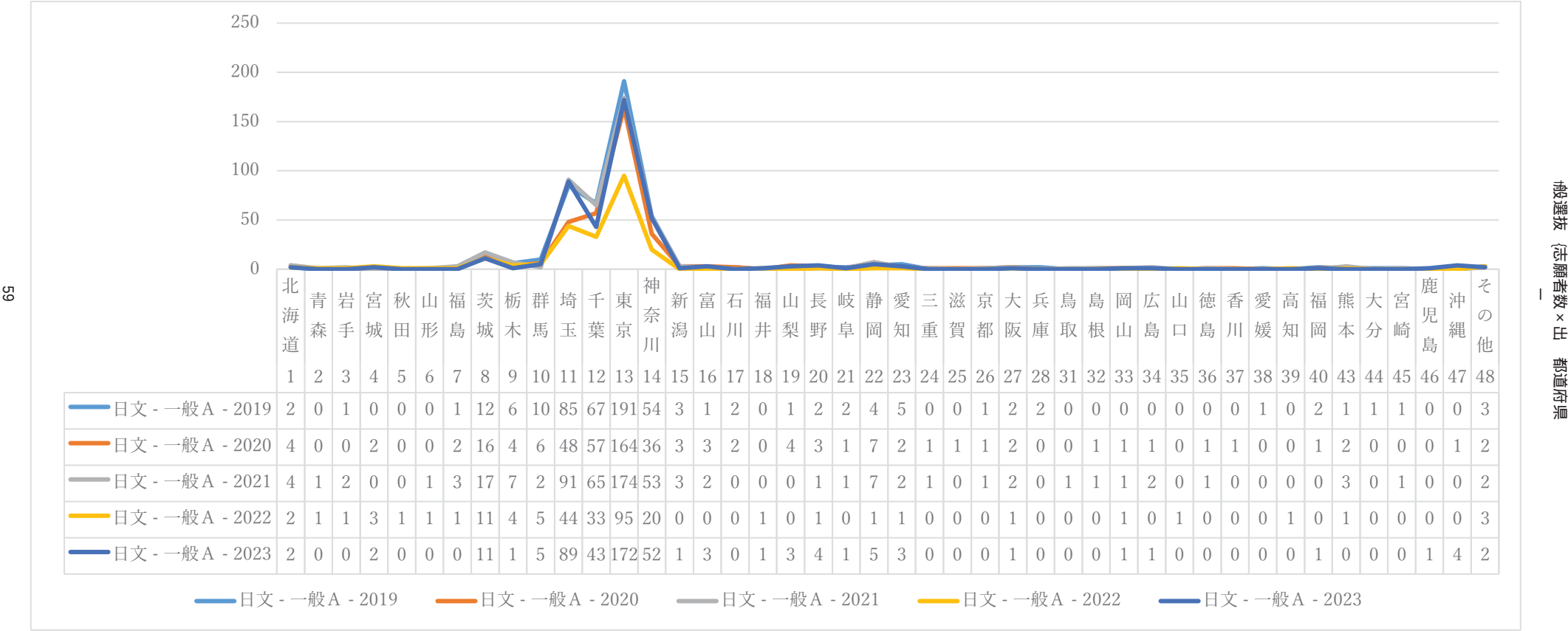
○東京都及び京都府の大学進学者収容力が約200%と突出している一方、50%に満たない県も存在している。



【出典】○大学入学定員数:文部科学省調べ(※各県(学部の所在地による)に所在する大学の入学定員を学校基本統計の二次利用により一部補正。)
 ○大学進学者数:文部科学省「学校基本統計(平成29年度)」二次利用を元に集計。

一般選抜 志願者数×出身都道府県
A方式のみ／出身地は出身高校コードによる

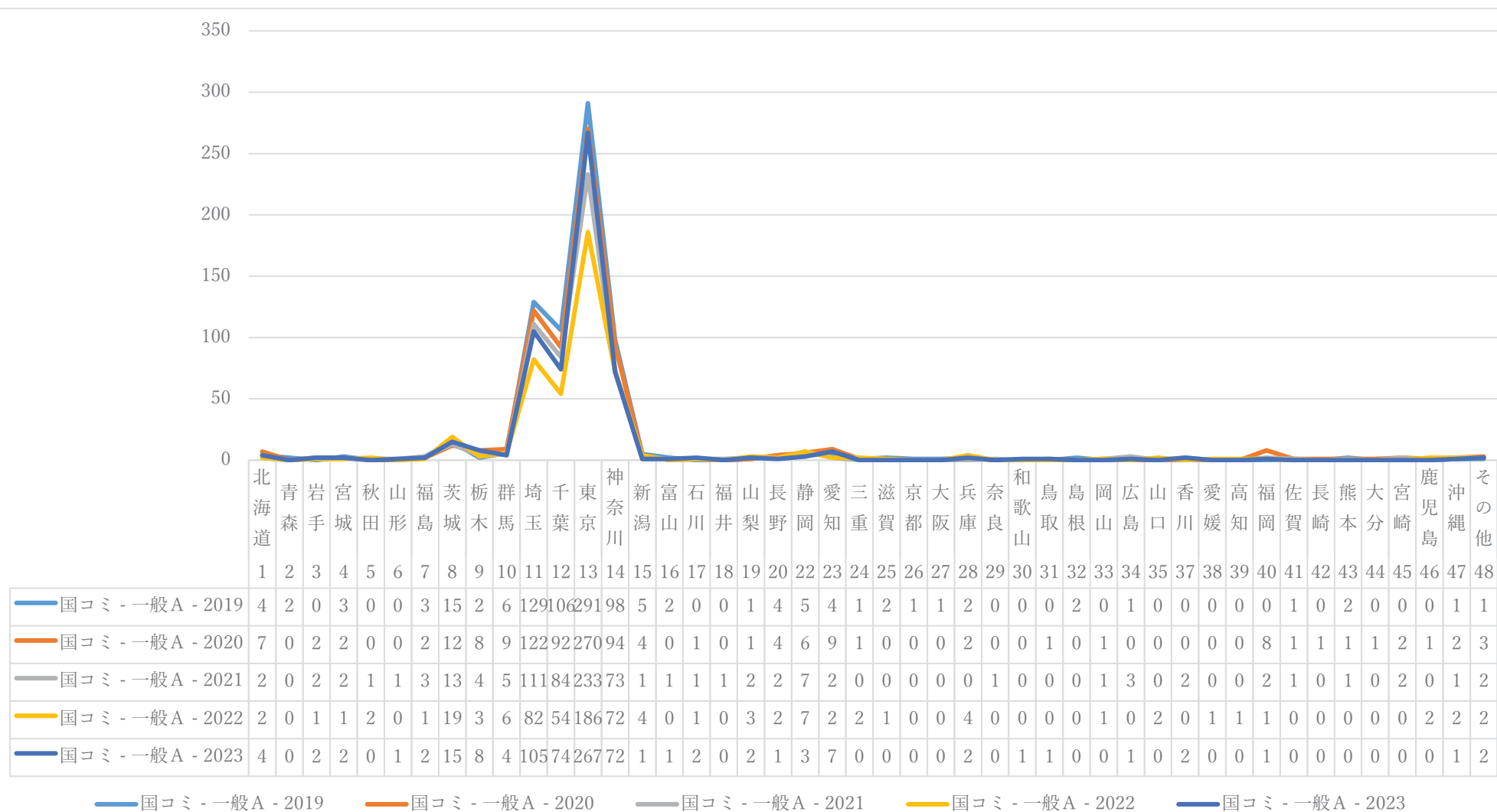
日本文化学科 志願者数×出身都道府県



国際コミュニケーション学科 志願者数×出身都道府県

60

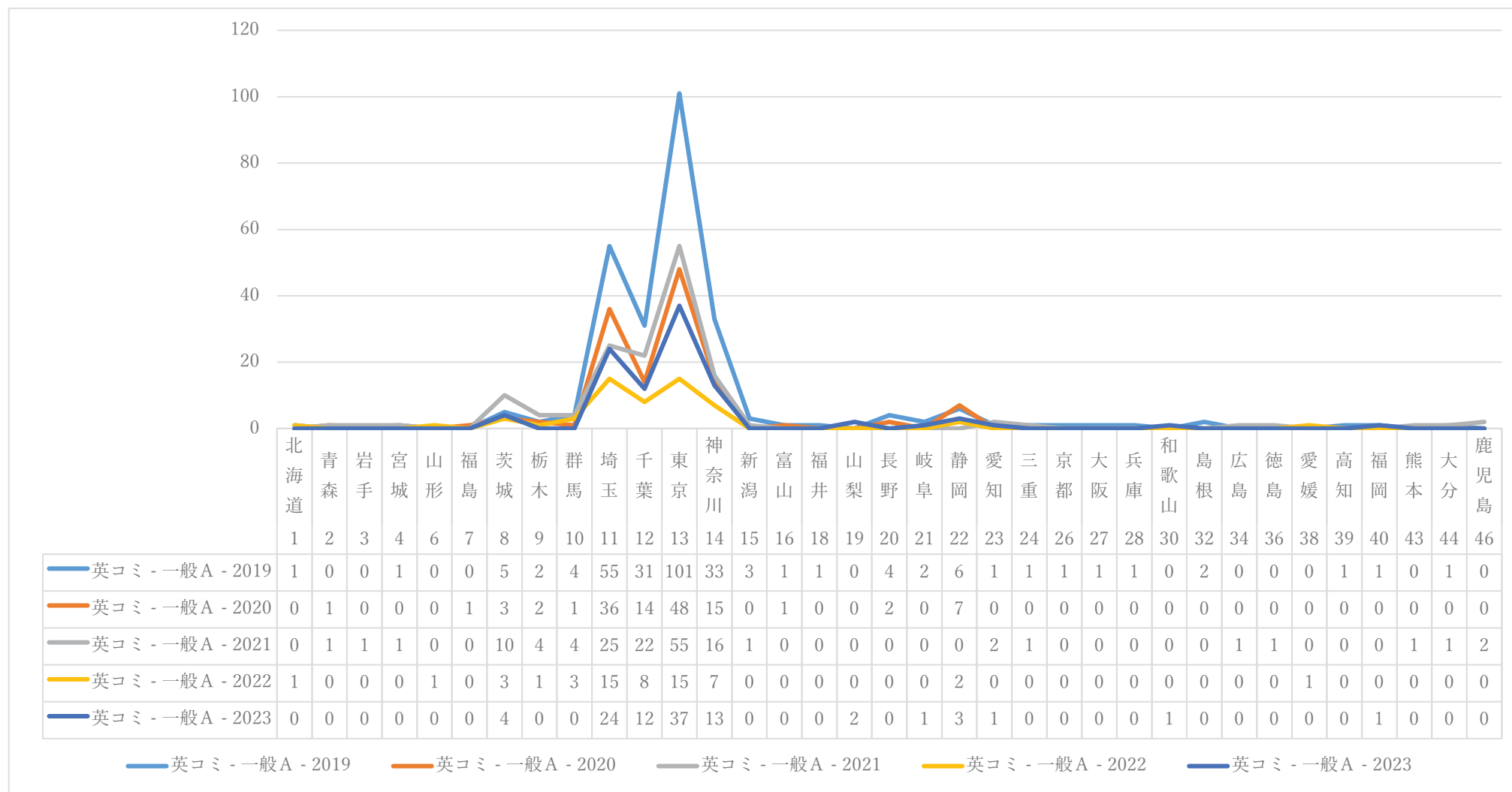
一般選抜 (志願者数×出身都道府県)



英語コミュニケーション学科 志願者数×出身都道府県

61

一般選抜 (志願者数×出身都道府県)



学習院大学「国際文化交流学部」(仮称)
に関するアンケート実施ご協力をお願い

拝啓 新緑の候、貴校におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素より本学に対しご理解とご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、このたびは、2026 年（令和 8 年）4 月設置予定の「国際文化交流学部」(仮称)に関するアンケート実施のご協力をお願いにつきまして、ご了解くださり、誠にありがとうございます。貴校のご協力を受け、本学部・学科の内容をより一層充実させてまいりたいと存じます。

つきましては、今回お送りさせていただきましたアンケートを通じて、貴校の生徒の皆様からの率直なご意見やご要望などをお聞かせいただければ幸いです。

ご多忙の折、誠に恐縮に存じますが、何とぞご協力を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、貴校のご発展を心よりお祈り申し上げます。

敬具

※ ご回答いただいた内容はすべて統計的に処理し、上記の目的以外に使用することはありません。

※ アンケートの実施に関しましては、別紙の『アンケート実施要領』をご参照ください。また、集計業務の関係上、アンケートの返送先が本学ではなく、別途物流センターの「学習院大学 アンケート係」となります。

※ ご回答いただいたアンケート用紙は同封の返信用宅配便封筒（料金着払い伝票貼付済み）に入れて、**2024 年 6 月 24 日（月）必着**でご返送くださいますようお願いいたします。

（大変お手数ではございますが、宅配業者への集荷依頼は貴校にてご連絡いただきますようお願いいたします。）

今回のアンケートに関し、ご質問等がございましたら、お手数ですが下記までお問い合わせください。

学習院女子大学 事務統括部 事務運営課

担当： 中島 晴彦

住所： 〒162-8650 東京都新宿区戸山 3-20-1

TEL： 03-3203-7784

FAX： 03-3203-8373

MAIL： gwc-off@gakushuin.ac.jp

アンケート実施要領

1. 今回の送付物

【送付物】

- 学習院大学「国際文化交流学部」（仮称）に関するアンケート実施ご協力をお願い
（学校長殿、進路指導ご担当者殿宛て 1 部ずつ）
- アンケート実施要領（本状）
- アンケート用紙／国際文化交流学部の説明資料
- 返信用宅配便封筒（料金着払い伝票貼付済み）

封入には細心の注意を払っておりますが、万一、部数の不足などがございましたら、
学習院女子大学 事務統括部 事務運営課 担当：中島 晴彦（TEL：03-3203-7784）まで、
ご連絡ください。

また、実施に際してご不明な点がございました場合も、上記までご連絡くださいますよう
お願いいたします。

2. アンケート調査の目的

学習院大学では、2026 年（令和 8 年）4 月に「国際文化交流学部」（仮称）の設置を構想して
います。そこで、生徒の皆様の進路選択に対する考え方や、大学で学びたいこと等のご意見を
お伺いしたく、本アンケートを実施いたします。

3. アンケート対象者

以下の方を対象にアンケートを実施していただきますよう、お願いいたします。

大学、短期大学への進学を希望されている 高校 2 年生

4. アンケートの実施方法

アンケートにご協力いただく生徒の皆様へ「アンケート用紙」および「国際文化交流学部の
説明資料」をお配りいただき、「アンケート用紙」についてはご回答・ご回収いただきますよう、
お願いいたします。また、以下の点について生徒の皆様にご説明ください。

- ・ アンケートの回答前に、回答は最初の頁から順番に進めて、途中でとばしたりせず
必ず最後の頁まで回答するよう、ご説明ください。
（アンケートの回答に要する時間は 15 分～20 分程度です。）
- ・ 国際文化交流学部の説明資料は回収せず、生徒の皆様にお持ち帰りいただきますよう、
ご指示ください。

5. アンケートの回収と返送方法

回答済みのアンケートは、「返信用宅配便封筒（料金着払い伝票貼付済み）」に封入して
お送りください。（大変お手数ではございますが、宅配業者（クロネコヤマト）への集荷依頼は
貴校にてご連絡いただきますようお願いいたします。）

6. 回収締切日

締切日：2024 年 6 月 24 日（月）

上記締切日**必着**で、アンケートを実施され次第ご返送ください。

恐れ入りますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

学習院大学 国際文化交流学部(仮称、設置構想中) に関するアンケート

学習院大学では、2026年4月より、「国際文化交流学部」(仮称)を新設することを構想しています。
そこで、アンケートを通じて、高校生の皆さんの進路選択に対する考え方や、大学で学びたいこと等のご意見をお伺いしたく、本アンケートを実施するものです。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。また、回答いただいた内容が、高校生のみなさんの本学への入学に影響を及ぼすことは一切ありません。
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※ このアンケートやリーフレットに記載されている「国際文化交流学部」(仮称、設置構想中)に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

記入要領

1. 回答は、あてはまる番号に「○」印をつけてください。
2. この用紙は、電算処理しますので汚さないようにしてください。
3. 記入は、必ず鉛筆又はシャープペンシルで濃く書いてください。
4. 下記の【良い記入例】にしたがって記入してください。
特に、「○」印は、番号丸枠からはみ出さないようにつけてください。

ここに○印をつけてください



文学

ID 10

この欄には記入しないでください

良い
記入例

○ 文学
② 史学

悪い
記入例

① 文学
② 史学

① 文学
② 史学

① 文学
② 史学

◆最初にあなた自身についてお聞きします。

性別 (1つに○)	① 男性	② 女性	③ 回答しない
学年 (1つに○)	① 1年生	② 2年生	③ 3年生
在籍している 高校名	高校所在地 [] 都・道・府・県 ① 国立 ② 公立 ③ 私立 (← 1つに○) [] 高等学校		
所属クラス (1つに○)	① 文系クラス (文系コース) ③ コース選択はない ② 理系クラス (理系コース) ④ その他		

◆高校卒業後の進路や、興味のある学びについてお聞きします。

Q1 あなたは、卒業後の進路をどのように考えていますか。
現在検討している進路すべてに○をつけてください。(複数選択可)

- ① 大学 ③ 専門職大学 ⑤ 専門学校 ⑦ その他
② 短期大学 ④ 専門職短期大学 ⑥ 就職

Q2 Q1で①～④を選択した方に質問です。(※Q1で①～④を選択しなかった方は、Q3に進んでください。)
志望する大学等について以下より希望を選択してください。
現在検討している(希望している)ものすべてに○をつけてください。(複数選択可)

- ① 私立 ② 国立 ③ 公立

Q3 ここからは全員にお聞きします。
高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。
以下の項目から、興味のある学問分野すべてに○をつけてください。(複数選択可)
※現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。

- ① 文学 ⑤ 商学・経済学 ⑨ 工学(機械工学、応用理学など) ⑬ 教育学
② 史学 ⑥ 社会学 ⑩ 農学(林学、水産学など) ⑭ その他
③ 国際学 ⑦ 哲学 ⑪ 保健(医学、薬学、看護学など) ⑮ わからない
④ 法学・政治学 ⑧ 理学(数学、物理学など) ⑫ 家政学(食物学、児童学など)

◆学習院大学「国際文化交流学部」(仮称、設置構想中)についてお聞きます。

学習院大学では、現在高校2年生のみなさんが大学生となる2026年(令和8年)4月に、新しく「国際文化交流学部」(仮称)を設置することを構想しています。

※ ここからは、「国際文化交流学部」のリーフレットを見てからお答えください ※

Q 4 学習院大学「国際文化交流学部」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		とても 魅力を 感じる	ある程度 魅力を 感じる	あまり 魅力を 感じない	まったく 魅力を 感じない
【日本文化学科】					
A. 国際人の第一歩として「日本について知ること」を教育目標に掲げています。民俗・歴史、日本語・日本文学、芸術文化・アートマネジメント、現代文化の4つのフィールドから日本文化を総合的に捉え、日本文化の現代に至る伝統と特質について深く理解し、世界に向けて発信できる能力を培うようカリキュラムを組んでいます。	→	①	②	③	④
【国際コミュニケーション学科】					
B. これからの国際社会で生きていくために必要な、豊かな国際感覚と高いコミュニケーション能力を身に付けることを目指す学科です。これらのことを学ぶために、国際関係、欧米やアジア各地の文化研究、そしてコミュニケーションツールとしての語学教育と教養教育、それらをバランスよく学ぶことができるようカリキュラムを組んでいます。	→	①	②	③	④
【英語コミュニケーション学科】					
C. グローバル化の波を国際平和、国際協調の基盤として積極的に受け止めて、英語によるコミュニケーション能力を鍛え、国際人として広く国内外で活躍できる人物を育成します。2年次における6か月間の海外留学を中核に、英語による高度なコミュニケーション能力と国際的な視野を身につけられるようカリキュラムを組んでいます。	→	①	②	③	④

Q 5 学習院大学「国際文化交流学部」(仮称、設置構想中)が開設された場合、受験を希望しますか。それぞれの学科について、次より一つずつ選択してください。

		第一志望 として受験する	第二志望 として受験する	第三志望以降 として受験する	受験しない
1	国際文化交流学部 日本文化学科	⇒ ①	②	③	④
2	国際文化交流学部 国際コミュニケーション学科	⇒ ①	②	③	④
3	国際文化交流学部 英語コミュニケーション学科	⇒ ①	②	③	④

※第一志望、第二志望は選択する志望順位が重ならないようにご回答ください。

Q 6 Q5で①～③(受験する)を選択した学科についてお答えください。
学習院大学「国際文化交流学部」(仮称、設置構想中)を受験して合格した場合、入学を希望しますか。それぞれの学科について、次より一つずつ選択してください。

		入学する	志望順位が上位の他の志望校が 不合格の場合に入学する	入学しない
1	国際文化交流学部 日本文化学科	⇒ ①	②	③
2	国際文化交流学部 国際コミュニケーション学科	⇒ ①	②	③
3	国際文化交流学部 英語コミュニケーション学科	⇒ ①	②	③

※「入学する」を選んだ学部学科が、1個または0個になるようにご回答ください。

Q 7 最後に全員にお聞きます。
あなたは5～6月に本アンケートと同じ学習院大学「国際文化交流学部」(仮称、設置構想中)に関するアンケートに回答したことがありますか。

- ① 同じアンケートに回答したことはない ② 同じアンケートに回答したことがある

*** 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。***

■共通科目

深く広い教養を身につけるため、三学科に共通の科目を設けています。

教育目標：深い教養、高度な技能、実践的な現場経験を通して、国際社会に貢献できる人材を育てます。

共通科目の一例

伝統文化演習科目群

日本の伝統文化について実践と知識の両面から理解を深めるための科目です。「日本文化の発信」という教育目標実現のために開講しています。

伝統文化演習(書道／華道／茶道／香道／有職故実)

多文化学際科目群

グローバル社会が抱える複雑化した多様な問題を、国際的かつ学際的な視点から考察する力を育成します。

多文化学際科目(英語で学ぶ現代日本／日本研究のトピックス／地域活性化とSDGs／ジェンダー・スタディーズ)など

国際文化交流演習科目群

学外から各分野の第一人者を講師に招き、国際文化交流を実践的に学びます。

国際文化交流演習(国際儀礼／演劇／音楽／映画／美術／シンクタンク／海外語学研修／海外ボランティア)など

特別総合科目群

国際文化交流と密接にかかわる、外交・国際報道・国際ビジネス・環境問題等の第一線で活躍する実務者・専門家から学びます。

特別総合科目(外交官／国際企業／環境問題)など

■取得できる免許・資格

・教員免許状

日本文化学科

中学校・高等学校教諭一種免許状(国語)

国際コミュニケーション学科

中学校・高等学校教諭一種免許状(英語)

英語コミュニケーション学科

中学校・高等学校教諭一種免許状(英語)

・図書館司書

・学芸員資格

■めざせる進路

・一般企業

(サービス業／卸売業・小売業／情報通信業／金融・保険業など)

・中学校・高等学校の教員

・図書館員

・博物館員

・外国人向けの日本語教員

・国家公務員

・地方公務員

・大学院進学 など

■設置概要

修 業 年 限 / 4 年

開 設 時 期 / 令 和 8 年 4 月

入 学 定 員 / 3 5 5 名

開 設 場 所 / 東京都新宿区

学 位 / 学 士

■学生納付金(令和6年度入学者実績)

(単位:円)

費目	納期	第1期 [入学手続時・2年次以降4月]	第2期 [9月]	合計 [年額]	備考
入 学 金		200,000	—	200,000	入学時のみ
授 業 料		542,500	422,500	965,000	在籍料含む
施 設 設 備 費		230,000	—	230,000	
父 母 会 費		5,000	—	5,000	
輔 仁 会 費		7,300	—	7,300	本部会費・支部会費
学 会 費		1,500	—	1,500	
計		986,300	422,500	1,408,800	

※第1期の授業料(542,500円)には、在籍料(120,000円)が含まれています。

※英語コミュニケーション学科は、上記のほか、2年次半年度の海外研修について、往復航空運賃、現地大学授業料、ホームステイ代、保険料、企画料金等の費用(令和5年度実績 240万円程度)が必要となります。なお、2年次の授業料および施設設備費については半年分(令和5年度実績 53万円)が免除となります。

※納付金のほか、資格取得科目(教職課程・司書課程・学芸員課程)および伝統文化演習等実習を行う科目などを履修する場合は、それぞれの履修費および実習費(実費)が必要です。

※納付は、第1期4月、第2期9月の年2回に分けて行います。ただし、2年次以降は、第1期の4月に年額を一度に納入することもできます。

※授業料および施設設備費については、卒業まで同額とします。それ以外の納付金に変更があった場合には、新たに定められた金額を納付するものとします。



戸山キャンパス

〒162-8650 東京都新宿区戸山3-20-1

東京メトロ副都心線「西早稲田」駅下車、3番エレベーター口 徒歩1分

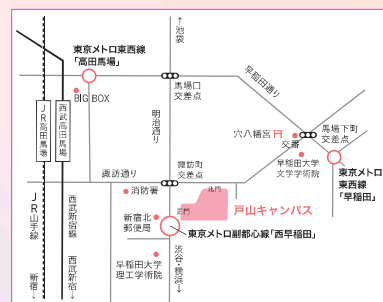
東京メトロ東西線「早稲田」駅下車、徒歩10分

JR山手線・西武新宿線「高田馬場」駅下車、徒歩15分

03-3203-1906

gwc-off@gakushuin.ac.jp

アクセス



令和8年4月、 学習院女子大学は 学習院大学と統合します。

現在の学習院女子大学国際文化交流学部は学習院大学の1学部になる予定です。

国際文化交流学部[※] 共学

日本文化学科[※] 入学定員 140名

国際コミュニケーション学科[※] 入学定員 170名

英語コミュニケーション学科[※] 入学定員 45名

※名称は仮称です。

■記載の内容は現在計画中の予定であり、
変更される可能性があります。



学習院大学との 統合計画

学習院大学と学習院女子大学の2大学を設置する学校法人学習院は、令和5年7月に、単一学部の学習院女子大学の学部を学習院大学の一学部として統合する計画を公表しました。

学習院大学は、法学部、経済学部、文学部、理学部、国際社会科学部の5つの学部で構成されています。統合の結果、最短で令和8年4月に「国際文化交流学部」(仮称)が6つ目の学部として新設されることを構想しています。授業は主に戸山キャンパスで行います。

養成する人材像

日本文化学科

日本文化学科は、日本文化に対する広い知識と深い理解の上に立って、国際感覚と高い言語能力を身に付け、世界に向けて日本文化を発信するとともに、その継承と発展に寄与する人材を育成することをめざします。

国際コミュニケーション学科

国際コミュニケーション学科は、国際関係と異文化に対する広範な知識と深い理解力、併せて高度の言語並びにコミュニケーション能力の習得を通して、国際社会に積極的に貢献する人材を育成することをめざします。

英語コミュニケーション学科

英語コミュニケーション学科は、英語による高度なコミュニケーション能力を有し、豊かな国際的教養と論理的思考力を備え、国際・情報化社会で活躍する人材を育成することをめざします。

国際文化交流学部

どのような人材を養成するのか

国境・民族・文化をこえ、人類の平和と文化の発展を希求し、人類が歩んできた過去及び進むべき未来を研究教授し、その深奥を究めるとともに、社会と手を携えつつ、人格の陶冶と情操の涵養を図り、時代を先導する創造的人材を育成することをめざします。

学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的

関連諸学問に対する高い識見、豊かな教養と地球的視野、文化の交流と相互理解を通じて国際社会に貢献できる能力の習得を目的とします。

国際コミュニケーション学科

学科の特徴

高いコミュニケーション能力と 豊かな国際感覚を培う

国際コミュニケーション学科は、これからの国際社会で生きていくために必要な、豊かな国際感覚と高いコミュニケーション能力を身に付けることを目指す学科です。これらのことを学ぶために、国際関係、欧米やアジア各地の文化研究、そしてコミュニケーションツールとしての語学教育と教養教育、それらをバランスよく学ぶことができるようカリキュラムを組んでいます。

カリキュラム概要

国際コミュニケーション学科では、国際社会で活躍するために必要な知識とコミュニケーション能力、豊かなグローバル感覚を身につけるために、「国際関係」「比較文化・地域研究」「コミュニケーション」などの分野にわたる専門科目群を体系的に編成しています。

1・2年次には、学習の動機付け、基礎能力の育成、問題発見・解決能力、自分の考えを伝える表現力を養うことを目的に、基礎演習、国際関係基礎科目、地域文化系基礎科目などを履修します。全学科に開かれた共通科目として、英語や他の外国語、情報処理、日本語表現法、国際文化交流論、人間関係論、自然環境論、スポーツ・健康科学、海外研修なども履修できます。

3・4年次には、様々な問題の発見と分析および解決能力の習得を図るために、上記3つの分野の専門科目、学生自身の発表と討論による専門演習、外国語演習を履修し、4年次に卒業論文、卒業研究等に取り組むことで、高度なコミュニケーション能力と豊かなグローバル感覚を培い、国際社会で活躍できるスキルを身につけます。



主な科目

国際コミュニケーション基礎演習、国際コミュニケーション演習、国際関係基礎論Ⅰ～Ⅱ、地域研究基礎論Ⅰ～Ⅱ、国際コミュニケーション論、国際関係論Ⅰ(国際関係史)、国際関係論Ⅱ(日欧関係)、国際関係論Ⅲ(日米関係)、国際関係論Ⅳ(将来展望)、国際政治Ⅰ(歴史と現状)、国際経済Ⅰ～Ⅱ、国際法Ⅰ～Ⅱ、金融論、北米文化論、ヨーロッパ文化論、アジア文化論、アメリカ文化論Ⅰ～Ⅱ、イギリス文化論Ⅰ～Ⅱ、ドイツ文化論Ⅰ～Ⅱ、フランス文化論Ⅰ～Ⅱ、イタリア文化論Ⅰ～Ⅱ、東欧文化論、イスラム文化論Ⅰ～Ⅱ、中国文化論、朝鮮文化論、東南アジア文化論Ⅰ～Ⅱ、文化遺産学、外国語演習、卒業研究、卒業論文など

日本文化学科

学科の特徴

日本文化を深く理解し、 世界へ発信できる力を養う

日本文化学科は、国際人の第一歩として「日本について知ること」を教育目標に掲げています。民俗・歴史、日本語・日本文学、芸術文化・アートマネジメント、現代文化の4つのフィールドから日本文化を総合的に捉え、日本文化の現代に至る伝統と特質について深く理解し、世界に向けて発信できる能力を培うようカリキュラムを組んでいます。

カリキュラム概要

日本文化学科では、「日本について知ること」を実現するために、「芸術・思想」「民俗・歴史」「現代社会」「比較文化」の4つのフィールドを総合的、かつ専門的に学習できるように専門科目群を体系的に編成しています。

1・2年次には、学習の動機付け、基礎能力の育成、問題発見・解決能力、自分の考えを伝える表現力を養うことを目的に、基礎演習科目、日本文化基礎科目などを履修します。全学科に開かれた共通科目として、英語や他の外国語、情報処理、日本語表現法、国際文化交流論、人間関係論、自然環境論、スポーツ・健康科学、海外研修なども履修できます。

3・4年次には、日本文化について学びを深めるために、上記4つの分野の専門科目、比較文化研究科目、学生自身の発表と討論による専門演習を履修します。4年次に卒業論文、卒業研究に取り組むことで、日本文化について多面的、専門的な分析を行い、国際社会で活躍できるスキルを身につけます。



主な科目

日本文化基礎演習、日本文化演習、日本生活文化史Ⅰ～Ⅱ(服飾)、日本生活文化史Ⅲ～Ⅳ(食文化)、日本生活文化史Ⅴ～Ⅵ(考古)、近代文化論Ⅰ～Ⅱ、比較文化論Ⅰ(比較日本文化)、比較文化論Ⅱ(文学)、比較文化論Ⅲ(芸術)、比較文化論Ⅳ(考古)、比較文化論Ⅴ(社会)、比較文化論Ⅵ(嗜好)、比較文化論Ⅶ(生活)、比較文化論Ⅷ(工芸)、卒業研究、卒業論文など

英語コミュニケーション学科

学科の特徴

実践的な英語力を身に付けて、 活躍の舞台を世界へ広げる

英語コミュニケーション学科は、グローバル化の波を国際平和、国際協調の基盤として積極的に受け止めて、英語によるコミュニケーション能力を鍛え、国際人として広く国内外で活躍できる人物を育成します。2年次における6か月間の海外留学を中核に、英語による高度なコミュニケーション能力と国際的な視野を身につけられるようカリキュラムを組んでいます。

カリキュラム概要

英語コミュニケーション学科では、英語によるコミュニケーション能力を養うために、「4技能」(読む、書く、聞く、話す)をバランスよく向上させ、アカデミック・レベルの諸能力を習得します。また、国際社会で活躍するための教養と日本文化を基軸とした異文化理解、論理的思考力を養うように専門科目群を体系的に編成しています。

1年次には、学習の動機付け、基礎能力の育成、問題発見・解決能力、自分の考えを伝える表現力を養うことを目的に、基礎演習、英語演習基礎科目、国際関係基礎科目、地域文化系基礎科目を履修します。全学科に開かれた共通科目として、英語や他の外国語、情報処理、日本語表現法、国際文化交流論、人間関係論、自然環境論、スポーツ・健康科学、海外研修なども履修できます。

2年次に半期の留学プログラムを実施し、3・4年次には、英語演習専門科目、学生自身の発表と討論による専門演習、特殊演習、他学科の科目などを履修し、4年次に卒業論文、卒業研究等に取り組むことで、外国文化と国際情勢の知識を培い、国際社会で活躍できるスキルを身につけます。



主な科目

英語コミュニケーション基礎演習、英語コミュニケーション演習、海外研修、Cultural Exchange、TOEIC Basics、TOEIC Skills、Paragraph Writing、Writing Practice、Essay Writing、Writing Skills、英語コミュニケーション特殊演習、卒業研究、卒業論文など

留学(必修)

本学科の特徴的なプログラムとして、2年次に必修科目である「海外研修」を行います。海外の大学に6か月間留学し、語学授業や現地での様々な活動を通じて英語力を高めます。

学習院大学「国際文化交流学部 日本文化学科」の特色に対する魅力度

学習院大学「国際文化交流学部 日本文化学科」の 特色に対する魅力度

【国際文化交流学部 日本文化学科 ターゲット層】

下記の①～③の条件すべてに合致する回答者: 4,269名(回答者全体の21.6%)

- ① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
- ② Q2で「私立」への進学を希望。
- ③ Q3で、「国際文化交流学部 日本文化学科」の学びと関連する学問分野への興味あり
(文学、史学のいずれかに興味あり)



- ・ターゲット層における「国際文化交流学部 日本文化学科」の特色「A.【日本文化学科】国際人の第一歩として「日本について知ること」を教育目標に掲げています。民俗・歴史、日本語・日本文学、芸術文化・アートマネジメント、現代文化の4つのフィールドから日本文化を総合的に捉え、日本文化の現代に至る伝統と特質について深く理解し、世界に向けて発信できる能力を培うようカリキュラムを組んでいます。」に対する魅力度(※)は83.2%である。
- ・同様に、ターゲット層該当者のうち、「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人(第一志望者)における「国際文化交流学部 日本文化学科」の特色Aに対する魅力度は99.4%である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

学習院大学「国際文化交流学部 国際コミュニケーション学科」の 特色に対する魅力度

【国際文化交流学部 国際コミュニケーション学科 ターゲット層】

下記の①～③の条件すべてに合致する回答者: 4,488名(回答者全体の22.7%)

- ① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
- ② Q2で「私立」への進学を希望。
- ③ Q3で、「国際文化交流学部 国際コミュニケーション学科」の学びと関連する
学問分野への興味あり
(国際学、史学のいずれかに興味あり)



- ・ターゲット層における「国際文化交流学部 国際コミュニケーション学科」の特色「B.
【国際コミュニケーション学科】これからの国際社会で生きていくために必要な、豊かな国際感覚と高いコミュニケーション能力を身に付けることを目指す学科です。これらのことを学ぶために、国際関係、欧米やアジア各地の文化研究、そしてコミュニケーションツールとしての語学教育と教養教育、それらをバランスよく学ぶことができるようカリキュラムを組んでいます。」に対する魅力度(※)は87.7%である。
- ・同様に、ターゲット層該当者のうち、「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人(第一志望者)における「国際文化交流学部 国際コミュニケーション学科」の特色Bに対する魅力度は99.0%である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

学習院大学「国際文化交流学部 英語コミュニケーション学科」の特色に対する魅力度

学習院大学「国際文化交流学部 英語コミュニケーション学科」の 特色に対する魅力度

【国際文化交流学部 英語コミュニケーション学科 ターゲット層】

下記の①～③の条件すべてに合致する回答者: 5,846名(回答者全体の29.6%)

- ① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
- ② Q2で「私立」への進学を希望。
- ③ Q3で、「国際文化交流学部 英語コミュニケーション学科」の学びと関連する
学問分野への興味あり
(国際学、文学のいずれかに興味あり)



- ・ターゲット層における「国際文化交流学部 英語コミュニケーション学科」の特色「C.
【英語コミュニケーション学科】グローバル化の波を国際平和、国際協調の基盤として
積極的に受け止めて、英語によるコミュニケーション能力を鍛え、国際人として広く国
内外で活躍できる人物を育成します。2年次における6か月間の海外留学を中核に、
英語による高度なコミュニケーション能力と国際的な視野を身につけられるようカリキ
ュラムを組んでいます。」に対する魅力度(※)は81.7%である。
- ・同様に、ターゲット層該当者のうち、「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回
答した人(第一志望者)における「国際文化交流学部 英語コミュニケーション学科」
の特色Cに対する魅力度は99.2%である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値



卒業決定者 407人

就職希望者 363人

就職内定者 354人

就職希望率 89.2%

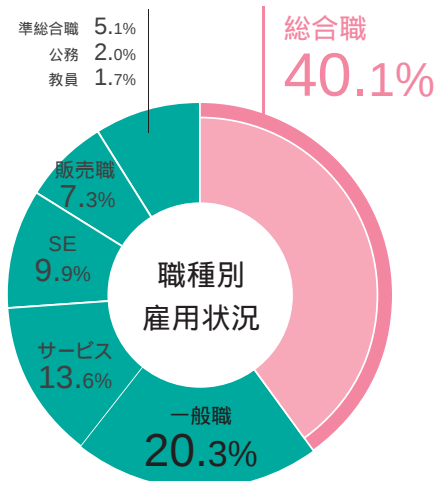
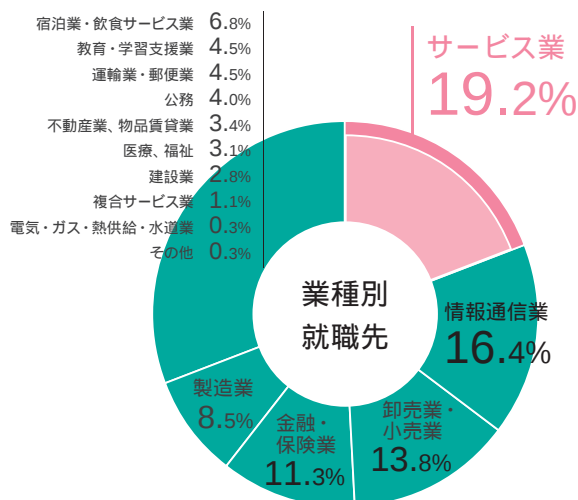
マスコミ掲載記事等

全て2021年 大学通信調べ

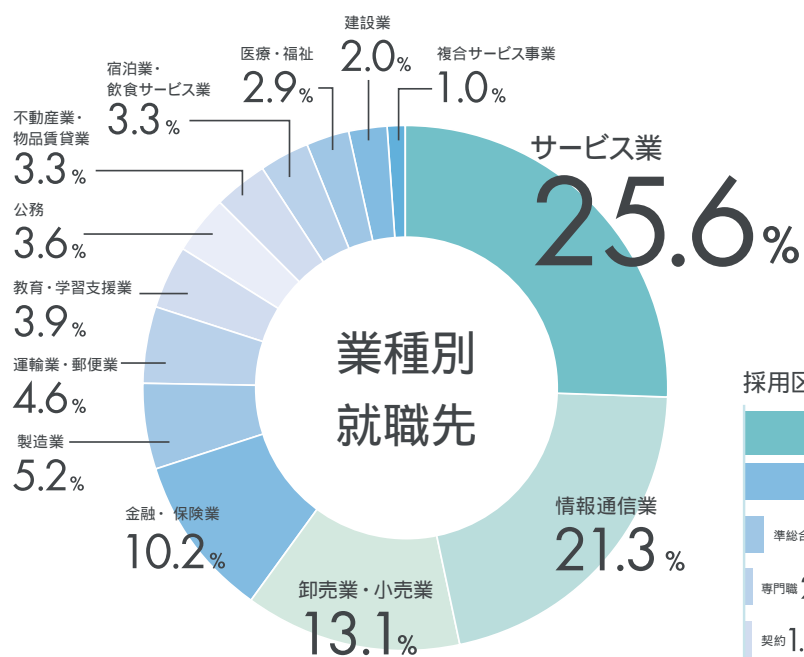
2021年著名400社
実就職率
(卒業生数500人以下の大学)



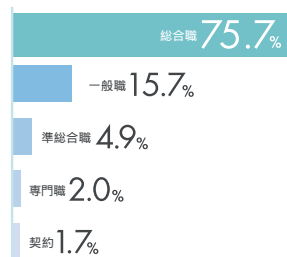
2021年実就職率
(卒業生数400人以上の大学)
学部系統別編(国際系)



就職データ（2022年度）



採用区分別比率



就職実績

卒業生	就職希望者
351名	308名
就職内定者	就職希望率
305名	87.7%

令和5年3月31日現在

マスコミ掲載記事等

2022年著名400社実就職率（卒業生数500人以下の大学）

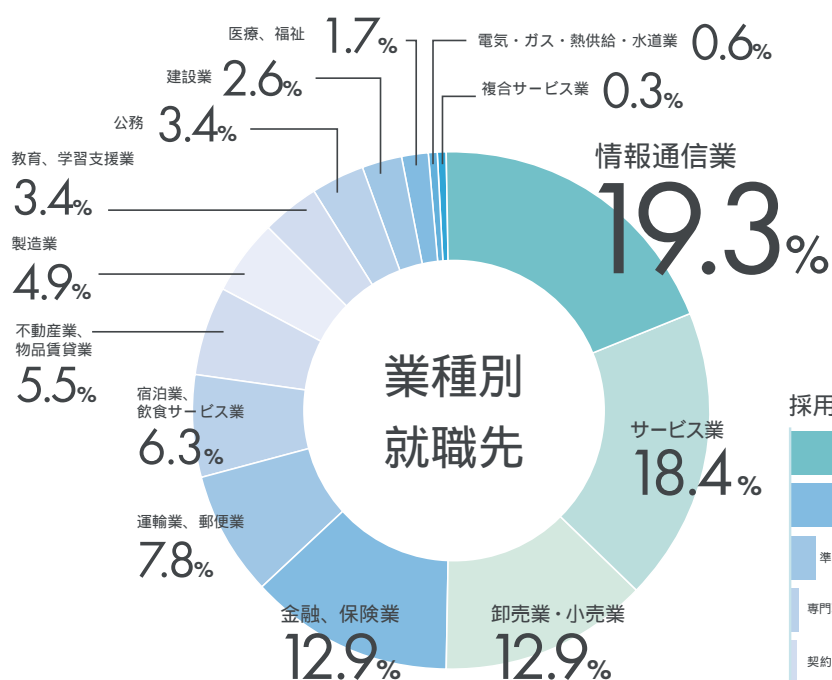
全国女子大 **1** 位

2022年実就職率学部系統別編(国際系)(卒業生数400人以上の大学)

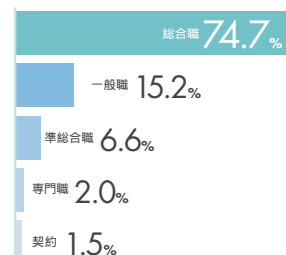
全国女子大 **1** 位

全て2022年大学通信調べ

就職データ（2023年度）



採用区分別比率



就職実績

卒業生

404名

就職希望者

353名

就職内定者

348名

就職希望率

87.4%

令和6年3月31日現在

マスコミ掲載記事等

2023年著名400社実就職率(卒業生数500人以下の大学)

全国女子大 **1**位

2023年実就職率学部系統別編(国際系Ⅰ卒業生数300人以上の学部)

全国女子大 **1**位

全て2023年 大学通信調べ

2023 年 8 月

2018 年度卒業生の皆様へ

学習院女子大学

— 卒業生アンケートへのご協力のお願い —

拝啓 晩夏の候、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本学では建学の精神や人材養成方針を踏まえた教育・研究を実践するとともに、その改善に取り組んでいます。

その一環として、卒業生の皆様に在学中の学びを通じた知識や能力の修得が実社会でどのように役立っているか、また女子大学で学んで良かった点など幅広いご意見を頂くためにアンケートを実施しています。

大変ご多用の時期かと存じますが、これから母校を巣立って行く後輩学生のために、ぜひ率直なご意見をお聞かせ頂きたく、アンケートへのご協力をよろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様のますますのご活躍を祈念致します。

敬具

【実施期間】2023 年 8 月 3 日（木）～ 2023 年 9 月 3 日（日）23 時 59 分

【質問内容】2018 年度に卒業した学科でのご経験・学び についてご回答ください。

【所要時間】5 分程度

【回答方法】以下のいずれかの方法で回答フォームにアクセスの上、ご回答ください。

① QR コードからアクセス

② URL からアクセス



<https://marketing.post-survey.com/gwc2023>

【回答 ID】トップ画面にて以下 ID をご入力ください。 ※ ID に「0」や「1」が含まれている場合は数字です。

「 _____ 」

アルファベットの O・o(オー)やI(エル)は
使用していません。

期間内にご回答いただいた方全員に、

お礼として『在学生がデザインしたオリジナルノベルティ』をお送りします。

(9 月下旬送付予定／お一人一回限り／回答ページにてお礼送付先情報をご入力いただく必要があります)

皆様のご回答は本学の個人情報保護方針及び関連諸規定に基づき適切に管理致します。教育成果の公表等の観点から、集計結果を外部へ公表する場合がございますが、個人が特定される形式での公表は致しません。

【お問合せ先】

学習院女子大学 事務統括部 事務運営課 総務係 / gwc-off@gakushuin.ac.jp

学習院女子大学は、本アンケートの実施を㈱進研アドに委託しております。

ベネッセグループ ㈱進研アド（プライバシーマーク認定企業）マーケティングリサーチ部 担当：石倉

TEL：03-6671-9385（土日祝・年末年始を除く 9:30～17:30）

㈱進研アドは、日本の高等教育を取り巻く環境の変化に対応して、大学、短期大学の学生募集、広報を行う専門機関として活動している会社です。

保証人様へのお願い

ご本人様をご実家を離れていらっしゃる場合は、本紙情報の転送・共有をお願い出来ますと幸いです。

令和5年度卒業生アンケート設問

◆調査項目_15問

卒業学科		
1	あなたが卒業した学習院女子大学の学科をひとつお選びください。	
必須回答		1. 日本文化学科 2. 国際コミュニケーション学科 3. 英語コミュニケーション学科
1-2	本学入学時の入試区分をひとつお選びください。 ※複数の入試を受験した方は、実際に入学に至った入試区分をお答えください。	
必須回答		1. 一般入試A 2. 一般入試B 3. 推薦A（指定校制） 4. 推薦B（公募制） 5. AO入試 6. 海外帰国生徒入試 7. 外国人留学生入試 8. 社会人入試 9. 編入学（3年次）

学部卒業後の進路（就業状況）		
2	現在の就業状況について、あてはまるものをひとつお選びください。	
必須回答		1. 会社員（一般社員） 2. 会社役員・管理職 3. 公務員・団体職員 4. 自営業 5. 自由業・専門職 6. 派遣・契約社員 7. パート・アルバイト 8. 専業主婦 9. 学生（大学） 10. 学生（大学院） 11. 無職 12. その他（ ）

現在の仕事に対する満足度		
3	あなたは、現在の仕事についてどの程度満足していますか。それぞれについて、あてはまるものをひとつお選びください。	
必須回答	①仕事の内容 ②給与や職位・昇進などの処遇 ③上司との人間関係 ④同僚・後輩との人間関係 ⑤ワークライフバランス ⑥仕事を通じて成長できること	1. とても満足している 2. まあ満足している 3. あまり満足していない 4. まったく満足していない Q2で「選択肢1～7」を選んだ方のみ表示 →現在働いている方のみ表示

学生時代の経験			全国値比較可
4	大学時代の次のような活動は、現在のお仕事にどの程度役に立っていますか。それぞれについて、あてはまるものをひとつお選びください。 ※大学に通っていた時代に経験しなかった項目については「経験しなかった」をお選びください。		
必須回答	①ゼミ、研究室活動 ②卒業論文や卒業研究 ③留学 ④サークルや部活動 ⑤社会活動（NPO活動、ボランティアなど） ⑥就職活動 ⑦インターンシップ	1. 大いに役に立っている 2. ある程度役に立っている 3. あまり役に立っていない 4. まったく役に立っていない 5. 経験しなかった Q2で「選択肢1～7」を選んだ方のみ表示 →現在働いている方のみ表示	

学生時代の教育機会			全国値比較可
5	大学教育（授業、ゼミ、研究室、先生からの指導など）を通して、次のような機会はどれくらいありましたか。 それぞれについて、あてはまるものをひとつお選びください。		
必須回答	①実習や体験活動など、学んだ知識を実際に活かす ②異なる学問領域が連携した授業がある ③教科書の枠にとらわれず、教員の自由な知見・見解に触れる ④教育を通して、最先端の研究成果に触れる ⑤学生が協働（グループワークや相互評価など）して学ぶ ⑥少人数で学ぶ ⑦研究テーマの選択において、自主性が尊重される ⑧教員と学生とで双方向のやりとりがある ⑨最新の時事問題や企業の実況などを学ぶ ⑩将来の職業に直結する知識を学ぶ ⑪自分の考えを徹底して深める ⑫試験や課題をやり直すには、相当の努力が求められる ⑬提出した課題や発表に対して、教員からの指導がなされる ⑭研究や論文を進める過程で、教員からきめ細かな指導がなされる ⑮研究や論文を進める過程で、上級生（院生）からアドバイスが受けられる ⑯実社会との接点を感じることができる ⑰自分の適性や将来への関心を知ることができる	1. よくあった 2. たまにあった 3. まったくなかった 4. 覚えていない	

学生時代の身に付いた力			全国値比較可
6	大学生活全体（大学に通っていた時代のあらゆる活動）を通じて、次のようなことはどの程度身についたと思いますか。それぞれについて、あてはまるものをひとつお選びください。		
	必須回答	①人と協力しながらものごとを進める ②自ら先頭に立って行動し、グループをまとめる ③異なる意見や立場をふまえて、考えをまとめる ④自分の知識や考えを文章で論理的に書く ⑤自分で目標を設定し、計画的に行動する ⑥自分の感情を上手にコントロールする ⑦ものごとを批判的・多面的に考える ⑧現状を分析し、問題点や課題を発見する ⑨筋道を立てて論理的に問題を解決する ⑩既存の枠にとらわれず、新しい発想やアイデアを出す ⑪社会や文化の多様性を理解し、尊重する ⑫国際的な視野を身につける ⑬社会活動（ボランティア、NPO活動などを含む）に積極的に参加する ⑭グループの中で責任を持って行動する ⑮なにごとにも粘り強く取り組む姿勢をもつ ⑯自分の考えを相手に伝えるように話す ⑰図や数表を用いて問題を理解し、表現する ⑱統計などデータサイエンスの知識・技能を身につける ⑲学び続ける姿勢をもつ ⑳外国語でコミュニケーションする ㉑必要な情報を収集、整理する 1. かなり身についた 2. ある程度身についた 3. あまり身につけていない 4. まったく身につけていない	

学生時代に身に付けておくべき力			全国値比較可
7	大学生のうちに、次のようなことの習得にどの程度力を入れておくべきだと思いますか。それぞれについて、あてはまるものをひとつお選びください。 ※ご自身の経験に関係なく、現在のお考えをお答えください。		
	必須回答	①人と協力しながらものごとを進める ②自ら先頭に立って行動し、グループをまとめる ③異なる意見や立場をふまえて、考えをまとめる ④自分の知識や考えを文章で論理的に書く ⑤自分で目標を設定し、計画的に行動する ⑥自分の感情を上手にコントロールする ⑦ものごとを批判的・多面的に考える ⑧現状を分析し、問題点や課題を発見する ⑨筋道を立てて論理的に問題を解決する ⑩既存の枠にとらわれず、新しい発想やアイデアを出す ⑪社会や文化の多様性を理解し、尊重する ⑫国際的な視野を身につける ⑬社会活動（ボランティア、NPO活動などを含む）に積極的に参加する ⑭グループの中で責任を持って行動する ⑮なにごとにも粘り強く取り組む姿勢をもつ ⑯自分の考えを相手に伝えるように話す ⑰図や数表を用いて問題を理解し、表現する ⑱統計などデータサイエンスの知識・技能を身につける ⑲学び続ける姿勢をもつ ⑳外国語でコミュニケーションする ㉑必要な情報を収集、整理する 1. とても力を入れるべき 2. まあ力を入れるべき 3. あまり力を入れなくてよい 4. まったく力を入れなくてよい	

資学独自設問			
8	あなたは以下の日本文化学科で身につく力について、大学生活全体（大学時代のあらゆる活動）を通じて、どの程度身についたと思いますか。それぞれについて、あてはまるものをひとつお選びください。		
	必須回答	知識・理解 ①日本文化の伝統や特質に関する広範な知識とすぐれた見識 ②現代にいたる日本の歴史、文化、言語に関する学識を継承していく力 汎用的技能 ③学術上、社会生活上の問題の発見・分析・解決に必要な思考力・判断力・表現力 ④日本文化に関する知識・見識を諸外国・諸地域に向けて的確に発信できる語学力 ⑤現代社会において必要とされる情報コミュニケーションの技能 態度・志向性 ⑥多様な文化と相互理解を図ることができる広い視野 ⑦国際社会で活躍できる教養と品格 ⑧諸文化の価値を認め、適切な敬意を払う力 1. かなり身についた 2. ある程度身についた 3. あまり身につけていない 4. まったく身につけていない	Q1-1で「日本文化学科」を選んだ方のみ表示

資学独自設問			
8	あなたは以下の国際コミュニケーション学科で身につく力について、大学生活全体（大学時代のあらゆる活動）を通じて、どの程度身についたと思いますか。それぞれについて、あてはまるものをひとつお選びください。		
	必須回答	知識・理解 ①国際社会の特質やその多様な文化に関する広範な知識とすぐれた見識 ②国家間、文化間のコミュニケーションに必要な学識を継承していく力 汎用的技能 ③学術上、社会生活上の問題の発見・分析・解決に必要な思考力・判断力・表現力 ④国際社会において、また異文化との間で、的確かつ円滑にコミュニケーションすることができる語学力 ⑤現代社会において必要とされる情報コミュニケーションの技能 態度・志向性 ⑥多様な文化と相互理解を図ることができる広い視野 ⑦国際社会で活躍できる教養と品格 ⑧諸文化の価値を認め、適切な敬意を払う力 1. かなり身についた 2. ある程度身についた 3. あまり身につけていない 4. まったく身につけていない	Q1-1で「国際コミュニケーション学科」を選んだ方のみ表示

貴学独自設問		
8 あなたは以下の英語コミュニケーション学科で身につく力について、大学生活全体（大学時代のあらゆる活動）を通じて、どの程度身についたと思いますか。それぞれについて、あてはまるものをひとつお選びください。		
必須回答		
知識・理解	①国際文化交流の現場で必要とされる実践的で高度な英語力 ②日本文化や異文化の特質に関する広範な知識とすぐれた見識 ③英語によるコミュニケーションに必要な学識を継承していく力	1. かなり身についた 2. ある程度身についた 3. あまり身につけていない 4. まったく身につけていない
汎用的技能	④学術上、社会生活上の問題の発見・分析・解決に必要な思考力・判断力・表現力 ⑤現代社会において必要とされる情報コミュニケーションの技能	
態度・志向性	⑥多様な文化と相互理解を図ることができる広い視野 ⑦国際社会で活躍できる教養と品格 ⑧諸文化の価値を認め、適切な敬意を払う力	Q1-1で「英語コミュニケーション学科」を選んだ方のみ表示

貴学独自設問		
9 あなたは以下の日本文化学科で身につく力が、社会でどの程度重要だと思いますか。それぞれについて、あてはまるものをひとつお選びください。		
必須回答	※ご自身の仕事や活動において重要かではなく、「広く社会で重要か」の観点でお考えください	
知識・理解	①日本文化の伝統や特質に関する広範な知識とすぐれた見識 ②現代にいたる日本の歴史、文化、言語に関する学識を継承していく力 ③学術上、社会生活上の問題の発見・分析・解決に必要な思考力・判断力・表現力	1. とても重要である 2. まあ重要である 3. あまり重要でない 4. まったく重要でない
汎用的技能	④日本文化に関する知識・見識を諸外国・諸地域に向けて的確に発信できる語学力 ⑤現代社会において必要とされる情報コミュニケーションの技能	
態度・志向性	⑥多様な文化と相互理解を図ることができる広い視野 ⑦国際社会で活躍できる教養と品格 ⑧諸文化の価値を認め、適切な敬意を払う力	Q1-1で「日本文化学科」を選んだ方のみ表示

貴学独自設問		
9 あなたは以下の国際コミュニケーション学科で身につく力が、社会でどの程度重要だと思いますか。それぞれについて、あてはまるものをひとつお選びください。		
必須回答	※ご自身の仕事や活動において重要かではなく、「広く社会で重要か」の観点でお考えください	
知識・理解	①国際社会の特質やその多様な文化に関する広範な知識とすぐれた見識 ②国家間、文化間のコミュニケーションに必要な学識を継承していく力 ③学術上、社会生活上の問題の発見・分析・解決に必要な思考力・判断力・表現力	1. とても重要である 2. まあ重要である 3. あまり重要でない 4. まったく重要でない
汎用的技能	④国際社会において、また異文化との間で、的確かつ円滑にコミュニケーションすることができる語学力 ⑤現代社会において必要とされる情報コミュニケーションの技能	
態度・志向性	⑥多様な文化と相互理解を図ることができる広い視野 ⑦国際社会で活躍できる教養と品格 ⑧諸文化の価値を認め、適切な敬意を払う力	Q1-1で「国際コミュニケーション学科」を選んだ方のみ表示

貴学独自設問		
9 あなたは以下の英語コミュニケーション学科で身につく力が、社会でどの程度重要だと思いますか。それぞれについて、あてはまるものをひとつお選びください。		
必須回答	※ご自身の仕事や活動において重要かではなく、「広く社会で重要か」の観点でお考えください	
知識・理解	①国際文化交流の現場で必要とされる実践的で高度な英語力 ②日本文化や異文化の特質に関する広範な知識とすぐれた見識 ③英語によるコミュニケーションに必要な学識を継承していく力	1. とても重要である 2. まあ重要である 3. あまり重要でない 4. まったく重要でない
汎用的技能	④学術上、社会生活上の問題の発見・分析・解決に必要な思考力・判断力・表現力 ⑤現代社会において必要とされる情報コミュニケーションの技能	
態度・志向性	⑥多様な文化と相互理解を図ることができる広い視野 ⑦国際社会で活躍できる教養と品格 ⑧諸文化の価値を認め、適切な敬意を払う力	Q1-1で「英語コミュニケーション学科」を選んだ方のみ表示

貴学に対する気持ち		全国値比較可
10 学習院女子大学について、現在のお気持ちや状況にあてはまるものを、それぞれひとつお選びください。		
必須回答	①卒業生であることを誇らしく感じる ②大学に愛着を持っている ③一生の付き合いとなる友人関係を築くことができた ④学習院女子大学のある地域に愛着を感じる ⑤大学時代の経験は、現在の自分を形成する土台になっている ⑥大学で学んだことが今の人生に役立っていると感じる ⑦進学を考える人にすすめる価値がある	1. とてもあてはまる 2. まああてはまる 3. あまりあてはまらない 4. まったくあてはまらない

学生時代の成長実感		全国値比較可
11 大学時代全体を振り返り、成長実感についてあてはまるものをひとつお選びください。		
必須回答		1. とても実感した 2. まあ実感した 3. あまり実感しなかった 4. まったく実感しなかった

学生生活満足度		
12 大学時代全体を振り返り、学生生活に対する満足度についてあてはまるものをひとつお選びください。		
必須回答		1. とても満足している 2. まあ満足している 3. あまり満足していない 4. まったく満足していない

入学独自設問		
13	大学生のうちに身につけておいて良かった、または身につけておくべきであったと考える知識やスキル、資格などがあればお選びください（いくつでも）。 ※大学の資格課程等ではなく、授業以外の自主的な勉強を通じて身につけておくべきであったものをお答えください。	
必須回答		- 英語運用能力、英語資格試験 （英語以外の）外国語運用能力、同資格試験 - データサイエンス関係資格（統計検定、データサイエンティスト検定等） IT関連の知識、PCスキル、MOS（Microsoft Office Specialist）等 - ビジネスマナー、秘書検定 - 簿記 - ファイナンシャルプランナー - 公認会計士 - 社会調査士 - その他（ ） - 特になし

専学独自設問		
14	学園院女子大学のペラルアーツ教育は、卒業後にどのように活かされていますか。その内容を具体的にご記入ください。 (例：教養を身につけたことにより、ビジネスの会話で活かされている。)	
必須回答		自由記述

国文学部自設問		
15	共学ではなく女子大学で学んで良かったと感じる点について、具体的に記入ください。 (例: 女性のキャリアについて考えるのに役立つ内容の授業を受講できた。) (例: 部活やゼミで性別にとらわれずやりたいことに挑戦できた経験が、卒業後に生かされています。)	
必須回答		自由記述

1（書類等の題名）

学習院大学 国際文化交流学部「設置の趣旨等を記載した書類」添付資料
【資料9】29 及び 30 ページ

2（出典）

株式会社進研アド

3（引用範囲）

「「学習院女子大学 卒業生アンケート報告書」令和5年度」（株式会社進研アド）
（16 ページ・20 ページ）

- ・【卒業生の声】リベラルアーツ教育の社会における活用シーン
- ・身についた力

4（その他の説明）

特になし。

履修状況

—

2023 年度卒業生（日文全体）科目群ごとの履修状況（単位修得科目数）

科目群	1 年生		2 年生		2 年生までの計		3 年生		4 年生		4 年生までの計	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期		1 人 当たり 平均	春学期	秋学期	春学期	秋学期		1 人 当たり 平均
日本文化基礎演習科目群	153	150	151	18	472	3.05	2	1	2	4	481	3.10
日本文化基礎科目群	358	457	227	208	1250	8.06	123	92	54	33	1552	10.01
日) 民俗・歴史系科目群			171	277	448	2.89	96	57	15	16	632	4.08
日) 文学・芸術・思想系科目群		19	31	14	64	0.41	30	71	19	2	186	1.20
日) 芸術・思想系科目群			223	203	426	2.75	206	101	56	21	810	5.23
日) 現代社会系科目群			127	168	295	1.90	265	112	47	23	742	4.79
日) 比較文化研究科目群					0	0.00	71	79	18	9	177	1.14
日本文化専門演習科目群					0	0.00	2	2	2	2	8	0.05
日本文化演習					0	0.00	150	151	155	153	609	3.93
卒業研究・卒業論文					0	0.00				156	156	1.01
外国語科目 1 群	301	301	233	236	1071	6.91	3	5	9	10	1098	7.08
情報技術科目群	81	142	62	56	341	2.20	4	14	1	6	366	2.36
日本語表現法科目群	64	43	20	26	153	0.99	20	1	3		177	1.14
日本語教員養成講座科目群	1	1	3	4	9	0.06	20	16	3	4	52	0.34
特別総合科目群	33	76	65	49	223	1.44	78	26	20	3	350	2.26
国際文化交流論科目群	28	33	35	9	105	0.68	23	8	5	7	148	0.95
国際文化交流演習科目群	30	29	20	62	141	0.91	5	41	3	10	200	1.29
共通基礎科目群	147	83	85	36	351	2.26	80	8	11	8	458	2.95
人間・環境系科目群	121	179	64	153	517	3.34	49	74	20	13	673	4.34
多文化学際科目群					0	0.00			6	3	9	0.06
外国語科目 2 群	48	23	7	4	82	0.53	10	1	1		94	0.61
スポーツ・健康科学演習科目群	2	33	5	8	48	0.31	15	7	2		72	0.46
伝統文化演習科目群	10	33	32	33	108	0.70	32	21	18	13	192	1.24
生活文化演習科目群		6	1	4	11	0.07	6	3	1	2	23	0.15
社会演習科目群			11	1	12	0.08	8		3		23	0.15
国) 英語圏文化基礎科目群	4	4	1	4	13	0.08	1				14	0.09
国) 英語圏文化専門科目群			8	6	14	0.09	16	9	4	1	44	0.28
国) 国際関係基礎科目群	8	29	13	18	68	0.44	38	12	7	2	127	0.82
国) 国際関係専門科目群			37	70	107	0.69	56	32	11	6	212	1.37
国) 地域文化系基礎科目群	94	69	70	46	279	1.80	64	21	10	5	379	2.45
国) 地域文化系専門科目群			30	33	63	0.41	56	35	22	16	192	1.24
教職課程科目群	32	61	55	38	186	1.20	69	44	2	46	347	2.24
学芸員課程科目群	44	21	26	19	110	0.71	24	23	12	17	186	1.20
司書課程科目群		10	40	24	74	0.48	51	33	10	5	173	1.12
データサイエンス教育専門科目					0	0.00			1	2	3	0.02
その他					0	0.00	21	21	11	7	60	0.39
総計	1559	1802	1853	1827	7041	45.43	1694	1121	564	605	11025	71.13

履修状況

2023 年度卒業生（国コミ全体）科目群ごとの履修状況（単位修得科目数）

	1 年生		2 年生		2 年生までの計		3 年生		4 年生		4 年生までの計	
科目群	春学期	秋学期	春学期	秋学期	1 人 当たり 平均	春学期	秋学期	春学期	秋学期	1 人 当たり 平均	春学期	秋学期
国際コミュニケーション基礎演習科目群	195	193	192	198	778	3.95	4	5	1	788	4.00	
国）国際関係基礎科目群	144	154	81	133	512	2.60	59	34	12	14	631	3.20
国）地域文化系基礎科目群	270	155	254	70	749	3.80	134	27	37	5	952	4.83
国）英語圏文化基礎科目群	35	65	15	33	148	0.75	4	15	1	4	172	0.87
国）英語演習基礎科目群			190	196	386	1.96	7	10		2	405	2.06
国）国際関係専門科目群			209	239	448	2.27	338	219	58	46	1109	5.63
国）地域文化系専門科目群			339	392	731	3.71	360	273	107	31	1502	7.62
国）英語圏文化専門科目群			47	44	91	0.46	65	59	10	24	249	1.26
国）外国語演習専門科目群					0	0.00	186	180	24	34	424	2.15
国際コミュニケーション演習					0	0.00	176	176	181	181	714	3.62
卒業研究・卒業論文					0	0.00			3	179	182	0.92
外国語科目 1 群	388	390	303	297	1378	6.99	8	12	2	3	1403	7.12
情報技術科目群	123	179	60	44	406	2.06	4	17	8	8	443	2.25
日本語表現法科目群	77	67	22	30	196	0.99	17	3	2		218	1.11
特別総合科目群	65	109	76	56	306	1.55	94	18	4		422	2.14
国際文化交流論科目群	82	53	50	24	209	1.06	28	8	11	10	266	1.35
国際文化交流演習科目群	27	80	13	108	228	1.16	2	59	12	17	318	1.61
共通基礎科目群	178	179	70	46	473	2.40	90	35	23	6	627	3.18
人間・環境系科目群	136	287	93	110	626	3.18	66	71	19	10	792	4.02
外国語科目 2 群	135	68	32	19	254	1.29	17	5	7		283	1.44
スポーツ・健康科学演習科目群	1	32	15	13	61	0.31	5	6	4	3	79	0.40
伝統文化演習科目群	14	45	26	26	111	0.56	31	15	7	12	176	0.89
生活文化演習科目群	1	4	3		8	0.04	2	2	1	1	14	0.07
社会演習科目群			11	3	14	0.07	8		5		27	0.14
日）芸術・思想系科目群			24	15	39	0.20	35	12	11	7	104	0.53
日）現代社会系科目群			47	60	107	0.54	90	21	9	10	237	1.20
日）比較文化研究科目群					0	0.00	11	15	4	12	42	0.21
日）文学・芸術・思想系科目群		1	1	1	3	0.02	4	10	3	1	21	0.11
日）民俗・歴史系科目群			23	45	68	0.35	46	19	6	6	145	0.74
日本文化基礎科目群	38	151	58	58	305	1.55	38	30	17	8	398	2.02
英語コミュニケーション英語演習専門科目群					0	0.00	2	1			3	0.02
英）特殊演習					0	0.00			1		1	0.01
教職課程科目群	24	47	50	27	148	0.75	68	21		41	278	1.41
学芸員課程科目群	16	8	5	1	30	0.15	2	4	1	2	39	0.20
司書課程科目群		4	5		9	0.05	6	11	3	5	34	0.17
日本語教員養成講座科目群	2	1	2	3	8	0.04	10	6	5	5	34	0.17
データサイエンス教育専門科目					0	0.00			8	6	14	0.07
多文化学際科目群					0	0.00			6	5	11	0.06
その他			1		1	0.01	17	5	19	4	46	0.23
総計	1951	2272	2317	2291	8831	44.83	2034	1404	631	703	13603	69.05

履修状況

2023 年度卒業生（英コミ全体）科目群ごとの履修状況（単位修得科目数）

	1 年生		2 年生		2 年生までの計		3 年生		4 年生		4 年生までの計	
科目群	春学期	秋学期	春学期	秋学期	1 人 当たり 平均		春学期	秋学期	春学期	秋学期	1 人 当たり 平均	
英語コミュニケーション基礎演習科目群	46	46	68	70	230	5.00	3	1	1	3	238	5.17
英語コミュニケーション英語演習基礎科目群	137	135	121	110	503	10.93	8	8	6	4	529	11.50
国）国際関係基礎科目群	15	11		6	32	0.70	10	7	7	5	61	1.33
国）英語圏文化基礎科目群	3	19	4		26	0.57	2	5		1	34	0.74
国）地域文化系基礎科目群	18	8	17	8	51	1.11	29	7	18	3	108	2.35
国）国際関係専門科目群			10	7	17	0.37	31	15	6	1	70	1.52
国）英語圏文化専門科目群				1	1	0.02	20	15	3	2	41	0.89
国）地域文化系専門科目群			9	16	25	0.54	44	23	7	5	104	2.26
英語コミュニケーション専門演習科目群					0	0.00	79	77	37	26	219	4.76
英語コミュニケーション英語演習専門科目群					0	0.00	93	82	18	4	197	4.28
英）特殊演習					0	0.00	8		2		10	0.22
卒業研究・卒業論文					0	0.00			1	24	25	0.54
特別総合科目群	1	12	9	13	35	0.76	45	6	11	5	102	2.22
国際文化交流論科目群	9	9	6	4	28	0.61	12	6	5	1	52	1.13
国際文化交流演習科目群		10		4	14	0.30	4	23	4	11	56	1.22
共通基礎科目群	15	5	16	13	49	1.07	43	19	30	13	154	3.35
人間・環境系科目群	3	42	10	15	70	1.52	23	30	26	26	175	3.80
外国語科目 1 群	138	138	25	22	323	7.02			2		325	7.07
情報技術科目群	38	47	3	1	89	1.93	3	4	1	2	99	2.15
スポーツ・健康科学演習科目群		5	4		9	0.20	5	3	1	1	19	0.41
外国語科目 2 群	7	3	1		11	0.24	5	1	4	2	23	0.50
伝統文化演習科目群	1	2	1	4	8	0.17	8	2	4	5	27	0.59
社会演習科目群			1		1	0.02	4	1	1		7	0.15
生活文化演習科目群				1	1	0.02	1				2	0.04
日本文化基礎科目群	4	9	3	3	19	0.41	2	4	1	1	27	0.59
日）芸術・思想系科目群					0	0.00	3		2	2	7	0.15
日）現代社会系科目群					0	0.00	5	2		1	8	0.17
日）比較文化研究科目群					0	0.00	1				1	0.02
日）文学・芸術・思想系科目群					0	0.00	1	2	1	1	5	0.11
日）民俗・歴史系科目群			6		6	0.13	6	2	2	1	17	0.37
日本語教員養成講座科目群				2	2	0.04	1	1	1		5	0.11
日本語表現法科目群	15	13	1	7	36	0.78	12	1	1		50	1.09
日本文化専門科目群				1	1	0.02					1	0.02
教職課程科目群	10	26	12		48	1.04	20	11	3	11	93	2.02
学芸員課程科目群					0	0.00			1		1	0.02
データサイエンス教育専門科目					0	0.00			2	2	4	0.09
多文化学際科目群					0	0.00			11	3	14	0.30
その他					0	0.00	4	3	2	4	13	0.28
総計	460	540	327	308	1635	35.54	535	361	222	170	2923	63.54

A-1表: 日本文化学科履修方法一覧

区分		科目群名		必修		必修選択		合計		総単位数		
				科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数			
必修・必修選択科目	専門科目	基礎科目群	日本文化基礎演習科目群				3	6	11	22	66	
			日本文化基礎科目群				8	16				
		発展科目群	日本文化専門科目群＊1	民俗・歴史系科目群				13	26	19		44
				文学・芸術・思想系科目群								
				現代社会系科目群								
			指定された他学科専門科目＊1									
			比較文化研究科目群＊2				1	2				
			日本文化専門演習科目群		4	8						
			卒業研究・卒業論文		1	8						
	共通科目	外国語科目1群		7	14			18	36	36		
		情報技術科目群				2	4					
		日本語表現法科目群				1	2					
		特別総合科目群 国際文化交流論科目群 国際文化交流演習科目群				3	6					
		共通基礎科目群				2	4					
		人間・環境系科目群				2	4					
		多文化学際科目群				1	2					
自由選択科目	共通科目	外国語科目2群 スポーツ・健康科学演習科目群 伝統文化演習科目群 生活文化演習科目群 社会演習科目群 日本語教員養成講座専門科目群 データサイエンス教育プログラム専門科目群 共通科目の必修・必修選択科目として必要な36単位を超える共通科目										
		専門他	専門科目として必要な66単位を超える日本文化学科の専門科目 国際コミュニケーション学科の専門科目 英語コミュニケーション学科の専門科目									
	その他	その他、他大学・他学部等の授業科目等を一定の範囲内で認定										
				総計134単位以上								

*1 A-2表に従って履修すること。

*2 日本語・日本文学コースの学生は比較文化論Ⅱ(文学)を必修とする。

A-2表: 日本文化学科履修方法付表

選択コース	日本文化専門科目・指定された他学科専門科目（必修選択）	合計	
		科目数	単位数
民俗・歴史コース	ア～ウから13科目以上履修し計26単位以上を修得すること。 ア 民俗・歴史系科目群の全科目 イ 文学・芸術・思想系科目群のうち次の科目 形象文化論Ⅰ～Ⅵ 日本思想研究Ⅰ～Ⅵ ウ 指定された他学科専門科目のうち次の科目 文化人類学Ⅰ・Ⅱ 比較道具論 比較居住文化論	13	26
日本語・日本文学コース	エから3科目以上履修し計6単位以上修得すること。 オから10科目以上履修し計20単位以上修得すること。 エ 文学・芸術・思想系科目群および指定された他学科専門科目のうち次の科目 日本語学Ⅲ、言語学Ⅰ・Ⅱ、社会言語学Ⅰ・Ⅱ オ 文学・芸術・思想系科目群のうち次の科目 日本文学論Ⅰ～Ⅴ、日本文学研究Ⅰ～Ⅴ、中国文学論Ⅰ・Ⅱ		
芸術文化・アートマネジメントコース	カ～ケから13科目以上履修し計26単位以上修得すること。 カ 文学・芸術・思想系科目群のうち次の科目 形象文化論Ⅰ～Ⅵ 身体文化論Ⅰ・Ⅱ 日本思想研究Ⅰ～Ⅵ キ 民俗・歴史系科目群のうち次の科目 歴史資料論Ⅰ～Ⅳ ク 現代社会系科目群のうち次の科目 現代文化論Ⅰ～Ⅶ メディア論 ケ 指定された他学科専門科目のうち次の科目 マーケティング 経営学Ⅰ・Ⅱ 比較音楽論Ⅰ・Ⅱ 文化遺産学 日本文化発信英語Ⅰ・Ⅱ		
現代文化コース	コ～スから13科目以上履修し計26単位以上修得すること。 コ 現代社会系科目群の全科目 サ 文学・芸術・思想系科目群のうち次の科目 形象文化論Ⅰ～Ⅵ 身体文化論Ⅰ・Ⅱ シ 民俗・歴史系科目群のうち次の科目 民俗文化論Ⅲ・Ⅳ 日本生活文化論Ⅳ ス 指定された他学科専門科目のうち次の科目 メディアコミュニケーション論Ⅰ～Ⅲ		

B-1表:国際コミュニケーション学科履修方法一覧(括弧内はジェネラルコース)

区分		科目群名		必修		必修選択		合計		総単位数
				科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	
必修・必修選択科目	専門科目	基礎科目群	国際コミュニケーション基礎演習科目群	4	8			14	28	72
			国際関係基礎科目群 地域文化系基礎科目群 英語圏文化基礎科目群			8	16			
			英語演習基礎科目群	2	4					
		発展科目群	国際関係専門科目群＊ 地域文化系専門科目群＊ 英語圏文化専門科目群＊			12 (18)	24 (36)	19 (22)	44	
			指定された他学科専門科目＊							
			外国語演習専門科目群	2 (4)	4 (8)					
			国際コミュニケーション専門演習科目群	4 (0)	8 (0)					
	卒業研究・卒業論文	1 (0)	8 (0)							
	共通科目	外国語科目1群	7	14			18	36	36	
		情報技術科目群			2	4				
		日本語表現法科目群			1	2				
		特別総合科目群 国際文化交流論科目群 国際文化交流演習科目群			3	6				
		共通基礎科目群			2	4				
		人間・環境系科目群			2	4				
多文化学際科目群				1	2					
自由選択科目	共通科目	外国語科目2群 スポーツ・健康科学演習科目群 伝統文化演習科目群 生活文化演習科目群 社会演習科目群 日本語教員養成講座専門科目群 データサイエンス教育プログラム専門科目群 共通科目の必修・必修選択科目として必要な36単位を超える共通科目								
		専門科目として必要な72単位を超える国際コミュニケーション学科の専門科目 日本文化学科の専門科目 英語コミュニケーション学科の専門科目								
	その他	その他、他大学・他学部等の授業科目等を一定の範囲内で認定								
				総計134単位以上						

* B-2表に従って履修すること。

B-2表：国際コミュニケーション学科履修方法付表

選択コース	国際関係専門科目群・地域文化系専門科目群・英語圏文化専門科目群・指定された他学科専門科目（必修選択）	合計	
		科目数	単位数
国際関係コース	アから8科目以上履修し計16単位以上修得すること。 イ・ウから4科目以上履修し計8単位以上修得すること。 ア 国際関係専門科目群の全科目 イ 地域文化系専門科目群の全科目 ウ 英語圏文化専門科目群のうち次の科目 アメリカ文化論Ⅰ・Ⅱ イギリス文化論Ⅰ・Ⅱ オセアニア文化論	12	24
地域文化コース	エ・オから8科目以上履修し計16単位以上修得すること。 カ・キから4科目以上履修し計8単位以上修得すること。 エ 地域文化系専門科目群の全科目 オ 英語圏文化専門科目群の全科目 カ 国際関係専門科目群の全科目 キ 次の他学科専門科目 日本文化政策論Ⅰ・Ⅱ 比較文化論Ⅰ～Ⅶ・Ⅹ		
英語圏文化コース	クから①～③の要件をすべて満たして6科目以上履修し計12単位以上修得すること。 ケから6科目以上履修し計12単位以上修得すること。 ク 英語圏文化専門科目群のうち次の科目 ①英語学Ⅲ・Ⅳ、日本文化発信英語Ⅰ・Ⅱから2科目以上履修し計4単位以上修得すること ②アメリカ文化論Ⅰ・Ⅱ、イギリス文化論Ⅰ・Ⅱから2科目以上履修し計4単位以上修得すること ③アメリカ文学論、アメリカ文学研究、イギリス文学論、イギリス文学研究から2科目以上履修し計4単位以上修得すること ケ 英語圏文化専門科目群のうちクとして単位修得していない科目		
ジェネラルコース	サ～セから18科目以上履修し計36単位以上修得すること。 サ 国際関係専門科目群の全科目 シ 地域文化系専門科目群の全科目 ス 英語圏文化専門科目群の全科目 セ 次の他学科専門科目 英語コミュニケーション特殊演習Ⅶ 英語コミュニケーション特殊演習Ⅷ Newspaper English A・B 日本文化政策論Ⅰ・Ⅱ 比較文化論Ⅰ～Ⅶ、Ⅹ	18	36

C-1表:英語コミュニケーション学科履修方法一覧

区分		科目群名		必修		必修選択		合計				
				科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数			
必修・必修選択科目	専門科目	英語コミュニケーション基礎演習科目群		英語コミュニケーション基礎演習				3	6	①35 ②38	90	
				Cultural Exchange		1	2					
				海外研修		1	16					
		英語コミュニケーション英語演習基礎科目群		10	20	1	2					
		国際コミュニケーション学科・国際関係基礎科目群 国際コミュニケーション学科・地域文化系基礎科目群 国際コミュニケーション学科・英語圏文化基礎科目群				4	8					
		国際コミュニケーション学科・国際関係専門科目群 国際コミュニケーション学科・地域文化系専門科目群 国際コミュニケーション学科・英語圏文化専門科目群				4	8					
		英語コミュニケーション英語演習専門科目群				4	8					
		英語コミュニケーション専門演習科目群		特殊演習				2	4			
		①	英語コミュニケーション専門演習科目群		英語コミュニケーション演習		4	8				
			卒業研究・卒業論文		1	8						
	共通科目		英語コミュニケーション英語演習専門科目群				2	4				
			英語コミュニケーション専門演習科目群		特殊演習							
		②	特別総合科目群 国際文化交流論科目群 国際文化交流演習科目群 共通基礎科目群 人間・環境系科目群 多文化学際科目群				6	12				
			外国語科目1群		7	14			19	38		
			情報技術科目群				2	4				
			日本語表現法科目群				1	2				
			特別総合科目群 国際文化交流論科目群 国際文化交流演習科目群				3	6				
			共通基礎科目群				3	6				
			人間・環境系科目群				2	4				
			多文化学際科目群				1	2				
自由選択科目	共通科目	外国語科目2群 スポーツ・健康科学演習科目群 伝統文化演習科目群 生活文化演習科目群 社会演習科目群 日本語教員養成講座専門科目群 データサイエンス教育プログラム専門科目群 共通科目の必修・必修選択科目として必要な38単位を超える共通科目										
		専門 他	専門科目として必要な90単位を超える英語コミュニケーション学科の専門科目 国際コミュニケーション学科の専門科目 日本文化学科の専門科目									
	その他	その他、他大学・他学部等の授業科目等を一定の範囲内で認定										
				総計134単位以上								

①専門演習選択者 ②R.C.C.選択者

【日本文化学科 民俗・歴史コース履修計画モデル】

区分		科目群名	配当年次 (学年)	必修		選択		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		科目数	単位数			
				科目	単位	科目	単位	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期					
必修・必修選択科目	専門科目	日本文化基礎演習科目群	1・2			3	6	基礎演習 (2)	基礎演習 (2)	基礎演習 (2)							30	66		
		日本文化基礎科目群	1・2			8	16	8 科目 (16)												
		日本文化専門科目群	(1)・2・3・4			13	26		13科目 (26) 以下の科目から13科目以上履修し26単位以上修得すること。 2年次・3年次の各学期で、3科目もしくは4科目程度履修することが望ましい。 ・ 民俗・歴史系科目群 全科目 ・ 文学・芸術・思想系科目群 形象文化論 ~ 日本思想研究 ~ ・ 指定された他学科専門科目 文化人類学											
								比較文化研究科目群	3・4			1	2							比較文化論 (2)
	日本文化専門演習科目群	日本文化専門演習	3・4	4	8						日本文化演習 (2)	日本文化演習 (2)	日本文化演習 (2)	日本文化演習 (2)						
		卒業論文・卒業研究	4	1	8									卒業論文・卒業研究 (8)						
	共通科目		外国語科目1群	1・2	7	14		BASIC LISTENING (2)	NEWS LISTENING (2)	SPEAKING PRACTICE (2)	SPEAKING SKILLS (2)								18	36
								BASIC READING (2)	READING & WRITING (2)	INTENSIVE READING & WRITING (2)										
情報技術科目群			1・2・3・4			2	4	情報リテラシー (2)	表計算ツールとデータ分析 (2)											
日本語表現法科目群			1・2・3・4			1	2	日本語表現法 1 科目 (2)												
特別総合科目群								3 科目 (6)												
国際文化交流論科目群			1・2・3・4			3	6													
国際文化交流演習科目群																				
共通基礎科目群			1・2・3・4			2	4	2 科目 (4)												
人間・環境系科目群			1・2・3・4			2	4	2 科目 (4)												
多文化学際科目群	1・2・3・4			1	2	1 科目 (2)														
自由選択科目								32単位以上											32 単位以上	
授業科目数 (目安)								10 ~ 12	10 ~ 12	10 ~ 12	10 ~ 12	9 ~ 12	9 ~ 12	4 ~ 6	2 ~ 3	134 単位以上				
修得単位数 (目安)								20 ~ 24	20 ~ 24	20 ~ 24	20 ~ 24	18 ~ 24	18 ~ 24	8 ~ 12	10 ~ 12					

【日本文化学科 日本語・日本文学コース履修計画モデル】

区分		科目群名		配当年次 (学年)	必修		選択		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		科目数	単位数		
					科目	単位	科目	単位	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	合計	
必修・必修選択科目	専門科目	日本文化基礎演習科目群		1・2			3	6	基礎演習 (2)	基礎演習 (2)	基礎演習 (2)							30	66	
		日本文化基礎科目群		1・2			8	16	日本語学 (2)	日本語学 (2)	日本文学史 (2)	日本文学史 (2)								
		日本文化専門科目群	民俗・歴史系科目群	(1)・2・3・4	13	26			民俗文化論 (2)		民俗文化論 (2)									
									比較民俗文化論 (2)											
			文学・芸術・思想系科目群				言語学 (2)	言語学 (2)	日本文学論 (2)	日本文学研究 (2)	日本文学論 (2)	日本文学研究 (2)								
							社会言語学 (2)	社会言語学 (2)	日本文学論 (2)	日本文学研究 (2)	日本文学論 (2)	日本文学研究 (2)								
									中国文学論 (2)	日本文学論 (2)	中国文学論 (2)		日本文学研究 (2)							
											日本語学 (2)	日本思想研究 (2)								
		比較文化研究科目群		3・4			1	2					比較文化論 (2)							
		日本文化専門演習科目群	日本文化専門演習	3・4	4	8						日本文化演習 (2)	日本文化演習 (2)	日本文化演習 (2)	日本文化演習 (2)					
			卒業論文・卒業研究	4	1	8														卒業論文・卒業研究(8)
	共通科目	外国語科目 1 群		1・2	7	14			BASIC LISTENING (2)	NEWS LISTENING (2)	SPEAKING PRACTICE (2)	SPEAKING SKILLS (2)						18	36	
									BASIC READING (2)	READING & WRITING (2)	INTENSIVE READING & WRITING(2)									
		情報技術科目群		1・2・3・4			2	4	情報リテラシー (2)	表計算ツールとデータ分析 (2)										
		日本語表現法科目群		1・2・3・4			1	2	日本語表現法 1 科目 (2)*											
		特別総合科目群							3 科目 (6)											
		国際文化交流論科目群		1・2・3・4			3	6												
		国際文化交流演習科目群																		
		共通基礎科目群		1・2・3・4			2	4	日本国憲法 (2)											
		人間・環境系科目群		1・2・3・4			2	4	2 科目 (4)											
	多文化学際科目群		1・2・3・4			1	2	1 科目 (2)												
自由選択科目								伝統文化演習 (書道) (2)		スポーツ・健康科学演習 (2)							32 単位以上			
授業科目数 (目安)								10 ~ 12	10 ~ 12	10 ~ 12	10 ~ 12	9 ~ 12	9 ~ 12	4 ~ 6	2 ~ 3	134 単位以上				
修得単位数 (目安)								20 ~ 24	20 ~ 24	20 ~ 24	20 ~ 24	18 ~ 24	18 ~ 24	8 ~ 12	10 ~ 12					

* 教職課程履修者は、「日本語表現法」を履修すること。「中国文学論」および「中国文学論」は、隔年開講のため計画的に履修すること。

【日本文化学科 芸術文化・アートマネジメントコース履修計画モデル】

区分		科目群名	配当年次 (学年)	必修	選択	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		科目数	単位数		
						春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期				
				科目:単位	科目:単位	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)	合計			
必修・必修選択科目	専門科目	日本文化基礎演習科目群	1・2		3 6	基礎演習 (2)	基礎演習 (2)	基礎演習 (2)						30	66		
		日本文化基礎科目群	1・2		8 16	8 科目 (16)											
		日本文化専門科目群	(1)・2・3・4		13 26			13科目 (26) 以下の科目から13科目以上履修し26単位以上修得すること。 2年次・3年次の各学期で、3科目もしくは4科目程度履修することが望ましい。 ・文学・芸術・思想系科目群 形象文化論 ~ 身体文化論 ・ 日本思想研究 ~ ・民俗・歴史系科目群 歴史資料論 ~ ・現代社会系科目群 現代文化論 ~ メディア論 ・指定された他学科専門科目 マーケティング 経営学 ・ 比較音楽論 ・ 文化遺産学 日本文化発信英語 ・									
						比較文化研究科目群	3・4		1 2								比較文化論 (2)
		日本文化専門演習科目群	日本文化専門演習	3・4	4 8						日本文化演習 (2)	日本文化演習 (2)	日本文化演習 (2)			日本文化演習 (2)	
	卒業論文・卒業研究		4	1 8												卒業論文・卒業研究 (8)	
	共通科目	外国語科目 1 群	1・2	7 14		BASIC LISTENING (2)	NEWS LISTENING (2)	SPEAKING PRACTICE (2)	SPEAKING SKILLS (2)					18	36		
						BASIC READING (2)	READING & WRITING (2)	INTENSIVE READING & WRITING (2)									
		情報技術科目群	1・2・3・4		2 4	情報リテラシー (2)	表計算ツールとデータ分析 (2)										
		日本語表現法科目群	1・2・3・4		1 2	日本語表現法 1 科目 (2)											
		特別総合科目群															
		国際文化交流論科目群	1・2・3・4		3 6	3 科目 (6)											
国際文化交流演習科目群																	
共通基礎科目群		1・2・3・4		2 4	2 科目 (4)												
自由選択科目	人間・環境系科目群	1・2・3・4		2 4	2 科目 (4)												
	多文化学際科目群	1・2・3・4		1 2	1 科目 (2)												
					32単位以上										32 単位以上		
授業科目数 (目安)						10 ~ 12	10 ~ 12	10 ~ 12	10 ~ 12	9 ~ 12	9 ~ 12	4 ~ 6	2 ~ 3	134 単位以上			
修得単位数 (目安)						20 ~ 24	20 ~ 24	20 ~ 24	20 ~ 24	18 ~ 24	18 ~ 24	8 ~ 12	10 ~ 12				

【日本文化学科 現代文化コース履修計画モデル】

区分		科目群名	配当年次 (学年)	必修	選択	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		科目 数	単位 数			
				科目:単位	科目:単位	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期					
						授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)					
必修・必修選択科目	専門科目	日本文化基礎演習科目群		1・2		3 6	基礎演習 (2)	基礎演習 (2)	基礎演習 (2)					30	66			
		日本文化基礎科目群		1・2		8 16	8 科目 (16)											
		日本文化専門科目群	民俗・歴史系科目群	(1)・2・3・4		13 26			13科目 (26) 以下の科目から13科目以上履修し26単位以上修得すること。 2年次・3年次の各学期で、3科目もしくは4科目程度履修することが望ましい。 ・現代社会系科目群 全科目 ・文学・芸術・思想系科目群 形象文化論 ~ 身体文化論 ・民俗・歴史系科目群 民俗文化論・日本生活文化論 ・指定された他学科専門科目 マスコミュニケーション論 ~									
		比較文化研究科目群		3・4		1 2					1科目 (2) 比較文化論 ~ より 1 科目以上							
		日本文化専門演習科目群	日本文化専門演習	3・4	4 8						日本文化演習 (2); 日本文化演習 (2) 日本文化演習 (2); 日本文化演習 (2)							
	卒業論文・卒業研究		4	1 8						卒業論文・卒業研究 (8)								
	共通科目	外国語科目 1 群		1・2	7 14		BASIC LISTENING (2)	NEWS LISTENING (2)	SPEAKING PRACTICE (2)	SPEAKING SKILLS (2)					18	36		
							BASIC READING (2)	READING & WRITING (2)	INTENSIVE READING & WRITING (2)									
		情報技術科目群		1・2・3・4		2 4	情報リテラシー (2)	表計算ツールとデータ分析 (2)										
		日本語表現法科目群		1・2・3・4		1 2	日本語表現法 1 科目 (2)											
		特別総合科目群																
		国際文化交流論科目群		1・2・3・4		3 6	3 科目 (6)											
		国際文化交流演習科目群																
		共通基礎科目群		1・2・3・4		2 4	2 科目 (4)											
	自由選択科目	人間・環境系科目群		1・2・3・4		2 4	2 科目 (4)											
		多文化学際科目群		1・2・3・4		1 2	1 科目 (2)											
							32単位以上										32	単位以上
授業科目数 (目安)						10 ~ 12	10 ~ 12	10 ~ 12	10 ~ 12	9 ~ 12	9 ~ 12	4 ~ 6	2 ~ 3	134 単位以上				
修得単位数 (目安)						20 ~ 24	20 ~ 24	20 ~ 24	20 ~ 24	18 ~ 24	18 ~ 24	8 ~ 12	10 ~ 12					

カリキュラムマップ

	▶ 1年次	▶ 2年次	▶ 3年次	▶ 4年次					
学びの深まり 日本について理解するための幅広い学びを基礎に、本当に探求したいテーマを見つけます。	大学で学ぶ意義を自覚する PCや日本語表現の技能を習得する								
	国際文化交流に必要な語学力を習得する								
	日本文化を学ぶための基礎的な技能・知識を習得する								
		日本文化を理解するための基礎知識を学ぶ							
			日本文化についての学識を深め、テーマを決めて研究を進める						
				卒業論文・卒業研究					
日本文学学科 専門科目 1・2年次には異なる教員の指導のもとで学び、3年次以降は選択したコースに分かれ、3・4年次とも同じ教員の専門演習を履修し、卒業論文・卒業研究をまとめます。	● 日本文化基礎演習	● 日本文化基礎演習（・）	● 日本文化演習	● 日本文化演習					
	● 日本文化基礎科目群		● 比較文化研究科目群						
				● 卒業論文・卒業研究					
		● 民俗・歴史系科目群 ● 文学・芸術・思想系科目群 ● 現代社会系科目群	<table><tr><td rowspan="4">コース 登録制度 【 】</td><td>民俗・歴史コース</td></tr><tr><td>日本語・日本文学コース</td></tr><tr><td>芸術文化・アートマネジメントコース</td></tr><tr><td>現代文化コース</td></tr></table>	コース 登録制度 【 】	民俗・歴史コース	日本語・日本文学コース	芸術文化・アートマネジメントコース	現代文化コース	
コース 登録制度 【 】	民俗・歴史コース								
	日本語・日本文学コース								
	芸術文化・アートマネジメントコース								
	現代文化コース								
共通科目 諸学問の基礎を学び、幅広い教養を身につけるとともに、様々な分野の専門家・実務者による講義や指導を受けることができます。	● 外国語科目 1 群（英語） ● 情報リテラシー ● 表計算ツールとデータ分析 ● 日本語表現法 ● 外国語科目 2 群（英語以外の外国語）	● 外国語科目 1 群（英語）							
	● 特別総合科目群 ● 国際文化交流論科目群 ● 共通基礎科目群 ● 人間・環境系科目群 ● スポーツ・健康科学演習科目群 ● 伝統文化演習科目群 ● 国際文化交流演習科目群 ● 生活文化演習科目群 ● 社会演習科目群 ● 多文化学際科目群								

【※】3年生から4つのコースに分かれます。登録するコースごとに定められた専門科目の中から13科目以上を選択して履修します。

【国際コミュニケーション学科 国際関係コース履修計画モデル】

区分			科目群名	配当年次 (学年)	必修	選択	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		合計		総単 位数						
							春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	目 数	単 位数							
					科目/単位	科目/単位	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)									
必修・必修選択科目	基礎科目群	国際コミュニケーション基礎演習科目群	1 ・ 2	4	8		基礎演習 (2)	基礎演習 (2)	基礎演習 (2)	基礎演習 (2)						14	28	72					
		国際関係基礎科目群																					
		地域文化系基礎科目群	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4			8	16	2 科目 (4)	2 科目 (4)	2 科目 (4)	2 科目 (4)												
		英語圏文化基礎科目群																					
	専門科目群	英語演習基礎科目群	2	2	4			英語演習 (2)	英語演習 (2)							19	44						
		国際関係専門科目群				12	24	【国際関係専門科目群】の全科目から 8 科目以上履修し計16単位以上修得すること。 また、【地域文化系専門科目群】の全科目、または【英語圏文化専門科目群】のうち「アメリカ文化論 ・ 」 「イギリス文化論 ・ 」 「オセアニア文化論」から 4 科目以上履修し計 8 単位以上修得すること。		3 科目 (6)	3 科目 (6)	2 科目 (4)	2 科目 (4)	2 科目 (4)									
		地域文化系専門科目群	2 ・ 3 ・ 4																				
		英語圏文化専門科目群																					
		指定された他学科専門科目	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4																				
		外国語演習専門科目群	3	2	4					外国語演習 (2)	外国語演習 (2)												
		国際コミュニケーション 専門演習科目群	3 ・ 4	4	8					演習 (2)	演習 (2)	演習 (2)	演習 (2)										
		卒業研究・卒業論文	4	1	8			卒業研究・卒業論文(8)															
	共通科目	外国語科目1群	1 ・ 2	7	14			BASIC LISTENING (2)	NEWS LISTENING (2)	SPEAKING PRACTICE (2)	SPEAKING SKILLS (2)						18		36	36			
								BASIC READING (2)	READING & WRITING (2)	INTENSIVE READING & WRITING(2)													
		情報技術科目群	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4			2	4	情報リテラシー (2)	表計算ツールとデータ分析 (2)														
		日本語表現法科目群	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4			1	2	日本語表現法 (2)															
		特別総合科目群						3 科目 (6)															
		国際文化交流論科目群	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4			3	6																
		国際文化交流演習科目群																					
		共通基礎科目群	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4			2	4	2 科目 (4)															
		人間・環境系科目群	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4			2	4	2 科目 (4)															
		多文化学際科目群	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4			1	2	1 科目 (2)															
自由選択科目						26単位以上											26 単位 以上	26 単位 以上					
授業科目数 (目安)							10 ～ 12	10 ～ 12	10 ～ 12	10 ～ 12	9 ～ 12	9 ～ 12	4 ～ 6	2 ～ 3	134単位 以上								
修得単位数 (目安)							20 ～ 24	20 ～ 24	20 ～ 24	20 ～ 24	18 ～ 24	18 ～ 24	8 ～ 12	10 ～ 12									

【国際コミュニケーション学科 地域文化コース履修計画モデル】

区分		科目群名	配当年次 (学年)	必修		選択		1年次		2年次		3年次		4年次		合計		総単 位数		
				科目	単位	科目	単位	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	数	単位 数			
																			授業科目(単位数)	授業科目(単位数)
必修・必修選択科目	基礎科目群	国際コミュニケーション基礎演習科目群	1・2	4	8			基礎演習(2)	基礎演習(2)	基礎演習(2)	基礎演習(2)							14	28	
		国際関係基礎科目群																		
		地域文化系基礎科目群	1・2・3・4			8	16	2科目(4)	2科目(4)	2科目(4)	2科目(4)									
		英語圏文化基礎科目群																		
		英語演習基礎科目群	2	2	4			英語演習(2)	英語演習(2)											
		国際関係専門科目群						3科目(6)	3科目(6)	2科目(4)	2科目(4)	2科目(4)								
		地域文化系専門科目群	2・3・4			12	24	【地域文化系専門科目群】の全科目、または【英語圏文化専門科目群】の全科目から8科目以上履修し計16単位以上修得すること。 また、【国際関係専門科目群】の全科目、または【指定された他学科専門科目】のうち「日本文化政策論」「比較文化論」から4科目以上履修し計8単位以上修得すること。												
		英語圏文化専門科目群																		
		指定された他学科専門科目	1・2・3・4																	
		外国語演習専門科目群	3	2	4					外国語演習(2)	外国語演習(2)									
	国際コミュニケーション専門演習科目群	3・4	4	8					演習(2)	演習(2)	演習(2)	演習(2)								
	卒業研究・卒業論文	4	1	8									卒業研究・卒業論文(8)							
	共通科目	外国語科目1群	1・2	7	14			BASIC LISTENING(2)	NEWS LISTENING(2)	SPEAKING PRACTICE(2)	SPEAKING SKILLS(2)							18	36	36
								BASIC READING(2)	READING & WRITING(2)	INTENSIVE READING & WRITING(2)										
		情報技術科目群	1・2・3・4			2	4	情報リテラシー(2)	表計算ツールとデータ分析(2)											
		日本語表現法科目群	1・2・3・4			1	2	日本語表現法(2)												
		特別総合科目群																		
		国際文化交流論科目群	1・2・3・4			3	6		3科目(6)											
		国際文化交流演習科目群																		
		共通基礎科目群	1・2・3・4			2	4		2科目(4)											
		人間・環境系科目群	1・2・3・4			2	4		2科目(4)											
		多文化学際科目群	1・2・3・4			1	2		1科目(2)											
	自由選択科目								26単位以上											26 単位 以上
授業科目数(目安)							10～12	10～12	10～12	10～12	9～12	9～12	4～6	2～3	134単位以上					
修得単位数(目安)							20～24	20～24	20～24	20～24	18～24	18～24	8～12	10～12						

【国際コミュニケーション学科 英語圏文化コース履修計画モデル】

区分			科目群名	配当年次 (学年)	必修		選択		1年次		2年次		3年次		4年次		合計		総単 位数				
					科目	単位	科目	単位	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期		目 数	単 位 数		
必修・必修選択科目	基礎科目群	国際コミュニケーション基礎演習科目群	1・2	4	8			基礎演習(2)	基礎演習(2)	基礎演習(2)	基礎演習(2)							14	28				
		国際関係基礎科目群																					
		地域文化系基礎科目群	1・2・3・4				8	16	2科目(4)	2科目(4)	2科目(4)	2科目(4)											
		英語圏文化基礎科目群																					
	専門科目 発展科目群	英語演習基礎科目群	2	2	4					英語演習(2)	英語演習(2)										72		
		国際関係専門科目群																					
		地域文化系専門科目群	2・3・4				12	24			3科目(6) 下記参照	3科目(6) 下記参照	2科目(4) 下記参照	2科目(4) 下記参照	2科目(4) 下記参照								
		英語圏文化専門科目群																					
		指定された他学科専門科目	1・2・3・4																				
		外国語演習専門科目群	3	2	4							外国語演習 (英語圏文化) (2)	外国語演習 (英語圏文化) (2)					19	44				
		国際コミュニケーション 専門演習科目群	3・4	4	8							演習(2)	演習(2)	演習(2)	演習(2)								
		卒業研究・卒業論文	4	1	8																		
	共通科目	外国語科目1群	1・2	7	14			BASIC LISTENING (2)	NEWS LISTENING (2)	SPEAKING PRACTICE (2)	SPEAKING SKILLS (2)										18	36	36
								BASIC READING (2)	READING & WRITING (2)	INTENSIVE READING & WRITING (2)													
		情報技術科目群	1・2・3・4			2	4	情報リテラシー (2)	表計算ツールと データ分析(2)														
		日本語表現法科目群	1・2・3・4			1	2	日本語表現法(2)															
		特別総合科目群								3科目(6)													
		国際文化交流論科目群	1・2・3・4				3	6															
		国際文化交流演習科目群																					
		共通基礎科目群	1・2・3・4			2	4					2科目(4)											
		人間・環境系科目群	1・2・3・4			2	4					2科目(4)											
		多文化学際科目群	1・2・3・4			1	2					1科目(2)											
自由選択科目								26単位以上											26 単位 以上	26 単位 以上			
授業科目数(目安)								10～12	10～12	10～12	10～12	9～12	9～12	4～6	2～3	134単位 以上							
修得単位数(目安)								20～24	20～24	20～24	20～24	18～24	18～24	8～12	10～12								

【英語圏文化専門科目群】から ～ の要件をすべて満たして6科目以上履修し計12単位以上修得すること。
 英語学 ・ 、日本文化発信英語 ・ から2科目以上履修し計4単位以上修得すること
 アメリカ文化論 ・ 、イギリス文化論 ・ から2科目以上履修し計4単位以上修得すること
 アメリカ文学論、アメリカ文学研究、イギリス文学論、イギリス文学研究から2科目以上履修し計4単位以上修得すること
 さらに、【英語圏文化専門科目群】のうち として単位を修得していない科目から6科目以上履修し計12単位以上修得すること。

【国際コミュニケーション学科 ジェネラルコース履修計画モデル】

区分			科目群名	配当年次 (学年)	必修	選択	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		合計		総単 位数	
							春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	目 数	単 位数		
							科目/単位	科目/単位	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)				授業科目 (単位数)
必修・必修選択科目	専門科目	基礎科目群	国際コミュニケーション基礎演習科目群	1・2	4	8		基礎演習 (2)	基礎演習 (2)	基礎演習 (2)	基礎演習 (2)					14	28	72
			国際関係基礎科目群															
			地域文化系基礎科目群	1・2・3・4			8	16	2科目 (4)	2科目 (4)	2科目 (4)	2科目 (4)						
			英語圏文化基礎科目群															
		発展科目群	英語演習基礎科目群	2	2	4			英語演習 (2)	英語演習 (2)								
			国際関係専門科目群															
	地域文化系専門科目群		2・3・4			18	36	3科目 (6)	3科目 (6)	4科目 (8)	4科目 (8)	4科目 (8)						
	英語圏文化専門科目群												22	44				
	指定された他学科専門科目	1・2・3・4																
	外国語演習専門科目群	3	4	8					外国語演習 (2)	外国語演習 (2)	外国語演習 (2)	外国語演習 (2)						
	共通科目	外国語科目1群	1・2	7	14		BASIC LISTENING (2)	NEWS LISTENING (2)	SPEAKING PRACTICE (2)	SPEAKING SKILLS (2)					18	36	36	
							BASIC READING (2)	READING & WRITING (2)	INTENSIVE READING & WRITING (2)									
		情報技術科目群	1・2・3・4		2	4	情報リテラシー (2)	表計算ツールとデータ分析 (2)										
		日本語表現法科目群	1・2・3・4		1	2	日本語表現法 (2)											
		特別総合科目群					3科目 (6)											
		国際文化交流論科目群	1・2・3・4		3	6												
		国際文化交流演習科目群																
		共通基礎科目群	1・2・3・4		2	4	2科目 (4)											
		人間・環境系科目群	1・2・3・4		2	4	2科目 (4)											
	多文化学際科目群	1・2・3・4		1	2	1科目 (2)												
自由選択科目						26単位以上										26 単位 以上	26 単位 以上	
授業科目数 (目安)							10 ~ 12	10 ~ 12	10 ~ 12	10 ~ 12	10 ~ 12	10 ~ 12	4 ~ 6	4 ~ 6	134単位 以上			
修得単位数 (目安)							20 ~ 24	20 ~ 24	20 ~ 24	20 ~ 24	20 ~ 24	20 ~ 24	8 ~ 12	8 ~ 12				

カリキュラムマップ

	▶ 1年次	▶ 2年次	▶ 3年次	▶ 4年次
学びの深まり 国際社会を理解するための幅広い学びを基礎に、本当に探求したいテーマを見つけます。	大学で学ぶ意義を自覚する PCや日本語表現の技能を習得する 国際文化交流に必要な語学力を習得する 多角的な視点から国際社会を理解するための基礎的な技能・知識を習得する	幅広い学びを通して、本当に探求したいテーマを見つける	研究課題を決めて主体的に研究を進め、グローバルな視点から世界と日本をつなぐ 卒業論文・卒業研究	
国際コミュニケーション学科専門科目 1・2年次には異なる教員の指導のもとで学び、3年次以降は選択したコースに分かれ、3・4年次とも同じ教員の専門演習を履修し、卒業論文・卒業研究をまとめます。	国際コミュニケーション基礎演習	- 国際コミュニケーション基礎演習 - 英語演習	- 国際コミュニケーション演習 - 外国語演習	- 国際コミュニケーション演習 - 卒業論文・卒業研究
	- 国際関係基礎科目群 - 英語圏文化基礎科目群	- 国際関係基礎科目群 - 地域文化系基礎科目群	コース登録制度【1】 国際関係コース 地域文化コース 英語圏文化コース ジェネラルコース【2】	
共通科目 諸学問の基礎を学び、幅広い教養を身につけるとともに、様々な分野の専門家・実務者による講義や指導を受けることができます。	- 外国語科目1群（英語） - 情報リテラシー - 表計算ツールとデータ分析 - 日本語表現法 - 外国語科目2群（英語以外の外国語）	外国語科目1群（英語）		
	- 特別総合科目群 - 国際文化交流論科目群 - 共通基礎科目群 - 人間・環境系科目群 - スポーツ・健康科学演習科目群 - 伝統文化演習科目群 - 国際文化交流演習科目群 - 生活文化演習科目群 - 社会演習科目群 - 多文化学際科目群			

【※1】3年生から4つのコースに分かれます。登録するコースごとに定められた専門科目の中から12科目以上を選択して履修します。

【※2】ジェネラルコースは国際コミュニケーション演習と卒業論文・卒業研究を履修せずに、他のコースより8科目多く履修します。

【英語コミュニケーション学科 履修計画モデル】

区分	科目群名		配当年次	必修	選択	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		科目数	単位数			
			学年	科目	単位	科目	単位	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)			授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)	
必修・必修選択科目	専門科目	英語コミュニケーション学科基礎演習科目群	基礎演習	1・2		3	6	基礎演習 (2)	基礎演習 (2)	基礎演習 (2)				35 (38)	90			
			Cultural Exchange	2	1	2					Cultural ExchangeB (2)							
			海外研修	2	1	16					海外研修B (16)							
		英語コミュニケーション英語演習基礎科目群	1・2	10	20	1	2	TOEIC Basics (2)	TOEIC Skills (2)	Academic Writing A (2)	Presentations A (2)	海外研修中は、 本学の授業の 履修不可。						
								Paragraph Writing (2)	Essay Writing (2)	Listening PracticeA (2)	Listening SkillsA (2)							
								Writing Practice (2)	Writing Skills (2)	1 科目 (2)								
		国際コミュニケーション学科・国際関係基礎科目群	1・2・3・4			4	8	1 科目 (2)	2 科目 (4)	1 科目 (2)								
		国際コミュニケーション学科・地域文化系基礎科目群																
		国際コミュニケーション学科・英語圏文化基礎科目群																
		国際コミュニケーション学科・国際関係専門科目群	2・3・4			4	8		2 科目 (4)		1 科目 (2)		1 科目 (2)					
		国際コミュニケーション学科・地域文化系専門科目群																
		国際コミュニケーション学科・英語圏文化専門科目群																
	英語コミュニケーション英語演習専門科目群	3		4	8					2 科目 (4)	2 科目 (4)							
	英語コミュニケーション専門演習科目群 特殊演習	3		2	4					1 科目 (2)	1 科目 (2)							
	英語コミュニケーション演習専門演習科目群 卒業研究・卒業論文	3・4	4	8						演習 (2)	演習 (2)	演習 (2)	演習 (2)					
	英語コミュニケーション演習専門演習科目群 卒業研究・卒業論文	4	1	8								卒業研究・論文 (8)						
	英語コミュニケーション英語演習専門科目群	3・4			2	4					1 科目 (2)	1 科目 (2)						
	英語コミュニケーション専門演習科目群 特殊演習	3・4																
	特別総合科目群	1・2・3・4			6	12					2 科目 (4)	2 科目 (4)	2 科目 (4)					
	国際文化交流論科目群																	
	国際文化交流演習科目群																	
	共通基礎科目群																	
	人間・環境系科目群	1・2・3・4																
	多文化学際科目群																	
共通科目	外国語科目1群	1・2	7	14			BASIC LISTENING (2)	NEWS LISTENING (2)	INTENSIVE READING & WRITING A (2)				19	38				
							BASIC READING (2)	READING & WRITING (2)										
							SPEAKING PRACTICE (2)	SPEAKING SKILLS (2)										
	情報技術科目群	1・2・3・4		2	4	情報リテラシー (2)	表計算ツールとデータ分析 (2)											
	日本語表現法科目群	1・2・3・4		1	2	日本語表現法 (2)												
	特別総合科目群	1・2・3・4			3	6	3 科目 (6)											
	国際文化交流論科目群																	
	国際文化交流演習科目群																	
共通基礎科目群	1・2・3・4		3	6			3 科目 (6)											
人間・環境系科目群	1・2・3・4		2	4			2 科目 (4)											
多文化学際科目群	1・2・3・4		1	2			1 科目 (2)											
自由選択科目								3 科目 (6)					3 以上	6 以上				
授業科目数 (目安)						10 ~ 12	10 ~ 12	10 ~ 12	2	8 ~ 12	10 ~ 12	3 ~ 6	3 ~ 6	134	単位			
修得単位数 (目安)						20 ~ 24	20 ~ 24	20 ~ 24	18	20 ~ 24	20 ~ 24	6 ~ 12	12 ~ 18		以上			

合計科目数欄のカッコ書きは 専門演習を選択しないコースの学生の場合。

カリキュラムマップ

	▶ 1年次	▶ 2年次	▶ 3年次	▶ 4年次
学びの深まり 徹底した英語学習に加え、国際社会についても学びを深めていきます。	大学で学ぶ意義を自覚する PCや日本語表現の技能を習得する 英語コミュニケーションの力を伸ばす 「読む」「書く」「聞く」「話す」という英語の4技能を徹底的にトレーニングする	半年間、海外の大学で授業を受ける	英語や国際文化交流についての学識を深め、テーマを決めて研究を進める	卒業論文・卒業研究
英語コミュニケーション学科専門科目【 1 】 1・2年次には少人数クラスで基礎を徹底的に学ぶとともに、2年次の留学に備えたトレーニングを行います。3・4年次には、より高度な授業で英語力を磨くとともに、選択した学問領域の専門知識を深めます。	- 英語コミュニケーション基礎演習 - 英語コミュニケーション英語演習基礎科目群 - 国際関係基礎科目群 / 地域文化系基礎科目群 / 英語圏文化基礎科目群【 2 】	- 英語コミュニケーション基礎演習 - 海外研修 / Cultural Exchange - 英語コミュニケーション英語演習基礎科目群	- 英語コミュニケーション演習 - 英語コミュニケーション特殊演習 - 英語コミュニケーション英語演習専門科目群 - 国際関係専門科目群 / 地域文化系専門科目群 / 英語圏文化専門科目群【 2 】	- 英語コミュニケーション演習 - 卒業論文・卒業研究
共通科目 諸学問の基礎を学び、幅広い教養を身につけるとともに、様々な分野の専門家・実務者による講義や指導を受けることができます。	- 外国語科目1群（英語） - 情報リテラシー - 表計算ツールとデータ分析 - 日本語表現法	外国語科目1群（英語）		
	- 特別総合科目群 - 国際文化交流論科目群 - 共通基礎科目群 - 人間・環境系科目群 - スポーツ・健康科学演習科目群 - 伝統文化演習科目群 - 国際文化交流演習科目群 - 生活文化演習科目群 - 社会演習科目群 - 多文化学際科目群			

【 1 】 英語コミュニケーション学科ではコース登録は行いません。

【 2 】 国際コミュニケーション学科で開講されている専門科目を、基礎科目群・専門科目群それぞれについて4科目ずつ、計8科目履修します。

3年次編入学者用

日本文化学科3年次に編入学した学生は、次の履修方法一覧(A-8表)に従い、合計134単位以上を修得しなければならない。ただし他学校で修得した単位のうち、66単位を認定する。なお、教職課程科目に関しては、66単位のうちから認定することがある。

A 8表：日本文化学科履修方法一覧

区 分		科 目 群 名		認 定		必 修		必修選択		合 計	
				科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位
必修・必修 選択科目	専 門 科 目	日本文化基礎演習科目群		3	6					11	22
		日本文化基礎科目群		2	4			6	12		
		日本文化専門科目群	民俗・歴史系科目群 文学・芸術・思想系科目群 現代社会系科目群	3	6			10	20	19	44
		指定された他学科専門科目									
		比較文化研究科目群*									
		日本文化専門演習科目群	日本文化演習			4	8				
			卒業研究・卒業論文			1	8				
	共 通 科 目	外国語科目 1 群		5	10	2	4			17	34
		情報技術科目群		2	4						
		日本語表現法科目群		1	2						
		特別総合科目群 国際文化交流論科目群 国際文化交流演習科目群		2	4			5	10		
		共通基礎科目群									
		人間・環境系科目群									
自由 選択科目	共 通 科 目	外国語科目 2 群 スポーツ・健康科学演習科目群 伝統文化演習科目群 生活文化演習科目群 社会演習科目群 多文化学際科目群 共通科目の必修・必修選択科目として必要な 34単位を超える共通科目		15	30					17	34
		専 門 他	専門科目として必要な66単位を超える日本文 化学科の専門科目 国際コミュニケーション学科の専門科目 英語コミュニケーション学科の専門科目 データサイエンス教育プログラム専門科目								
	そ の 他		その他、他大学・他学部等の授業科目等を一定 の範囲内で認定								
修 得 単 位 数				総計134単位以上							

* 日本語・日本文学コースの学生は比較文化論（文学）を必修とする。

国際コミュニケーション学科3年次に編入学した学生は、次の履修方法一覧(B-8表)に従い、合計134単位以上を修得しなければならない。ただし他学校で修得した単位のうち、66単位を認定する。なお、教職課程科目に関しては、66単位のうちから認定することがある。

B - 8 表：国際コミュニケーション学科履修方法一覧（括弧内はジェネラルコース）

区 分			科 目 群 名	認 定		必 修		必修選択		合 計		
				科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	
必修・必修選択科目	専 門 科 目 群	基礎科目群	国際コミュニケーション基礎演習科目群		4	8					14	28
			国際関係基礎科目群		2	4			6	12		
			地域文化系基礎科目群									
			英語圏文化基礎科目群									
			英語演習基礎科目群		2	4						
		発展科目群	国際関係専門科目群						12 (18)	24 (36)	19 (22)	44
			地域文化系専門科目群									
			英語圏文化専門科目群									
			指定された他学科専門科目									
			外国語演習専門科目群				2 (4)	4 (8)				
		国際コミュニケーション 専門演習科目群	国際コミュニケーション 演習						4 (0)	8 (0)		
			卒業研究・卒業論文						1 (0)	8 (0)		
	共通科目	共通科目	外国語科目 1 群		6	12	1	2			16	32
			情報技術科目群		2	4			3	6		
			特別総合科目群									
国際文化交流論科目群												
国際文化交流演習科目群												
共通基礎科目群			1	2			1	2				
人間・環境系科目群		1	2			1	2					
自由選択科目	自由選択科目	外国語科目 2 群		15	30					15	30	
		スポーツ・健康科学演習科目群										
		伝統文化演習科目群										
自由選択科目	自由選択科目	生活文化演習科目群										
		社会演習科目群										
		多文化学際科目群										
自由選択科目	自由選択科目	共通科目の必修・必修選択科目として必要な32 単位を超える共通科目										
		専門他	専門科目として必要な72単位を超える国際コ ミュニケーション学科の専門科目									
			日本文化学科の専門科目									
自由選択科目	自由選択科目	英語コミュニケーション学科の専門科目										
		データサイエンス教育プログラム専門科目										
		その他	その他、他大学・他学部等の授業科目等を一定 の範囲内で認定									
修 得 単 位 数				総計134単位以上								

【日本文科学科 民俗・歴史コース履修計画モデル（編入学者用）】

区分		科目群名		配当年次 (学年)	認定		必修		必修選択		1年次		2年次		3年次		4年次		科目 数	単 位 数		
					科目	単位	科目	単位	科目	単位	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期				
											授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）				
必修・必修 選択科目	専門 科目	日本文化基礎演習科目群		1・2	3	6													11	22		
		日本文化基礎科目群		1・2	2	4			6	12					6科目（12）							
		日本文化 専門科目群	民俗・歴史 系科目群	(1)・2・3・4	3	6			10	20					ア～ウから10科目以上履修し計20単位以上を修得すること。				19	44		
			文学・芸術・ 思想系科目 群								ア 民俗・歴史系科目群の全科目											
			現代社会系 科目群								イ 文学・芸術・思想系科目群のうち次の科目 形象文化論Ⅰ～Ⅵ 日本思想研究Ⅰ～Ⅵ											
			指定された 他学科専門 科目								ウ 指定された他学科専門科目のうち次の科目 文化人類学Ⅰ・Ⅱ 比較道具論 比較居住文化論											
	比較文化研究科目群		3・4					1	2					1科目（2）								
	日本文化専 門演習科目 群	日本文化専 門演習	3・4			4	8							日本文化演習Ⅰ（2）		日本文化演習Ⅱ（2）	日本文化演習Ⅲ（2）	日本文化演習Ⅳ（2）				
		卒業論文・ 卒業研究	4			1	8													卒業論文・卒業研究 （8）		
	共通 科目	外国語科目1群		1・2	5	10	2	4							2科目（4）					17	34	
情報技術科目群		1・2・3・4	2	4																		
日本語表現法科目群		1・2・3・4	1	2																		
特別総合科目群		国際文化交流論科目群	1・2・3・4	2	4			5	10					5科目（10）								
		国際文化交流演習科目群																				
		共通基礎科目群				1・2・3・4																
人間・環境系科目群		1・2・3・4																				
自由 選択 科目				15	30									1科目（2）				17	34			
	授業科目数（目安）										33				9～12	9～12	4～6	2～3	134単位以上			
修得単位数（目安）										66				18～24	18～24	8～12	10～12					

【日本文学科 日本語・日本文学コース履修計画モデル（編入学者用）】

区分		科目群名		配当年次 (学年)	認定		必修		必修選択		1年次		2年次		3年次		4年次		科目 数	単位 数				
					科目	単位	科目	単位	科目	単位	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期						
											授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）						
必修・必修 選択科目	専門科目	日本文化基礎演習科目群		1・2	3	6														11	22			
		日本文化基礎科目群		1・2	2	4			6	12			6科目（12）											
		日本文化 専門科目群	民俗・歴史 系科目群	(1)・2・3・4	3	6			10	20	エから2科目以上履修し計4単位以上修得すること。オから8 科目以上履修し計16単位以上修得すること。 エ 文学・芸術・思想系科目群および指定された他学科専門 科目のうち次の科目 日本語学Ⅲ、言語学Ⅰ・Ⅱ、社会言語学Ⅰ・Ⅱ オ 文学・芸術・思想系科目群のうち次の科目 日本文学論Ⅰ～Ⅴ、日本文学研究Ⅰ～Ⅴ、中国文学論Ⅰ・Ⅱ												19	44
			文学・芸術・ 思想系科目 群																					
			現代社会系 科目群																					
			指定された 他学科専門 科目																					
	比較文化研究科目群		3・4					1	2	比較文化論Ⅱ（文学）（2）※														
	日本文化専門演習科目群	日本文化専門演習	3・4			4	8	日本文化演習Ⅰ（2） 日本文化演習Ⅱ（2） 日本文化演習Ⅲ（2） 日本文化演習Ⅳ（2）																
		卒業論文・卒業研究	4			1	8													卒業論文・卒業研究（8）				
	情報技術科目群		1・2・3・4	2	4																			
日本語表現法科目群		1・2・3・4	1	2																				
特別総合科目群		1・2・3・4	2	4	5	10	5科目（10）																	
国際文化交流論科目群																								
国際文化交流演習科目群																								
共通基礎科目群		1・2・3・4																						
人間・環境系科目群		1・2・3・4																						
授業科目数（目安）											33					9～12	9～12	4～6	2～3	134単位以上				
修得単位数（目安）											66					18～24	18～24	8～12	10～12					

※日本語・日本文学コースの学生は比較文化論Ⅱ（文学）を必修とする。

【日本文学学科 芸術文化・アートマネジメントコース履修計画モデル（編入学者用）】

区分		科目群名		配当年次 (学年)	認定		必修		必修選択		1年次		2年次		3年次		4年次		科目 数	単位 数					
					科目	単位	科目	単位	科目	単位	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期							
											授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）			合計				
必修・必修 選択科目	専門 科目	日本文化基礎演習科目群		1・2	3	6													11	22					
		日本文化基礎科目群		1・2	2	4			6	12		6科目（12）													
		日本文化 専門科目群	民俗・歴史 系科目群	(1)・2・3・4	3	6			10	20		カ～ケから10科目以上履修し計20単位以上修得すること。										19	44		
			文学・芸術・ 思想系科目 群								カ 文学・芸術・思想系科目群のうち次の科目 形象文化論Ⅰ～Ⅵ 身体文化論Ⅰ・Ⅱ 日本思想研究Ⅰ～Ⅵ														
			現代社会系 科目群								キ 民俗・歴史系科目群のうち次の科目 歴史資料論Ⅰ～Ⅳ														
			指定された 他学科専門 科目								ク 現代社会系科目群のうち次の科目 現代文化論Ⅰ～Ⅶ メディア論 ケ 指定された他学科専門科目のうち次の科目 マーケティングⅠ・Ⅱ 経営学Ⅰ・Ⅱ 比較音楽論Ⅰ・Ⅱ 文化遺産学 日本文化発信英語Ⅰ・Ⅱ														
		比較文化研究科目群		3・4					1	2		1科目（2）													
		日本文化専 門演習科目 群	日本文化専 門演習	3・4			4	8				日本文化演習Ⅰ（2）	日本文化演習Ⅱ（2）	日本文化演習Ⅲ（2）	日本文化演習Ⅳ（2）										
	卒業論文・ 卒業研究		4			1	8			卒業論文・卒業研究（8）															
	共通 科目	外国語科目1群		1・2	5	10	2	4					2科目（4）						17	34					
		情報技術科目群		1・2・3・4	2	4																			
		日本語表現法科目群		1・2・3・4	1	2																			
特別総合科目群		国際文化交流論科目群	1・2・3・4	2	4			5	10	5科目（10）															
		国際文化交流演習科目群																							
		共通基礎科目群																		1・2・3・4					
人間・環境系科目群		1・2・3・4																							
自由 選択 科目				15	30							1科目（2）						17	34						
	授業科目数（目安）										33		9～12	9～12	4～6	2～3	134単位以上								
修得単位数（目安）										66		18～24	18～24	8～12	10～12										

【日本文学科 現代文化コース履修計画モデル（編入学者用）】

区分		科目群名		配当年次 (学年)	認定		必修		必修選択		1年次		2年次		3年次		4年次		科目 数	単位 数				
					科目	単位	科目	単位	科目	単位	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期						
											授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）			合計			
必修・必修 選択科目	専門科目	日本文化基礎演習科目群		1・2	3	6														11	22			
		日本文化基礎科目群		1・2	2	4			6	12	6科目（12）													
		日本文化 専門科目群	民俗・歴史 系科目群	(1)・2・3・4	3	6			10	20	コ～スから10科目以上履修し計20単位以上修得すること。 コ 現代社会系科目群の全科目 サ 文学・芸術・思想系科目群のうち次の科目 形象文化論Ⅰ～Ⅵ 身体文化論Ⅰ・Ⅱ シ 民俗・歴史系科目群のうち次の科目 民俗文化論Ⅲ・Ⅳ 日本生活文化論Ⅳ ス 指定された他学科専門科目のうち次の科目 マスコミュニケーション論Ⅰ～Ⅲ												19	44
		比較文化研究科目群		3・4					1	2	1科目（2）													
	日本文化専門演習科目群	日本文化専門演習	3・4			4	8			日本文化演習Ⅰ（2） 日本文化演習Ⅱ（2） 日本文化演習Ⅲ（2） 日本文化演習Ⅳ（2）														
		卒業論文・卒業研究	4			1	8															卒業論文・卒業研究（8）		
	共通科目	外国語科目1群		1・2	5	10	2	4							2科目（4）						17	34		
情報技術科目群		1・2・3・4	2	4																				
日本語表現法科目群		1・2・3・4	1	2																				
特別総合科目群																								
国際文化交流論科目群		1・2・3・4	2	4			5	10	5科目（10）															
国際文化交流演習科目群																								
共通基礎科目群																					1・2・3・4			
人間・環境系科目群		1・2・3・4																						
自由 選択 科目					15	30											1科目（2）		17	34				
授業科目数（目安）											33				9～12	9～12	4～6	2～3	134単位以上					
修得単位数（目安）											66				18～24	18～24	8～12	10～12						

【国際コミュニケーション学科 国際関係コース履修計画モデル（編入学用）】

区分			科目群名	配当年次 (学年)	認定		必修		必修選択		1年次		2年次		3年次		4年次		科目 数	単 位 数		
					科目	単位	科目	単位	科目	単位	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期				
																					授業科目（単位数）	授業科目（単位数）
必修・必修 選択科目	基礎 科目群	国際コミュニケーション基礎演習科目群	1・2	4	8															14	28	
		国際関係基礎科目群	1・2・3・4	2	4			6	12													
		地域文化系基礎科目群																				
		英語圏文化基礎科目群																				
		英語演習基礎科目群	2	2	4																	
	発展 科目群	国際関係専門科目群	2・3・4																	19	44	
		地域文化系専門科目群						12	24													
		英語圏文化専門科目群																				
		指定された他学科専門科目	1・2・3・4																			
		外国語演習専門科目群	3				2	4														
		国際コミュニケーション専門演習科目群	3・4					4	8													
		卒業研究・卒業論文	4					1	8											卒業研究・卒業論文（8）		
	共通 科目	外国語科目1群	1・2	6	12	1	2														16	32
		情報技術科目群	1・2・3・4	2	4			3	6													
		特別総合科目群																				
		国際文化交流論科目群																				
		国際文化交流演習科目群																				
	共通基礎科目群	1・2・3・4	1	2			1	2														
	人間・環境系科目群	1・2・3・4	1	2			1	2														
自由 選択 科目																						
授業科目数（目安）											33				9～12	9～12	4～6	2～3	134単位以上			
修得単位数（目安）											66				18～24	18～24	8～12	10～12				

【国際コミュニケーション学科 地域文化コース履修計画モデル（編入学者用）】

区分			科目群名	配当年次 (学年)	認定		必修		必修選択		1年次		2年次		3年次		4年次		科目数	単位数		
											春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期				
					科目	単位	科目	単位	科目	単位	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	合計			
必修・必修選択科目	基礎科目群		国際コミュニケーション基礎演習科目群	1・2	4	8														14	28	
			国際関係基礎科目群	1・2・3・4	2	4			6	12					6科目（12）							
			地域文化系基礎科目群																			
			英語圏文化基礎科目群																			
		英語演習基礎科目群	2	2	4																	
	発展科目群		国際関係専門科目群	2・3・4										エ・オから8科目以上履修し計16単位以上修得すること。カ・キから4科目以上履修し計8単位以上修得すること。 エ 地域文化系専門科目群の全科目 オ 英語圏文化専門科目群の全科目 カ 国際関係専門科目群の全科目 キ 指定された他学科専門科目のうちの科目 日本文化政策論Ⅰ・Ⅱ 比較文化論Ⅰ～Ⅶ・Ⅹ				19	44			
			地域文化系専門科目群						12	24												
			英語圏文化専門科目群																			
			指定された他学科専門科目	1・2・3・4																		
			外国語演習専門科目群	3			2	4							外国語演習Ⅰ（2）	外国語演習Ⅱ（2）						
			国際コミュニケーション専門演習科目群	3・4					4	8					国際コミュニケーション演習Ⅰ（2）	国際コミュニケーション演習Ⅱ（2）	国際コミュニケーション演習Ⅲ（2）	国際コミュニケーション演習Ⅳ（2）				
			卒業研究・卒業論文	4					1	8								卒業研究・卒業論文（8）				
	共通科目		外国語科目1群	1・2	6	12	1	2							1科目（2）					16	32	
			情報技術科目群	1・2・3・4	2	4				3	6			3科目（6）				1科目（2）	1科目（2）			
			特別総合科目群																			
			国際文化交流論科目群																			
			国際文化交流演習科目群																			
			共通基礎科目群	1・2・3・4	1	2				1	2											
		人間・環境系科目群	1・2・3・4	1	2				1	2												
自由選択科目					15	30													15	30		
	授業科目数（目安）											33				9～12	9～12	4～6	2～3	134単位以上		
修得単位数（目安）											66				18～24	18～24	8～12	10～12				

【国際コミュニケーション学科 英語圏文化コース履修計画モデル（編入学者用）】

区分			科目群名	配当年次 (学年)	認定		必修		必修選択		1年次		2年次		3年次		4年次		科目 数	単 位 数		
											春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期				
					科目	単位	科目	単位	科目	単位	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）			授業科目（単位数）	授業科目（単位数）
必修・必修 選択科目	基礎 科目 群		国際コミュニケーション基礎演習科目群	1・2	4	8														14	28	
			国際関係基礎科目群	1・2・3・4	2	4				6	12				6科目（12）							
			地域文化系基礎科目群																			
			英語圏文化基礎科目群																			
			英語演習基礎科目群	2	2	4																
	発展 科目 群		国際関係専門科目群 地域文化系専門科目群 英語圏文化専門科目群	2・3・4							12	24			クから①～③の要件をすべて満たして6科目以上履修し計12 単位以上修得すること。ケから6科目以上履修し計12単位以上 修得すること。 ク 英語圏文化専門科目群のうち次の科目 ①英語学Ⅲ・Ⅳ、日本文化発信英語Ⅰ・Ⅱから2科目 以上履修し計4単位以上修得すること ②アメリカ文化論Ⅰ・Ⅱ、イギリス文化論Ⅰ・Ⅱから 2科目以上履修し計4単位以上修得すること ③アメリカ文学論、アメリカ文学研究、イギリス文学 論、イギリス文学研究から2科目以上履修し計4単 位以上修得すること ケ 英語圏文化専門科目群のうちクとして単位修得してい ない科目						19	44
			指定された他学科専門科目	1・2・3・4																		
			外国語演習専門科目群	3				2	4						外国語演習Ⅰ（2）	外国語演習Ⅱ（2）						
			国際コミュニケーション専 門演習科目群	国際コミュニ ケーション演習 卒業研究・ 卒業論文	3・4					4	8				国際コミュニケー ション演習Ⅰ（2）	国際コミュニケー ション演習Ⅱ（2）	国際コミュニケー ション演習Ⅲ（2）	国際コミュニケー ション演習Ⅳ（2）				
				4						1	8							卒業研究・卒業論文（8）				
	共通 科目		外国語科目1群	1・2	6	12	1	2							1科目（2）					16	32	
			情報技術科目群 特別総合科目群 国際文化交流論科目群 国際文化交流演習科目群	1・2・3・4	2	4				3	6				3科目（6）							
			共通基礎科目群	1・2・3・4	1	2				1	2				1科目（2）							
			人間・環境系科目群	1・2・3・4	1	2				1	2				1科目（2）							
	自由 選択 科目					15	30													15	30	
授業科目数（目安）										33				9～12	9～12	4～6	2～3	134	単位以上			
修得単位数（目安）										66				18～24	18～24	8～12	10～12					

【国際コミュニケーション学科 ジェネラルコース履修計画モデル（編入学者用）】

区分			科目群名	配当年次 (学年)	認定		必修		必修選択		1年次		2年次		3年次		4年次		科目数	単位数	
											春学期		秋学期		春学期		秋学期				春学期
					科目	単位	科目	単位	科目	単位	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）
必修・必修選択科目	基礎科目群	国際コミュニケーション基礎演習科目群	1・2	4	8															14	28
		国際関係基礎科目群	1・2・3・4	2	4			6	12					6科目（12）							
		地域文化系基礎科目群																			
		英語圏文化基礎科目群																			
	英語演習基礎科目群	2	2	4																	
	専門科目群	国際関係専門科目群	2・3・4					18	36					サ～セから18科目以上履修し計36単位以上修得すること。 サ 国際関係専門科目群の全科目 シ 地域文化系専門科目群の全科目 ス 英語圏文化専門科目群の全科目 セ 指定された他学科専門科目の全科目				22	44		
		地域文化系専門科目群																			
		英語圏文化専門科目群																			
		指定された他学科専門科目	1・2・3・4																		
	外国語演習専門科目群	3				4	8							外国語演習Ⅰ（2）	外国語演習Ⅱ（2）	外国語演習Ⅰ（2）	外国語演習Ⅱ（2）				
	共通科目	外国語科目1群	1・2	6	12	1	2							1科目（2）				16	32		
情報技術科目群		1・2・3・4	2	4			3	6	3科目（6）												
特別総合科目群																					
国際文化交流論科目群																					
国際文化交流演習科目群																					
共通基礎科目群														1・2・3・4	1	2					1
人間・環境系科目群	1・2・3・4	1	2			1	2	1科目（2）													
自由選択科目				15	30													15	30		
授業科目数（目安）										33				10～12	10～12	4～6	4～6	134単位以上			
修得単位数（目安）										66				20～24	20～24	8～12	8～12				

1（書類等の題名）

学習院大学 国際文化交流学部「設置の趣旨等を記載した書類」添付資料
【資料 19】 61～75 ページ

2（出典）

カナダ・レスブリッジ大学 International Office
台湾・実践大学 Office of International Affairs

3（引用範囲）

海外研修受入に係る承諾書・協定書及び当該大学との調整状況を示すメール

4（その他の説明）

特になし。

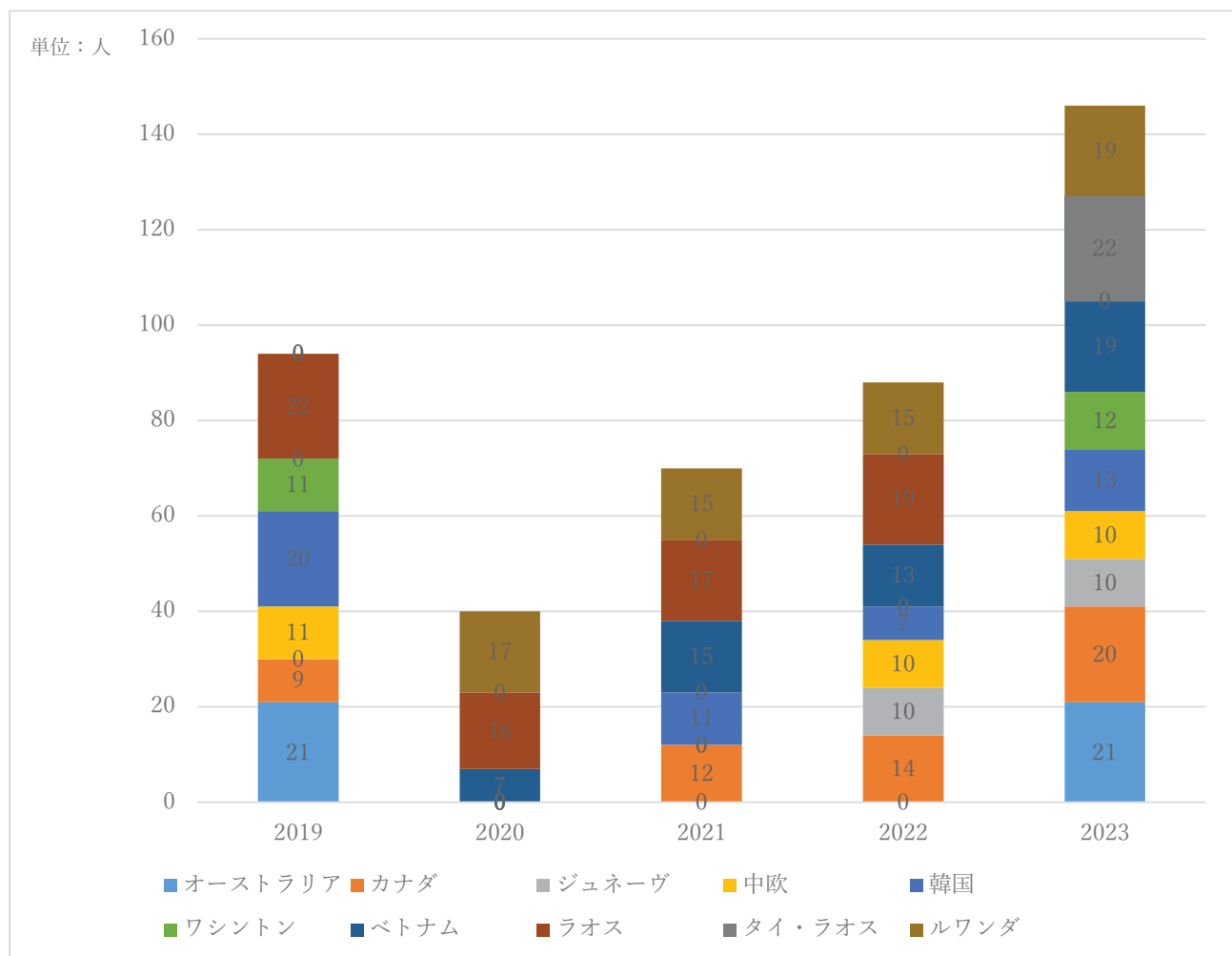
海外短期研修参加者

研修別参加者数

※ラオス研修は 2022 年度で終了。

※2023 年度よりタイ・ラオス研修開始。タイとラオスに隔年で渡航するが、集計では 1 つの研修として扱う。

実施年度	オーストラリア	カナダ	ジュネーヴ	中欧	韓国	ワシントン	ベトナム	ラオス	タイ・ラオス	ルワンダ	総計(人)
2019	21	9	0	11	20	11	0	22	-	0	94
2020	0	0	0	0	0	0	7	16	-	17	40
2021	0	12	0	0	11	0	15	17	-	15	70
2022	0	14	10	10	7	0	13	19	-	15	88
2023	21	20	10	10	13	12	19	-	22	19	146
総計(人)	42	55	20	31	51	23	54	74	22	66	438



【資料 21 入学者選抜ごとの評価項目】

入学者選抜ごとに、以下のとおり評価項目を取扱います。

※入学者に期待する能力を、◎＝非常に重要、○＝重要、で表示。

入学者選抜	選抜方法	知識 技能	思考力 判断力 表現力	主体性を持って 多様な人々と協 働して学ぶ態度	備考
一般選抜（コア試験）	筆記試験	◎	◎		
一般選抜（プラス試験）	筆記試験	◎	◎		
総合型選抜（A0）	調査書	◎		○	学習と学校生活の状況を見る
	志望理由（志望票裏面）	○	○	◎	今後の目標、勉学意欲、協働して学ぶ態度等を見る
	英語資格・検定試験	◎			
	小論文（英語・日本語）	◎	◎		
	口頭試問（英語・日本語）	◎	◎	◎	
学校推薦型選抜（指定校）	調査書	◎		◎	学習と学校生活の状況を見る
	推薦書	○		○	
	志望理由（志望票裏面）	○	○	◎	今後の目標、勉学意欲、協働して学ぶ態度等を見る
	口頭試問	○	◎	◎	
学校推薦型選抜（公募制） ※日本文化学科・国際コミュニケーション学科のみ	調査書	◎		◎	学習と学校生活の状況を見る
	推薦書	○		○	
	志望理由書	○	○	◎	今後の目標、勉学意欲、協働して学ぶ態度等を見る
	小論文	◎	◎		
	口頭試問（日本文化学科は日本語、国際コミュニケーション学科は英語・日本語）	○	◎	◎	
「外国高等学校出身者」および「海外帰国生徒」対象入学 ※日本文化学科・国際コミュニケーション学科のみ	志願票②（本学で何を学びたいのか、海外生活で何を得たのか等）	○	○	◎	今後の目標、勉学意欲、協働して学ぶ態度等を見る
	日本の高等学校の調査書	◎		○	学習と学校生活の状況を見る
	外国学校の成績証明書	◎		○	学習と学校生活の状況を見る
	資格証書	◎			
	小論文（日本語）	◎	◎		
	面接		◎	◎	
外国人留学生入学試験 ※日本文化学科・国際コミュニケーション学科のみ ※EJUの成績で出願する場合は本学での学力試験を実施しない。	志願票（志望理由、学修計画等）	○	○	◎	今後の目標、勉学意欲、協働して学ぶ態度等を見る
	筆記試験	◎	◎		EJUの成績で出願しない場合
	面接	○	◎	◎	EJUの成績で出願しない場合
	日本留学試験（EJU）	◎	◎		EJUの成績で出願する場合
社会人入学 ※日本文化学科・国際コミュニケーション学科のみ	身上書・履歴書	◎		○	今後の目標、勉学意欲、協働して学ぶ態度等を見る
	調査書	○		○	学習と学校生活の状況を見る
	英語資格・検定試験	◎			
	小論文（日本語）	◎	◎		
	面接		◎	◎	
編入学	志望理由（志願票裏面）	◎	○	◎	今後の目標、勉学意欲、協働して学ぶ態度等を見る
	大学・短期大学の成績表	◎	○	○	学習と学生生活の状況を見る
	筆記試験	◎	◎		
	面接		◎	◎	

学習院教職員停年規程

昭和32年2月1日
施行

改正	昭和55年10月31日	平成3年4月1日
	平成4年4月1日	平成5年4月1日
	平成10年1月1日	平成10年4月1日
	平成13年5月29日	令和6年4月1日

第1条 本院専任の教職員は、次の年齢をもって停年とする。

一 大学及び女子大学の教員は70歳

二 高等科、女子高等科、中等科、女子中等科、初等科及び幼稚園の教員は65歳

三 職員は65歳

第2条 停年退職は、停年に達した日の属する年度の年度末とする。

第3条 教職員が停年に達したときは、停年退職確認届を院長に提出するものとする。

第4条 大学長、女子大学長、高等科長、女子高等科長、中等科長、女子中等科長、初等科長及び幼稚園長の職にある者については、例外の取扱いをすることができる。

第5条 教員の選択停年制については、別に定める。

附 則

1 本規程は、昭和32年2月1日より施行する。

2 昭和32年3月31日までに停年に達する者についてはその退職は昭和33年3月31日とする。

附 則

1 この規程は、昭和55年10月31日から施行する。

2 この規程施行の日に女子短期大学に在職する教員のうち、昭和56年3月31日までに65歳に達する者の停年は、第1条第1号の規定にかかわらず、67歳とする。

附 則

この規程は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成10年1月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成13年5月29日から施行する。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

(目的)

第1条 この規程は、文部科学省への学習院大学・学習院女子大学統合による学習院大学新学部（以下「新学部」という。）の設置認可申請又は届出（以下「認可申請等」という。）時における、専任教員の停年の特例に関する事項を定める。

(定義)

第2条 この規程において「完成年度」とは、新学部最初に入学した学生が卒業する年度をいう。
2 この規程において「延長前の停年退職日」とは、学習院教職員停年規程（以下「停年規程」という。）第1条及び第2条に基づく停年退職日のことをいう。

(対象者)

第3条 この規程は、新学部の設置構想中において学習院女子大学国際文化交流学部に所属する専任教員又は新学部開設後に新たに採用される新学部所属する専任教員のうち、新学部開設後から完成年度より前に停年となる者に対して適用する。

(停年の特例)

第4条 前条に定める対象者は、停年規程第1条第1号の定めにかかわらず、停年を新学部の完成年度の末日における当該教員の年齢とし、その停年に達した日の属する年度の末日をもって退職するものとする。

(延長された停年の通知)

第5条 前条により停年を延長する者には、新学部の設置構想中に延長された停年年齢及び停年退職日を遅滞なく通知するものとする。なお、新学部開設後に新たに採用される専任教員が第3条の対象者に該当する場合は、当該教員の採用時に通知するものとする。

(延長された停年退職日前の退職の取扱い)

第6条 第4条により停年を延長された者が、延長前の停年退職日から延長された停年退職日の前日までに退職を希望した場合、学習院専任教員の選択停年制に関する規程（以下「選択停年規程」という。）に基づく選択停年による退職に準じて取り扱う。ただし、同規程第2条から第4条の規定は適用しない。
2 前項に定めのない退職の取扱いについては、学習院就業規則、停年規程、学習院教職員退職手当支給規程等他の規程による。

(他の規程との関係)

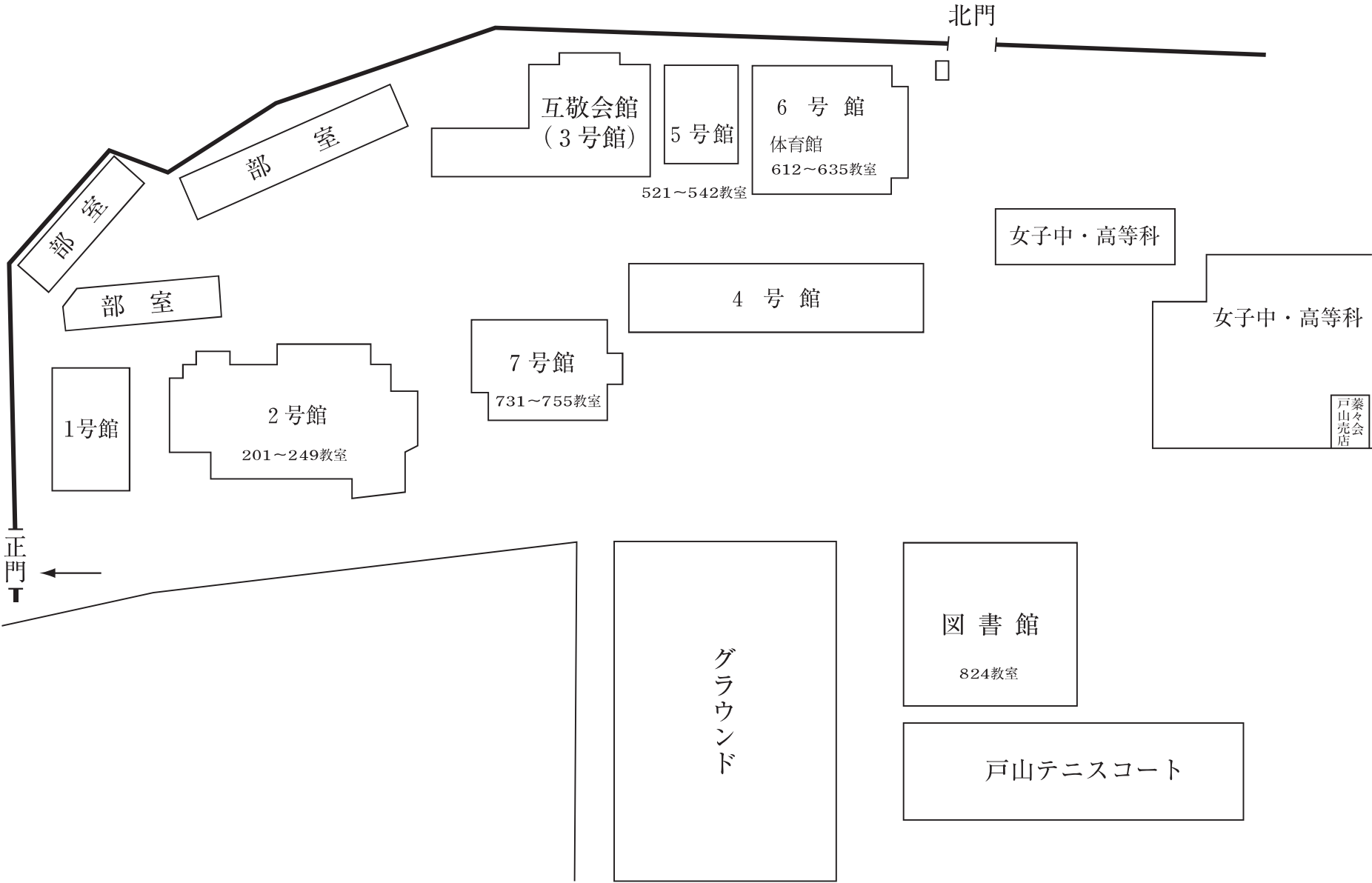
第7条 第4条により停年を延長された者が延長前の停年退職日の前日までを退職日とする選択停年による退職を希望する場合、選択停年規程第2条における「学習院教職員停年規程に定める停年」とは、延長される前の停年である停年規程第1条第1号に基づく停年のことをいう。

(改正)

第8条 この規程の改正は、人事委員会の意見を徴し、科長会議の議を経て、院長が行う。

附 則

この規程は、令和6年4月10日から施行し、新学部の完成年度の末日をもって廃止する。



校舎案内図

※表中の「●」は授業使用を意味する

	教室名	教室区分	収容人数	月					火					水					木					金					土		
				1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	
2号館	201	講堂	500				●			●	●			●	●			●	●	●			●	●	●			●	●		
	202	大学院	18					●		●				●						●			●	●	●			●	●		
	203	大学院	18						●	●										●									●	●	
	221	PC	32								●	●	●				●	●					●	●		●					
	222	大教室	207		●	●			●	●	●	●		●	●	●		●	●		●				●	●					
	223	中教室	102		●	●	●	●		●	●	●			●	●			●	●				●	●		●				
	224	CALL	30	●	●	●	●		●	●				●	●	●	●		●	●				●	●						
	225	CALL	30	●	●	●				●				●	●	●	●		●	●	●			●				●	●		
	226	CALL	30	●	●		●	●		●			●	●	●		●	●	●									●	●		
	227	CALL	30		●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●		●	●	●					●	●	●	●		
	228	PC	48	●	●	●	●		●	●				●	●				●	●	●	●		●	●	●	●	●	●		
	231	和室	10		●	●	●	●			●	●	●							●	●	●			●	●	●	●			
	232	和室	10							●	●	●	●							●	●	●			●	●	●	●			
	233	和室	10							●	●	●	●							●	●	●			●	●	●	●			
	234	小教室（水）	54	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●		●	●	●			●	●	●				
	235	中教室	85	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●		●	●	●	●		●				●				●		
	236	大教室	140		●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●		●	●				●		●		●	
	237	大教室	140		●	●	●	●	●		●	●	●	●			●	●	●	●		●	●				●		●		
	241	小教室	54	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●		●	●
	242	小教室	48	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●	●	●		●	●
	243	小教室	48	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●		●	●
	244	小教室	48	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●		●	●
	245	小教室	48	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●	●		●	●
	246	小教室	48	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●	●		●	●
	247	小教室	48	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●		●	●
	248	小教室（演）	30		●	●	●	●			●	●	●	●		●	●	●	●		●	●	●			●	●	●			
	249	小教室	48	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●		●	●
4号館	実習室1	実習室	36				●																	●			●	●			
	実習室2	実習室	28				●													●							●	●			
5号館	521	小教室	60							●						●															
	531	小教室	54													●	●	●								●	●		●		
	532	小教室（演）	20																												
	541	小教室	54									●																			
6号館	612	小教室	63		●		●			●					●					●	●				●				●		
	613	中教室	81		●		●			●	●				●			●	●	●	●				●	●					
	634	中教室	81		●	●	●		●	●	●	●			●			●	●				●	●							
	635	中教室	81		●	●				●	●	●	●			●	●			●	●										
7号館	731	小教室	40		●				●	●		●							●	●				●	●						
	732	小教室	30		●	●	●		●	●								●	●	●	●			●	●	●	●	●			
	733	小教室（演）	18		●					●										●	●	●					●	●			
	734	中教室	81		●	●				●	●	●			●	●			●					●	●						
	741	小教室	40	●	●	●				●	●	●	●			●			●	●				●	●						
	742	小教室	30		●	●	●			●				●	●	●	●			●				●	●						
	745	CALL	30		●	●									●	●	●			●	●	●		●	●						
	751	小教室	40			●				●		●	●			●				●	●					●	●				
	752	小教室	30						●	●						●			●	●							●	●			
	754	小教室	42							●		●	●			●				●	●										
755	CALL	30		●				●	●	●	●		●	●	●	●		●	●	●						●	●	●	●		
8号館	824	PC	49					●									●														

※表中の「●」は授業使用を意味する

	教室名	教室区分	収容人数	月					火					水					木					金					土	
				1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2
2号館	201	講堂	500			●					●					●		●				●		●						
	202	大学院	18		●	●	●				●				●			●		●				●					●	
	203	大学院	18					●	●	●			●						●		●				●					●
	221	PC	32		●	●	●	●		●		●	●			●	●			●				●		●				
	222	大教室	207		●	●	●	●		●	●	●	●		●	●	●	●		●	●		●		●					●
	223	中教室	102		●	●	●	●		●	●	●	●		●	●	●	●		●	●		●		●					●
	224	CALL	30	●	●	●	●		●	●				●	●	●	●			●				●	●				●	●
	225	CALL	30	●	●	●				●				●	●	●	●		●	●	●			●					●	●
	226	CALL	30	●	●	●	●	●		●			●	●	●	●	●	●		●	●								●	●
	227	CALL	30	●	●	●	●				●	●	●	●	●				●	●	●					●		●	●	●
	228	PC	48	●	●		●		●	●	●			●	●				●	●	●	●		●	●	●	●	●		
	231	和室	10		●	●	●	●			●	●								●	●	●	●		●	●	●	●		
	232	和室	10		●	●	●	●			●	●								●	●	●	●		●	●	●	●		
	233	和室	10		●	●	●	●			●	●								●	●	●	●		●	●	●	●		
	234	小教室 (水)	54	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●			●	●					
	235	中教室	85		●	●	●	●		●	●		●	●	●	●	●		●	●	●			●			●			
	236	大教室	140		●	●			●	●	●			●	●	●	●			●				●	●					
	237	大教室	140		●	●	●			●	●				●	●	●			●				●	●	●	●			
	241	小教室	54	●	●	●	●		●	●	●	●	●		●	●				●	●	●			●	●	●	●		●
	242	小教室	48	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●		●	●	●	●	●	●
	243	小教室	48	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●		●	●	●	●	●	●
	244	小教室	48	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●		●	●	●	●	●	●
	245	小教室	48	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●		●	●	●	●	●	●
	246	小教室	48	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●		●	●	●	●	●	●
	247	小教室	48	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●		●	●	●	●	●	●
	248	小教室 (演)	30		●	●	●			●	●	●			●		●	●		●	●				●					
	249	小教室	48	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●		●	●	●	●	●	●
4号館	実習室 1	実習室	36				●																	●		●	●			
	実習室 2	実習室	28				●																	●		●	●			
5号館	521	小教室	60								●				●		●							●						
	531	小教室	54												●	●	●			●				●	●					
	532	小教室 (演)	20																											
	541	小教室	54								●									●							●	●		
6号館	612	小教室	63			●	●			●										●					●					
	613	中教室	81		●	●	●			●					●					●	●	●			●					
	634	中教室	81		●	●	●		●	●	●	●			●					●	●			●	●		●			●
	635	中教室	81		●	●														●					●					
7号館	731	小教室	40	●	●	●			●	●		●				●				●	●			●	●		●			
	732	小教室	30		●	●	●		●	●									●	●	●			●	●		●			
	733	小教室 (演)	18			●														●							●			
	734	中教室	81		●	●				●	●	●		●	●	●				●					●	●				
	741	小教室	40	●	●	●				●	●	●							●	●										
	742	小教室	30		●	●				●				●	●	●	●			●				●	●		●			
	745	CALL	30		●				●	●					●	●	●			●	●				●	●	●			
	751	小教室	40												●										●					
	752	小教室	30			●	●	●	●	●					●				●	●					●	●	●			
	754	小教室	42							●		●			●					●					●					
	755	CALL	30		●	●			●	●	●	●		●	●	●	●		●	●	●	●		●	●		●			
8号館	824	PC	49					●									●			●				●	●			●		

学習院大学の理念・目的及び各種方針

— About Us



HOME — 学習院大学について — 学習院大学の理念・目的及び各種方針

学習院大学の理念・目的及び各種方針

1. 理念・目的



2. 内部質保証の方針



学習院大学は、内部質保証を推進するため、以下のとおり方針を定めます。

1. 基本的な考え方

定義

本学における内部質保証とは、学習院大学学則第1条、学習院大学大学院学則第1条及び学習院大学専門職大学院学則第1条に掲げる目的の実現に向けて、組織及び活動を不断に検証し、その改善・向上に努め、適切な水準にあることを本学の責任で説明・証明していく恒常的・継続的プロセスのことをいう。

目的

本学は、内部質保証を機能させることを通じて、理念・目的及び卒業認定・学位授与の方針に掲げる人材を育成する。

責任を負う組織

本学は、内部質保証を推進するための全学的な組織として、内部質保証委員会を置く。

自己点検・評価

本学は、教育の更なる発展のため、自己点検・評価活動を基盤として内部質保証を推進する。本学は、毎年度実施する点検・評価として、①大学としての適合性を確保することを目的とした、公益財団法人大学基準協会の定める「大学基準」に則した事項に関する点検・評価と②本学固有の理念・目的及びミッション・ビジョンを実現することを目的とした、中長期計画「学習院大学グランドデザイン2039(Gakushuin U.Grand Design 2039)」(以下「グランドデザイン」という。)における各計画の点検・評価を実施する。更に、これら学位プログラムレベルの点検・評価に基づき、大学レベルの点検・評価及び点検・評価結果を踏まえた改善を恒常的かつ継続的に実施する。

各種方針

本学は、理念・目的の実現に向け、内部質保証の方針、3つのポリシー(DP・CP・AP)、アセスメント・ポリシー等の方針を適切に整備し、それぞれの内容の適切性や内容の一貫性について不断の点検に取り組む。

2. 組織体制

内部質保証に関わる組織・委員会は、以下の役割を担う。

1. 学長は、自己点検・評価の実施、改善の指示及び改善結果の確認、教育研究等の情報公表及びPDCAサイクルの検証に係る最高責任者として、全学的な立場から質保証に取り組む。
2. 内部質保証委員会は、内部質保証を推進する全学的組織として、内部質保証に関する方針・計画の策定、学位プログラムレベルの教育研究活動の質保証に係る自己点検・評価結果の検証、大学レベルの自己点検・評価の実施、検証結果を踏まえた改善の支援及び内部質保証システムの点検・評価に取り組む。
3. 各学部・研究科は、学位プログラムレベルの教育の企画・設計、運用、検証及び改善(PDCA)に取り組む。
4. 各授業担当教員は、授業レベルの教育の企画・設計、運用、検証及び改善(PDCA)に取り組む。
5. 外部評価委員会は、教育研究全般、内部質保証及びその他学長が諮問する事項について、評価・助言を行う。
6. 基本計画策定委員会は、グランドデザインにおける各計画の点検・評価結果の取りまとめ及び全学的課題について学長の諮問に答える。
7. FD・SD推進委員会は、自己点検・評価の結果を受け、本学における教育、研究、社会貢献、大学運営等の諸活動に必要な能力の向上を支援するために、全学的立場でFD・SDを推進する。
8. IR推進委員会は、自己点検・評価の結果を受け、本学における教育研究を支援するために、IRを推進する。
9. その他各部門は、それぞれの所掌事項について、企画・設計、運用、検証及び改善(PDCA)に取り組む。

3. 手続き

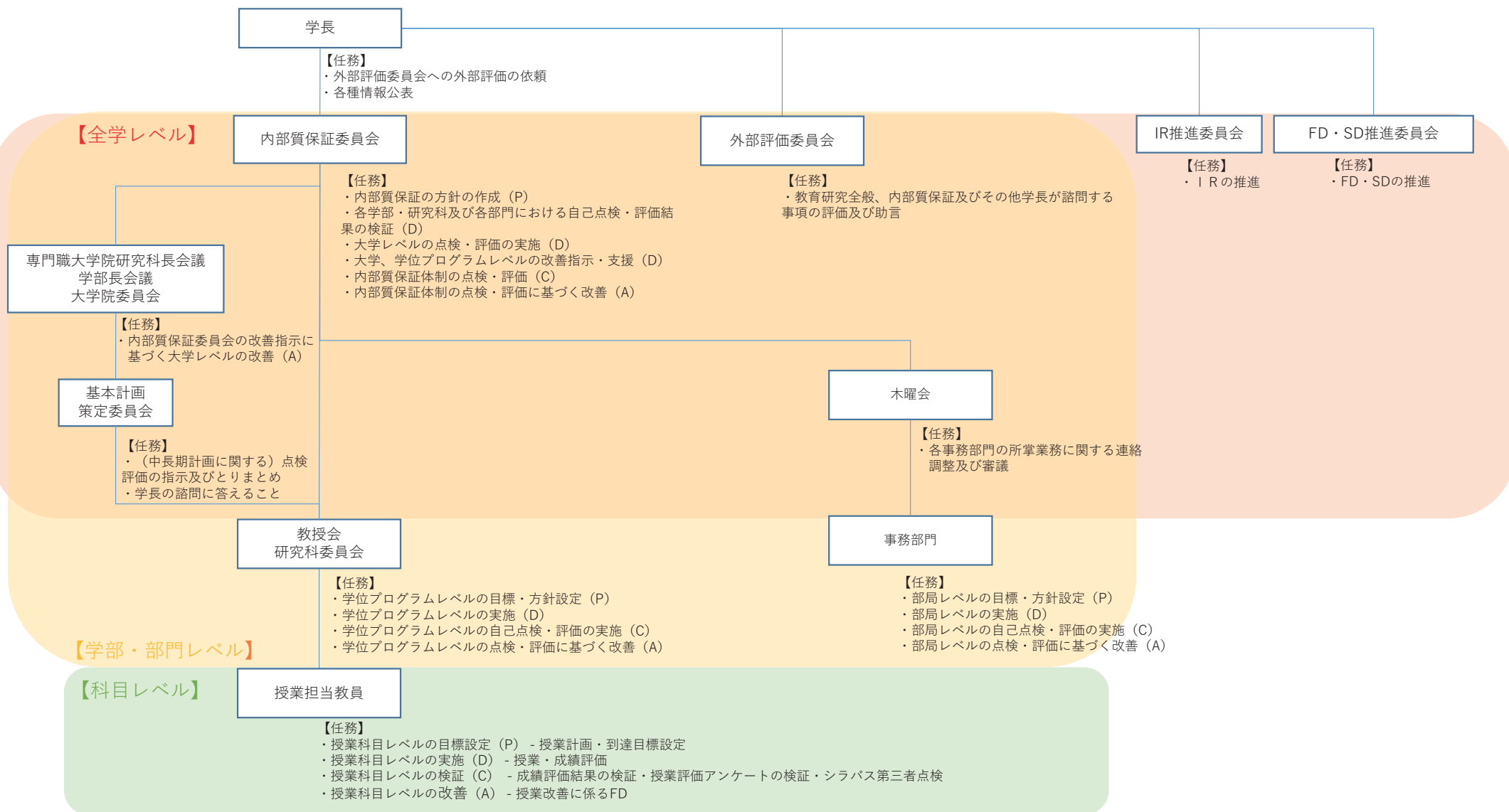
1. 内部質保証委員会は、「大学基準」に即した事項に関する点検・評価の基準・項目を『大学基準確認シート』として策定し、各学部・研究科に対し、学位プログラムレベルの点検・評価の実施を指示する。
2. 各学部・研究科は、『大学基準確認シート』に基づき点検・評価を行い、その結果を内部質保証委員会に提出する。
3. 基本計画策定委員会は、各部門に対し、グランドデザインにおける各計画の点検・評価の実施を指示する。
4. 各部門は、所定の様式に基づきグランドデザインにおける各計画の点検・評価を行い、その結果を基本計画策定委員会に提出する。
5. 基本計画策定委員会は、各部門の点検・評価結果を取りまとめたとともに、内部質保証委員会に提出する。
6. 内部質保証委員会は、2、5で提出された点検・評価結果を検証するとともに、「大学基準」に則した大学レベルの自己点検・結果を実施し、それぞれ学長に報告する。
7. 学長は、外部評価委員会に対し、教育研究全般、内部質保証及びその他の事項について、検証を依頼する。

8. 外部評価委員会は、学長の依頼に基づき評価及び助言を行い、その結果を学長に報告する。
9. 学長は、外部評価委員会から前項についての報告を受け、改善の必要があると認めた場合、内部質保証委員会に改善を、FD・SD推進委員会及びIR推進委員会に対し、改善支援を指示する。
10. FD・SD推進委員会及びIR推進委員会は、学長から改善支援の指示があった場合、必要な措置を講じる。
11. 内部質保証委員会は、学長から改善の指示があった場合、各部門に対し、「大学基準」に則した事項については改善検討を指示するとともに、グランドデザインにおける各計画に関する事項については、改善に向けた助言を行う。
12. 各部門は、改善策を内部質保証委員会に報告し、改善に取り組む。
13. 学長は、教育研究活動、自己点検・評価結果、財務、その他の諸活動の状況等について、本学ホームページ等を活用して積極的に公表する。
14. その他、法人に係る内容等、大学の教育研究以外の評価項目における自己点検・評価及び改善事項が発生した場合は、院・大学連絡会等を通じて、法人と協議の上対応する。

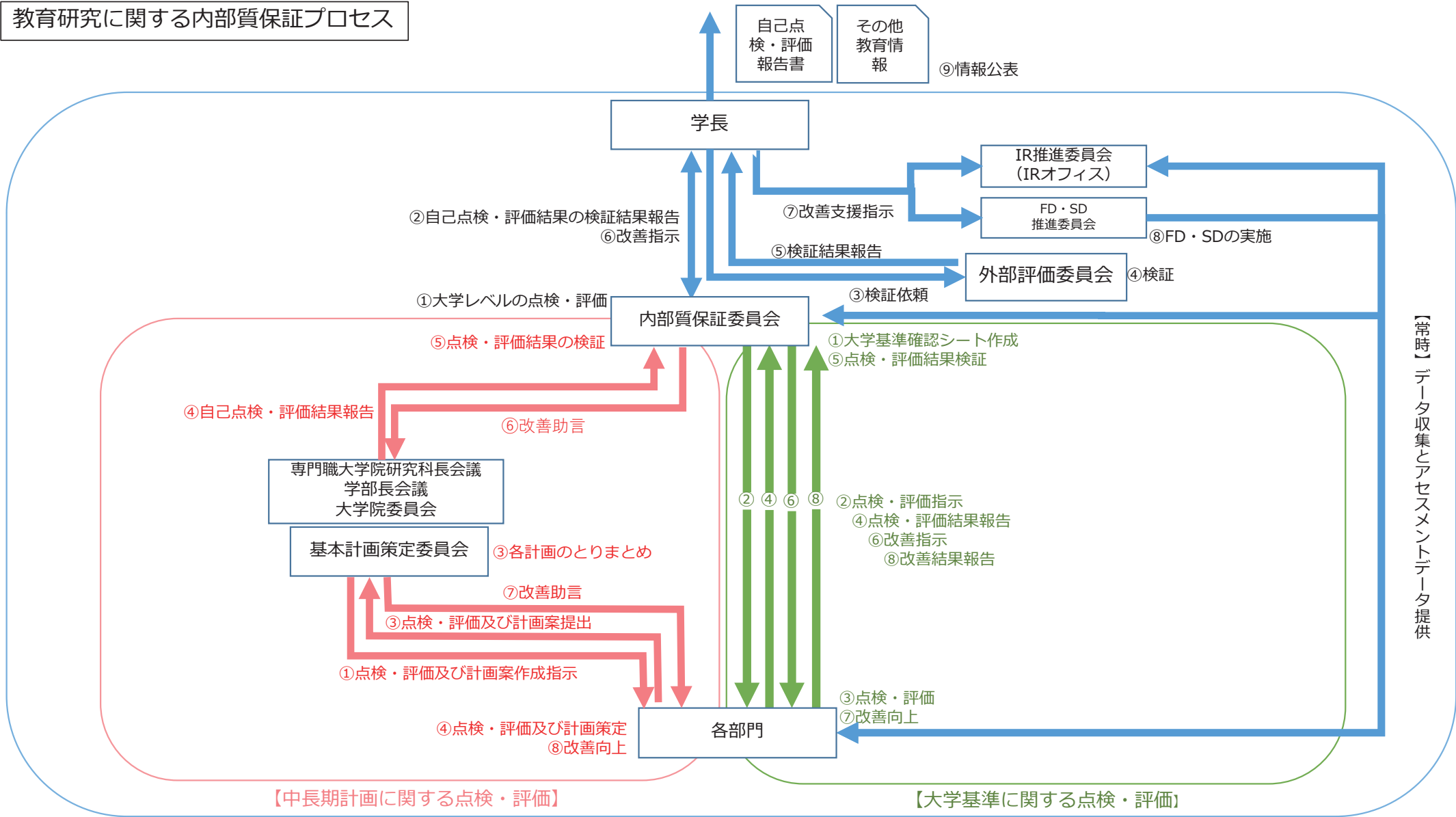
内部質保証に関わる組織と役割		教育研究に関する内部質保証プロセス	
----------------	---	-------------------	---

3. 3つのポリシー(DP・CP・AP)	+
4. 求める教員像及び教員組織の編制方針	+
5. 学生支援に関する方針	+
6. 教育研究等環境の整備に関する方針	+
7. 社会連携・社会貢献に関する方針	+
8. 産官学連携に関する方針	+
9. 知的財産の活用に関する方針	+
10. 大学運営に関する方針	+
11. 国際化指針(グローバル化対応ポリシー)	+
12. アセスメント・ポリシー	+
13. 学位論文等審査基準(大学院)	+

内部質保証に関わる組織と役割



教育研究に関する内部質保証プロセス



学習院大学における内部質保証の推進に関する規程

令和4年4月1日
施行

改正 令和5年4月1日

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規程は、学習院大学（以下「本学」という。）における内部質保証の推進に関し、必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この規程において「内部質保証」とは、学習院大学学則第1条、学習院大学大学院学則第1条及び学習院大学専門職大学院学則第1条に掲げる目的の実現に向けて、組織及び活動を不断に検証し、その改善・向上に努め、適切な水準にあることを本学の責任で説明・証明していく恒常的・継続的プロセスのことをいう。

(内部質保証の方針)

第3条 内部質保証の方針については、別に定める。

(内部質保証の推進体制)

第4条 本学は、大学の自立性を重んじる自己点検・評価活動を基盤として内部質保証を推進する。

2 内部質保証を推進するための全学的な組織として、本学に内部質保証委員会を置く。

3 学長のもとに、全学的立場でファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）及びスタッフ・ディベロップメント（以下「SD」という。）を推進することを目的として、FD・SD推進委員会を置く。

4 学長のもとに、本学における教育研究を支援するために、IRを推進することを目的として、IR推進委員会を置く。

5 前2項に定める委員会の任務、組織及び運営等については、別に定める。

6 本学における内部質保証の有効性及び自己点検・評価活動の客観性・公平性を担保し、教育研究水準のさらなる向上を図るため、学外の有識者等による評価を行い、その意見を内部質保証の推進及び自己点検・評価に反映させることを目的として、本学に外部評価委員会を置く。

(内部質保証の推進方法)

第5条 本学は、内部質保証を推進するため、次の各号に掲げる事項を設定する。

一 学部・学科及び研究科・専攻・課程における大学の理念・目的を踏まえた教育研究上の目的

二 前号に基づく、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）及び入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）（以下「3ポリシー」という。）

三 全学共通科目における学習到達目標（プログラム・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

四 教育、研究、社会連携・社会貢献、大学運営に関する中長期計画

五 本学の諸活動に係る次の方針

ア 3ポリシーを策定するための基本方針

イ 求める教員像及び教員組織の編制方針

ウ 学生支援に関する方針

エ 教育研究等環境の整備に関する方針

オ 社会連携・社会貢献に関する方針

カ 産官学連携に関する方針

キ 知的財産の活用に関する方針

ク 大学運営に関する方針

ケ アセスメント・ポリシー

コ FDの推進に関する基本方針

サ SDの推進に関する基本方針

2 内部質保証委員会は、各部門における教育研究活動の質保証に係る取組み状況の確認及び取組み

結果の集約を行い、これらを検証するとともに、全学の観点から自己点検・評価を行い、その結果を学長に報告する。

3 外部評価委員会は、学長からの依頼に基づき、第14条に規定する事項に関する評価及び助言を行い、その結果を学長に報告する。

4 学長は、外部評価委員会から前項についての報告を受け、改善の必要があると認めた場合、内部質保証委員会に改善を、FD・SD推進委員会及びIR推進委員会に改善支援を指示する。

5 内部質保証委員会は、学長から改善の指示があった場合、必要な措置を講じる。

6 FD・SD推進委員会及びIR推進委員会は、学長から改善支援の指示があった場合、必要な措置を講じる。

7 学長は、教育研究活動、自己点検・評価結果、財務、その他の諸活動の状況等について、本学ホームページ等を活用して積極的に公表する。

(自己点検・評価)

第6条 本学は、公益財団法人大学基準協会が定める「大学基準」に即した自己点検・評価を行う。

2 各部門は、前項の規定に基づき、毎年度、それぞれの諸活動に係る自己点検・評価を行う。

3 自己点検・評価に関し必要な事項は、別に定める。

第2章 内部質保証委員会

(任務)

第7条 内部質保証委員会は、次の各号に掲げる事項を任務とし、本学の内部質保証の推進に責任を負う。

一 第5条第1項各号に規定する事項の検証

二 自己点検・評価活動に係る点検・評価項目等の設定

三 自己点検・評価報告書の作成

四 内部質保証システムの適切性の点検・評価

五 全学の自己点検・評価活動の検証及び検証内容に基づく改善策又は向上策の立案

六 認証評価の受審に関する事項

七 その他必要な事項

(構成)

第8条 内部質保証委員会は、次の委員をもって構成する。

一 学長

二 副学長

三 学部長

四 研究科委員長

五 専門職大学院研究科長

六 図書館長

七 学長室部長

八 大学経理部長

九 アドミッションセンター所長

十 学生センター所長

十一 キャリアセンター部長

2 内部質保証委員会は、必要に応じてその他の教職員の出席を求め、意見を聴くことができる。

(開催)

第9条 内部質保証委員会は、原則として毎月1回開催するものとする。

(委員長)

第10条 内部質保証委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代行する。

(任期)

第11条 職務上の委員の任期は、在任期間中とする。

(事務)

第12条 内部質保証委員会に関する事務は、学長室経営企画課が担当する。

(雑則)

第13条 この規程に定めるもののほか、内部質保証委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

第3章 外部評価委員会

(任務)

第14条 外部評価委員会は、次の各号に掲げる事項について、評価及び助言する。

- 一 教育研究全般に関する事項
- 二 内部質保証に関する事項
- 三 その他学長が諮問する事項

(構成)

第15条 外部評価委員会は、次の各号に掲げる区分及び人数に基づき、人格識見が高く、かつ、本学の発展に関心と理解のある学外者をもって構成する。

- 一 高等学校教職員 2名
- 二 他大学教職員 2名
- 三 高等教育機関と関連のある独立行政法人等の教職員 1名
- 四 前号以外の企業、団体、自治体等に所属する者 3名

2 前項の委員は、学長が委嘱する。ただし、学校法人学習院の役員又は教職員に委員を委嘱することとはできない。

(開催)

第16条 外部評価委員会は、原則として毎年1回開催するものとする。ただし、必要があるときは、臨時に開催することができる。

(委員長)

第17条 外部評価委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により選出する。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代行する。

(任期)

第18条 前条に定める委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 前項の任期の途中で交代した場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営)

第19条 委員長は、学長の諮問を受けて、外部評価委員会を招集しその議長となる。

- 2 外部評価委員会は、必要に応じて本学の教職員に出席を求め、意見を聴くことができる。
- 3 外部評価委員会は、必要に応じて関係部門に対し、資料の提出を求めることができる。

(守秘義務)

第20条 外部評価委員会の委員は、外部評価に関わる業務を遂行するにあたり知り得た事項について、これを第三者に漏洩してはならない。

(事務)

第21条 外部評価委員会に関する事務は、学長室経営企画課が担当する。

(雑則)

第22条 この規程に定めるもののほか、外部評価委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

第4章 雑則

(雑則)

第23条 この規程に定めるもののほか、内部質保証の推進に関し必要な事項は、別に定める。

(改正)

第24条 この規程の改正は、内部質保証委員会の議を経て、学長が行う。

附 則

- 1 この規程は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行に伴い、学習院大学自己点検・評価規程（平成5年6月11日施行）、学習院大学内部質保証委員会規程（平成29年4月1日施行）及び学習院大学外部評価委員会規程（平成29年4月1日施行）は、令和4年3月31日をもって廃止する。

附 則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

学習院大学FD・SD推進委員会規程

令和5年4月1日
施行

(設置)

第1条 学習院大学（以下「本学」という。）に、FD・SD推進委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(定義)

第2条 この規程における用語の定義は、次の各号に定めるところによる。

- 一 「FD (Faculty Development)」とは、学部及び大学院の教員に求められる教育、研究及び社会貢献等の諸活動に必要な能力の向上を図るための組織的な研修及び研究を実施することをいう。
- 二 「SD (Staff Development)」とは、本学における教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、教職員に求められる大学運営に必要な能力及び資質の向上を図るための組織的な研修を実施することをいう。

(目的)

第3条 委員会は、本学におけるFD・SDを全学的に推進することを目的とする。

(任務)

第4条 委員会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事項を審議するとともに、その実施にあたる。

- 一 FD・SDの基本方針に関する事項
- 二 FD・SDに係る中期計画及び年度計画に関する事項
- 三 FD・SDの企画、立案及び実施並びに支援に関する事項
- 四 FD・SDに係る調査、資料収集及び分析に関する事項
- 五 その他FD・SDに関する重要な事項

(構成)

第5条 委員会は、次の委員をもって構成する。

- 一 副学長（教育担当）
- 二 法学部、法学研究科又は政治学研究科から選出された専任教員1名
- 三 経済学部、経済学研究科又は経営学研究科から選出された専任教員1名
- 四 文学部又は人文科学研究科から選出された専任教員1名
- 五 理学部又は自然科学研究科から選出された専任教員1名
- 六 国際社会科学部から選出された専任教員1名
- 七 専門職大学院各研究科から選出された専任教員1名
- 八 スポーツ・健康科学センター、計算機センター、外国語教育研究センター、教職課程及び学芸員課程委員会から選出された専任教員 各1名
- 九 学長室部長
- 十 学生センター所長
- 十一 学生センター部長
- 十二 キャリアセンター部長

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会は、必要に応じてその他の教職員の出席を求め、意見を聴くことができる。

(委員長)

第7条 委員会に委員長を置き、副学長（教育担当）をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長が、職務の遂行に著しい支障を生じたときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代行する。

(任期)

第8条 第5条第1号及び第9号から第12号までに掲げる委員の任期は、在任期間中とする。

- 2 第5条第2号から第8号までに掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 3 第5条第2号から第8号までに掲げる委員に、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者

の残任期間とする。

(事務)

第9条 委員会に関する事務は、学長室経営企画課が担当する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

(改正)

第11条 この規程の改正は、委員会の発議に基づき、大学協議会の議を経て、学長が行う。

附 則

- 1 この規程は、令和5年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行に伴い、学習院大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会規程（平成16年4月1日施行）は、令和5年3月31日をもって廃止する。

シラバス参照

講義コード/Subject Code	W231101001
科目ナンバリング/Course Numbering	VOL-001-G
講義名/Name of Subject	ボランティア 演習
英文科目名/Name of Subject [English]	Seminar on Voluntary Service
担当者名/Instructor	横田 香穂梨
単位/Credits	2
配当年次/Year of Study	1～
副題/Subtitle	

授業概要/ Course Description	【重要】必ず最後までシラバスに目を通してください。秋学期の開講前に最新の情報を反映させた内容に更新される可能性があります。秋学期に事前調整科目の申し込みをする前に改めて一読の上で申し込んで下さい。 この授業では、ゲストをお招きして演習を行います。具体的には、現在実際にボランティアとして活動している方、共用品(*)の普及・啓発に取り組んでいる方、地域の現場で在日外国人の支援に取り組んでいる方、農家出身ではないが起農し有機農業に取り組んでおられる方々、視覚障害当事者でボランティア経験豊富な方、バリアクラッシュを目指す手話パフォーマーの方々など、さまざまな分野で活躍する多彩なゲストたちです。コロナ禍で出会いや交流の機会が限られることも多かったこの数年、さまざまな人とふれあう中で視野を広げたいと感じてきたみなさんを歓迎します。 本演習ではゲストのお話を伺うことだけでなく、ゲストと一緒にみんなで議論をすることも重視しています。また、ゲストを迎えての演習の前後の回では、事前学習や振り返りを行い、演習の体験を言語化し、受講生同士で共有することも大切にしたいと考えています。考察を深める手段として様々なミニ課題(事前課題、事後課題)を課します。 最終回では、可能であれば、何度か行うグループワークの成果発表、または、ひとりひとりの受講生による具体的なアクションプランの発表にも取り組みたいと思います。 * 共用品…身体的な特性や障害にかかわらず、より多くの人々が共に利用しやすい製品・施設・サービスのこと。	
到達目標/ Course Objectives	この授業は、ボランティアに興味関心を持ち、はじめの一步を踏み出してみたいと思っている学生を対象としています。 目標1: 受講生が、本演習の仲間はもちろん、さまざまなフィールドで試行錯誤を重ねる多彩な大人たち(ゲスト)と出会い、交流の中で、自分の思いを表現し伝えることや、そこから生まれる新しい発見の面白さを実感できるようになること。 目標2: 受講生が、「ボランティア」とその周辺に無数にある様々な社会参加の機会、自分と異なる多様な他者や社会とのかかわりのチャンスに気づくこと。また、今後「何かをしたい」と思ったときに一歩踏み出すことへのハードルを下げるができること。 例年は、多分野にわたるボランティアを実際に「体験」しながら、仲間とともに「ボランティア」について考え、今後ボランティアとして活動していく手がかりや方法を習得することを目標としてきましたが、2024年度も新型コロナウイルスの感染の状況をみながらの実施となります。内容や実施形態について、その都度教務部と相談しながら手探りで実施をし、開講後も必要に応じて調整を行います。 必ずシラバス全体によく目を通した上で受講を検討してください。	
授業内容/ Schedule	実施 回/Week	内容/Contents
	第1回	オリエンテーション
	第2回	ボランティア入門
	第3回	みんなが参加できる「アクセシブルミーティング」を考える ・第3週以降は、毎週定期的に演習を行うとは限らない。
	第4回	地域で外国人を支援するボランティア活動の現場から
	第5回	これまでの振り返りとまとめ、グループ学習、事前学習
	第6回	<時間外>ゲスト・スピーカーによるレクチャー「障害者として生きる」
	第7回	<時間外>視覚障害者への支援実習※第7週と同日に連続実施。
	第8回	<時間外>有機農家にて援農体験(1)
	第9回	<時間外>有機農家にて援農体験(2)※第9週と同日に連続実施。学外で実施します。
	第10回	これまでの振り返りとまとめ、グループ学習、事前学習
	第11回	<時間外>バリアクラッシュを目指す手話パフォーマーたちとのトークセッション (Zoom@自宅) ※自宅PCにつなぎ、カメラONの状態を受講できる環境を整えてください(大きく体を動かしたり、声を出したりします)。
	第12回	<時間外>全身で楽しむエンタメ手話講座～ENJOY&STUDY～(Zoom@自宅)※第12週と同日に連続実施。

	第13回	受講生発表会：私のアクションプラン（仮）	
授業計画 コメント/ Comments on the Schedule	【重要】この授業の開講スケジュールは変則的であることに留意してください。実習のため、規定の授業時間に代わり週末に授業を行うことがあります（土曜日実施の場合は、学内で午後実施します。午前中に授業のある受講生の受講が想定されるためです。土曜日午前には演習を行いません）。各回の順番や内容は、演習協力者（ゲスト）のご都合等により変更になる場合があります。初回の授業でスケジュールについて詳しく説明します。		
授業方法/ Teaching Method	・ゲストをお招きして演習を行います。講義を一方的に聞くだけの内容ではありません。グループワークなどを随時採り入れますので積極的に参加して下さい。 ・授業に関する連絡はWebclassで行います。		
使用言語/ Language of Instruction			
準備学習 （予習・復習）/ Class preparation and review	講義内容の復習、ペーパー執筆、事前課題、事後課題、実習の準備などに毎回4時間程度が必要となる。		
成績評価の 方法・基準/ Evaluation	評価項目 / Criteria	評価配分 （%）/ Percentage	備考 / Remarks
	学期末試験 / End of semester examination		
	レポート / Reports	50 %	授業の節目ごとにペーパーを課します（計5回を予定）。
	小テスト / Quizzes		
	平常点（クラス参加、グループ作業の成果等） / Participation, Group Work, etc.	50 %	授業時の議論への参加度、コメントシートやペーパー以外の提出物（ミニ課題）などにより総合的に評価します。
	その他（備考欄を参照） / Other (see remarks column)		
	成績評価コメント 各目標についてどのような点が評価のポイントになるか、具体的に記入してください。 / General Comments on the Evaluation Criteria: 初回に詳しく説明する。不明点があれば事前調整科目の申し込み前にサポートセンターに問い合わせして下さい。秋学期前に最新の情報を加筆する予定ですが、それよりも早く知りたい場合もサポートセンターに行き、講師のメールアドレスを教えてください（必要に応じてこのシラバスを提示して下さい）。 授業期間中に提出されたペーパーやコメントシートなどには、授業中にコメントを行う。 ゲスト回は、ペーパーを締切までに提出することが出席として扱われるための条件となる。		
課題等（試験や レポート等）に 対するフィード バック / Feedback on Exams or Assignments	次週の授業で受講生のコメントの一部を紹介しコメントする。また、ゲストの方々にもフィードバックを行い受講生のコメントを読んでいただいた上でのメッセージを受講生にフィードバックする。		
教科書 / Textbook			
教科書コメント / General Comments on the Textbooks	教科書は使用しない。		
参考文献 / Reference Book			
参考文献コメント / General Comments on the Reference Books	参考文献を随時紹介する。必要に応じてプリントを配布する。		
履修上の注意 / A Note on Registration			
その他 / Other Information			
カリキュラムマ ップ / Curriculum map	以下URLを参照 https://www.gwc.gakushuin.ac.jp/about/disclosure.html		

シラバス参照

講義コード/Subject Code	W230904601
科目ナンバリング/Course Numbering	VOL-015-G
講義名/Name of Subject	国際文化交流演習XVI(韓国におけるボランティア)
英文科目名/Name of Subject [English]	Seminar on International Exchange XVI (Volunteering Abroad)
担当者名/Instructor	羅 京洙
単位/Credits	2
配当年次/Year of Study	1～
副題/Subtitle	

授業概要/ Course Description	本授業では、同じ東アジア地域に属する韓国と日本の文化・社会に内在する類似性と相違性を学ぶため、現地において3週間程のボランティア活動(文化交流活動、フィールドワーク、ワークショップなど)を実施する。とりわけ本授業では、近年、より活発化している日韓文化交流の意味を活かせると同時に、現地の人々の生活を体験できるような「文化・生活体験型」のボランティア活動を実施する。					
到達目標/ Course Objectives	本授業では、韓国(主にソウル特別市)における3週間程のボランティア活動を通し、日韓文化交流に貢献することができる。					
授業内容/ Schedule	実施 回/Week	内容/Contents				
	第1回	イントロダクションおよびボランティア論に関する講義				
	第2回	韓国の社会と文化に関する講義				
	第3回	韓国の政治と経済に関する講義				
	第4回	韓国におけるボランティア活動(1)				
	第5回	韓国におけるボランティア活動(2)				
	第6回	韓国におけるボランティア活動(3)				
	第7回	韓国におけるボランティア活動(4)				
	第8回	ワークショップ開催(1)				
	第9回	韓国におけるボランティア活動(5)				
	第10回	韓国におけるボランティア活動(6)				
	第11回	韓国におけるボランティア活動(7)				
	第12回	韓国におけるボランティア活動(8)				
	第13回	ワークショップ開催(2)および総括				
授業計画 コメント/ Comments on the Schedule	韓国現地における研修実施は2024年8月上旬から約3週間の日程を予定している。また、研修出発前のガイダンスおよび事前学習を数回実施する予定である(詳細日程は別途掲示)。なお、履修希望者が多い場合、人数制限を行うことがある。					
授業方法/ Teaching Method	本授業は演習形式の科目である。演習実施の際には、主体的かつ自発的な姿勢と問題意識を常に持って臨むようにする上、現地の学生たちや一般の人々と交わる機会をできるだけ多く設ける形で進める。また、本学の協定校である梨花女子大学を活動の拠点としつつも、別の協定校である誠信女子大学との交流も視野に入れて演習を実施する予定である。なお、授業関連の連絡はG-Portを通じて行う。					
使用言語/ Language of Instruction	日本語/Japanese	1	英語/English		日本語・英語以外/Other Language	

準備学習 (予習・復習)/ Class preparation and review	受講生は、韓国現地におけるボランティア活動を含む毎回の演習の準備として、予習・復習合わせて4時間以上をかけること。		
成績評価の 方法・基準/ Evaluation	評価項目 / Criteria	評価配分 (%) / Percentage	備考 / Remarks
	学期末試験 / End of semester examination		
	レポート / Reports	40 %	
	小テスト / Quizzes		
	平常点 (クラス参加、グループ作業の成果等) / Participation, Group Work, etc.	30 %	
	その他 (備考欄を参照) / Other (see remarks column)	30 %	演習時に提示される課題
	成績評価コメント 各目標についてどのような点が評価のポイントになるか、具体的に記入してください。 / General Comments on the Evaluation Criteria:		
	演習への参加態度・貢献度 (30%)、課題 (30%)、レポート (40%) で評価する。		
課題等 (試験や レポート等) に 対するフィード バック / Feedback on Exams or Assignments	提出された課題については、添削と共に、コメントを付与の上返却する。また、受講生によるそれぞれのプレゼンテーションに対してコメントをおこなう。		
教科書 / Textbook			
教科書コメント / General Comments on the Textbooks			
参考文献 / Reference Book			
参考文献コメント / General Comments on the Reference Books	特定の教科書は用いないが、毎回の指定文献や資料などを演習中に紹介する。		
履修上の注意 / A Note on Registration			
その他 / Other Information			
カリキュラムマ ップ / Curriculum map	以下URLを参照 https://www.gwc.gakushuin.ac.jp/about/disclosure.html		

シラバス参照

講義コード/Subject Code	W230903901
科目ナンバリング/Course Numbering	ICR-013-G
講義名/Name of Subject	国際文化交流演習Ⅸ(中欧研修)
英文科目名/Name of Subject [English]	Seminar on International Exchange Ⅸ (Study Tour in Central Europe)
担当者名/Instructor	中島 崇文
単位/Credits	2
配当年次/Year of Study	1～
副題/Subtitle	

授業概要/ Course Description	中欧諸国を対象とする研修形式の授業科目である。本授業では中欧諸国に足を運び、国際機関、在外公館、官民の支援現場、教育機関等を訪問して交流活動も行い、現場での国際理解を深め、国際協力について考察するものとする。中欧諸国の多くは東欧諸国と呼ばれることもある。近代においては周辺の大国の支配下に置かれ、20世紀後半の社会主義時代も経験し、西欧諸国と比べれば経済水準も高くないが、近年はEUに加盟しつつあり、急速な発展途上にあり、地政学上も重要な地域の一つとなっている。本研修は2007年度より本学で実施されているものであり、これまでに訪問した国々はクロアチア、北マケドニア、セルビア、モルドヴァ及びオーストリアである。					
到達目標/ Course Objectives	現地の状況を現場で自分の目で見ることによって十分に理解して視野を広め、研修で得られたものをどのようにして自分のものとし、外に向けて発信できるかを考えることができるようにする。また、現地の人々とじかに接することにより、生きたコミュニケーション能力を向上させることができるものとする。					
授業内容/ Schedule	実施 回/Week	内容/Contents				
	第1回	渡航前ガイダンス				
	第2回	ウィーン市内におけるドナウ川の視察				
	第3回	ウィーン国際センター(国連本部、IAEA本部等)訪問による国際機関の学習				
	第4回	ウィーン市内史跡等視察				
	第5回	北マケドニア南西部における共同清掃事業参加と中学生との交流				
	第6回	オフリド湖近辺の史跡訪問				
	第7回	JICAバルカン事務所への訪問と講義				
	第8回	在セルビア日本大使館への表敬訪問と講義				
	第9回	モルドヴァにおけるウクライナ避難民支援現場視察				
	第10回	モルドヴァの小学校における文化交流				
	第11回	在クロアチア日本大使館への表敬訪問と講義				
	第12回	クロアチア中部の内戦と大地震の被災地の小学校訪問と交流				
	第13回	現地研修の総括				
授業計画 コメント/ Comments on the Schedule	2024年8月20日～9月8日の予定。 現地情勢の変化や関係者の都合により、授業計画は若干の変更の可能性がある。					
授業方法/ Teaching Method	授業形態は研修形式。学生への連絡方法は主にメール。レポートの提出先はWebClass。					
使用言語/ Language of Instruction	日本語/Japanese	1	英語/English		日本語・英語以外/Other Language	

準備学習 (予習・復習)/ Class preparation and review	訪問先に関する事前の学習(配布資料の熟読)、及び、事後の復習(メモを取ったものを読み返し、必要に応じて調べ直し、研修レポートを執筆する)は合計50時間程度をかけた行なうこと。		
成績評価の 方法・基準/ Evaluation	評価項目/Criteria	評価配分 (%)/Percentage	備考 / Remarks
	学期末試験/End of semester examination		
	レポート/Reports	40 %	研修レポート
	小テスト/Quizzes		
	平常点(クラス参加、グループ作業の成果等)/ Participation, Group Work, etc.	60 %	研修に臨む姿勢
	その他(備考欄を参照)/Other(see remarks column)		
	成績評価コメント 各目標についてどのような点が評価のポイントになるか、具体的に記入してください。/General Comments on the Evaluation Criteria:		
	研修に臨む姿勢は取り組みの熱心さ、レポートは中身の濃さ、緻密さ等を考慮して評価する。		
課題等(試験や レポート等)に 対するフィード バック/ Feedback on Exams or Assignments	気がついた点はその都度、現場で指摘するものとする。また、レポートに際しても適宜、コメントする。		
教科書/ Textbook			
教科書コメント/ General Comments on the Textbooks			
参考文献/ Reference Book			
参考文献コメン ト/General Comments on the Reference Books			
履修上の注意/ A Note on Registration	本授業は履修制限があるので注意すること。研修に参加しない者の履修は不可とする。 研修参加希望者は、できるだけ早めに担当教員にメール(アドレスはオフィシアワーの欄を参照)等で問い合わせ確認し、申し込むこと(2年生以上は3月末までに申し込んでほしい。まだ人数にゆとりがある時のみ1年生も受け入れる。1年生は4月初めに問い合わせること)。募集人数に欠員が生じない限り、その後の研修参加者の募集は行わない。間に合わなかった人は、次年度の参加を検討すること。 春学期の通常授業科目である国際文化交流論Ⅲ(中欧)を同一年度に履修すること。		
その他/Other Information	関連科目である地域研究基礎論Ⅰ・Ⅱ、比較道具論、言語地理学、(国際コミュニケーション学科の学生の場合は国際コミュニケーション基礎演習D)、東欧文化論(2年次以上)も履修することが望ましい。		
カリキュラムマ ップ/Curriculum map	以下URLを参照 https://www.gwc.gakushuin.ac.jp/about/disclosure.html		

シラバス参照

講義コード/Subject Code	W231103001
科目ナンバリング/Course Numbering	CAR-201-G
講義名/Name of Subject	インディペンデント・スタディ(課題研究)
英文科目名/Name of Subject [English]	Independent Study
担当者名/Instructor	内野 儀 UGO, Mizuko 熊谷 英憲 櫻井 大三 品川 明 橋本 彩 羅 京洙 木村 直恵 佐藤 琢三 牧野 元紀
単位/Credits	2
配当年次/Year of Study	2
副題/Subtitle	

授業概要/ Course Description	本授業は、アカデミック・リサーチとキャリア教育の融合を目標に、①探究計画の立案、②探究調査の実施、③探究成果の発表の3つの部分から構成されます。自分でリサーチ・テーマを定め、調査の方法を学んだうえで個人もしくはグループで主体的に探究調査を進め、最終回で成果を報告します。 ①では、多様な職業・職種に就いている本学卒業生から、本学での学びとそれぞれの職業・職種で求められる資質や、職業・職種の現状について話を聞く機会を設けつつ、メンターとして関わる教員の助言を受けながら探究計画を作成します。②では、図書館を拠点に情報収集ツールを使いこなして、学術的な手法に基づく探究を進めます。リサーチスキル向上のためのレクチャーと実習を経験するとともに、必要に応じてフィールドに向かい探究を進めます。③では、探究成果の報告とそれに関するディスカッションを行います。最終的に自分のリサーチ内容を「企画・提案」として報告します。探究は個人もしくはグループで行います。	
到達目標/ Course Objectives	「多文化学際科目群」での学びを踏まえて関心をもったテーマや学問分野、それに関わる職業・職種や資格、業界などについて、学際的教員チームの支援を受けながら、自ら課題を設定して探究を行っていきます。それにより、関連学問分野について理解を深めるとともに、リサーチ力やプレゼンテーション力、問題発見と企画提案の力を身に付けます。また、自主性の高い(インディペンデントな)学びの体験をつうじて、自立した(インディペンデントな)職業人への自己形成に向けて自らの職業選択やキャリアについて考察を深める機会とします。	
授業内容/ Schedule	実施 回/Week	内容/Contents
	第1回	オリエンテーション(本授業の目的、構成、評価方法などの説明)、卒業生によるミニ・レクチャー(本学での学びと職業体験)
	第2回	卒業生によるミニ・レクチャー(本学での学びと職業体験)
	第3回	受講生の探究テーマの報告と探究の視点についてのディスカッション(個人もしくはグループ決め)
	第4回	アドバンスト・リサーチ法ガイダンス&実習(女子大図書館徹底活用編)
	第5回	アドバンスト・リサーチ法ガイダンス&実習(データベース、文献リスト作成法)
	第6回	社会調査法の基礎を学ぶ(質的調査と量的調査、学外調査とインタビュー調査のマナー)
	第7回	探究計画作成(図書館リサーチ&担当教員との面談)
	第8回	探究計画の発表と討議(グループ1)
	第9回	探究計画の発表と討議(グループ2)
	第10回	自由リサーチ・セッション
	第11回	自由リサーチ・セッション
	第12回	探究成果の発表と討議(グループ1)
	第13回	探究成果の発表と討議(グループ2)
授業計画 コメント/ Comments on the Schedule	履修者の人数などにより、やむをえず授業計画を変更することがあります。	

授業方法/ Teaching Method	演習形式の授業である。学生への連絡はG-portで行う。					
使用言語/ Language of Instruction	日本語/Japanese	1	英語/English		日本語・英語以外/Other Language	
準備学習 (予習・復習)/ Class preparation and review	自主的にテーマを設定してリサーチを行う必要があるため、毎回の授業テーマに合わせて2時間程度の準備を行うとともに、自主的な調査・探究の時間を毎週2時間以上とってください。					
成績評価の 方法・基準/ Evaluation	評価項目 / Criteria		評価配分 (%) / Percentage	備考 / Remarks		
	学期末試験 / End of semester examination					
	レポート / Reports					
	小テスト / Quizzes					
	平常点 (クラス参加、グループ作業の成果等) / Participation, Group Work, etc.		70 %			
	その他 (備考欄を参照) / Other (see remarks column)		30 %			
	成績評価コメント 各目標についてどのような点が評価のポイントになるか、具体的に記入してください。 / General Comments on the Evaluation Criteria:					
毎回の授業参加を通じて、テーマ設定や調査方法の学習を行い、また探究計画と成果を発表することが必須です。 評価の配分は、授業への参加態度 (30%)、意欲的に調査・探究に取り組んだか (40%)、探究成果の達成度 (30%) です。 授業実施回数の3分の1以上欠席した場合は探究成果発表の機会を失います。						
課題等 (試験や レポート等) に対するフィード バック / Feedback on Exams or Assignments	自主的リサーチ中心の授業のため、報告時や都度授業内で各グループ・各個人に対してコメントを行う。					
教科書/ Textbook						
教科書コメント/ General Comments on the Textbooks						
参考文献/ Reference Book						
参考文献コメント/ General Comments on the Reference Books						
履修上の注意/ A Note on Registration						
その他 / Other Information						
カリキュラムマ ップ / Curriculum map	以下URLを参照 https://www.gwc.gakushuin.ac.jp/about/disclosure.html					

学習院大学キャリア・就職委員会規程

平成19年4月1日
制定改正 平成21年4月1日
平成26年12月1日

平成22年4月1日

(設置)

第1条 学習院大学（以下「本学」という。）は、学部学生、大学院学生及び専門職大学院学生（以下「学生」という。）のキャリア形成及び就職活動の支援を円滑に行うため、学習院大学キャリア・就職委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(任務)

第2条 委員会は、本学学生のキャリア形成・就職活動に関する情報交換及び支援等に関するキャリアセンターへの助言を行う。

(組織)

第3条 委員会の委員は、次の各号に掲げる者とし、必要に応じて構成員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。

- 一 学長が指名する副学長 1名
- 二 キャリアセンター部長
- 三 各学部から推薦された委員各1名
- 四 専門職大学院から推薦された委員1名
- 五 キャリアセンター課長

2 委員会の委員長は、キャリアセンター部長とする。

3 委員の任期は2年とし、委員が欠けた場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員会は、適時開催する。

(委嘱)

第4条 委員会の委員は、学長がこれを委嘱する。

(事務)

第5条 委員会に関する事務は、キャリアセンターが担当する。

(改正)

第6条 この規程の改正は、委員会の発議に基づき、専門職大学院研究科長会議及び学部長会議の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年12月1日から施行する。

令和5年11月

1年生の皆さんへ

学長 大桃敏行

学習院大学との統合計画に関して
(承諾書提出に関する説明会の開催)

標題の件について、下記の通り、説明会を開催いたします。学長より、統合にあたって改めてお願いを申し上げ、併せて承諾書の提出に必要な書類の配付も行いますので、昼休みの時間に恐縮ですが、必ずいずれかの回にご出席くださいますようお願いいたします。

記

日程 令和5年11月20日(月) 12時20分より12時40分
令和5年11月22日(水) 12時20分より12時40分
令和5年11月24日(金) 12時20分より12時40分

場所 2号館地階 やわらぎホール

問合せ先:

03-3203-1906

以上

令和 5 年 11 月

学生の皆さんへ

学長 大桃敏行

学習院女子大学と学習院大学との統合計画に伴う「転学」に関してのお願い

本学は、令和 8 年 4 月を最短の目標として学習院大学との統合を計画し、現在文部科学省に相談をしながら、その準備を進めています。この計画では、現在の国際文化交流学部は、そのまま学習院大学に新設される国際文化交流学部になる予定です。この統合によって、本学が開学以来培ってきたものをより深化、発展させるとともに、その成果を本学の中だけにとどめるのではなく学習院大学にも広げることによって、未来を担っていく人を育成していきたいと考えています。

学生の皆さんからは、これまでに開催してきた説明会等を通じて、大学が統合することで授業等がどのようなになるのか、就職活動等において不利なことにならないのか、というような質問が届いています。これらについては、大学が統合しても、学科構成やカリキュラム、授業を担当する教員が変わることはなく(各教員の個人的な事情による場合は除きます)、卒業に必要な授業は戸山のキャンパスで履修できるようにし、就職活動に関しては、活動が始まる 3 年生の段階から、学習院大学と連携して十分なサポートをいたしますので、いずれも安心していただければと思います。

そのうえで、皆さんにお願いがあります。統合するにあたっては、在籍する学生の皆さんに、学習院大学への「転学」をご承諾いただく必要があります。全員が一斉に転学することによって、切れ目なく現在の教育を継続することを可能にするためです。保証人の皆様にも、別途にお便りを差し上げて、転学についてのご理解をお願いしておりますので、ご家族とも話し合いの上、転学承諾書の提出をお願いします。

皆さんは、計画通りに進めば、新生学習院大学の第 1 期の卒業生になります。統合後の学習院大学では、上に示しましたように本学のこれまでの教育を継承し、発展させていく所存です。また、皆さんは他の学部の学生や卒業生の方々とも種々の活動を通じてより広い交流の機会を持つことができるものと思います。どうぞ、この統合をより多彩な選択肢を享受できるチャンスとして捉えていただき、転学へのご理解をいただければ幸いです。

以上

問合せ先

学習院女子大学 03-3203-1906

令和 5 年 11 月 6 日

保証人の皆様

学習院女子大学

学長 大桃 敏行

謹啓 菊花の候 皆様におかれましては ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より、
本学の教育研究にご理解賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、既に本学及び本学を置く学校法人学習院のホームページでも公表し、また、7 月に開催し
ました説明会においてお話したことになりますが、本学が学習院大学と統合して、学習院大学国際
文化交流学部として新たなスタートを切る計画について、あらためて、書面にてご説明申し上げま
すと共に、「転学」に関する今後の手続きについて、ご理解を賜りたくお便りする次第です。

学校法人学習院は、同法人内にある本学と学習院大学とを統合することとし、次の通り計画して
おります。

1. 統合の時期は、令和 8 年 4 月を最短の目標として、計画の準備を進めています。
2. 計画では、本学の国際文化交流学部が、そのまま学習院大学で新設される国際文化交流
学部になります。
3. 本学の学科構成やカリキュラムは、統合後も原則として現状のまま維持する予定です。
4. 統合の時点で本学に在籍する学生は、学習院大学に転学していただき、学習院大学の学生
となっていただく計画です。

この計画において、もっとも重視すべき事項は、本学在学の学生の教育環境が従来通り卒業ま
で維持されることにあります。文部科学省からも、この点においては、強く求められているところであ
ります。そのため、教育上・学校運営上の混乱がより少ない方法として、在学生の皆様が一斉に学
習院大学の学生になっていただくこと、言い換えれば、在学生全員に転学を承諾していただくこと
が、この計画を実施する上で最善の方法であると選択した次第です。

つきましては、統合計画予定年の令和 8 年 4 月時点で 4 年生として在籍予定の現在 1 年生とし
て在籍している学生の皆様には、今月中に開催します「承諾書の提出に関する説明会(仮称)」に
ご出席いただき、そこでの学長からの説明をお聞きいただいたうえで、「転学承諾書」をご提出いた
だく予定としておりますので、ご了承いただければと存じます。

本学としましては、本学の教育が、新たな形で継承され、発展していくことを期待しながら、この計
画を推進していく所存であります。その過程においても、教職員一同が在学生への教育に対す
る不断の努力を続けると共に学生生活の向上も継続して図っていくことを誓います。何卒、この度
の計画へのご理解を賜り、「転学」に対しましても、ご了承くださいますようお願い申し上げます。

末文となりますが、保証人の皆様のご多幸を心より祈念しております。

謹白

問合せ先

学習院女子大学 03-3203-1906

転学承諾書の提出にあたってのお願い

学習院女子大学

1. **転学承諾書の書式**は、11月に開催する説明会会場で配付する他、G-Port キャビネットに収納していますので、印刷して使用いただいても構いません。また、7号館1階の事務室でも配付しています。
2. 記入上のご注意
 - (1) 必ず、学生本人が自署してください。
 - (2) フリクションインクを使用している筆記具は使用しないでください。
3. **提出先は、7号館2階学長秘書室**です。
 - (1) 受付時間は9時から16時半(11時半から12時半を除く)
 - (2) 学長秘書より、受取りの受領書をお渡しします。
4. **提出期限は、令和5年12月22日(金)**とします。

期限までに提出が難しい方は、下の連絡先にご連絡をお願いします。
5. 事前相談会の開催

承諾書の提出にあたって、皆さんの疑問にお答えする事前相談会を次の通り開催いたします。 学長が、皆さんの質問に直接お答えしますので、お一人でも複数名でも遠慮なく相談にいらしてください。

【日時】 第1回目 令和5年12月8日(金) 10時から15時
第2回目 令和5年12月14日(木) 13時30分から17時
第3回目 令和5年12月18日(月) 10時から12時
第4回目 令和5年12月18日(月) 15時から17時

【場所】 学長室(7号館2階)

※予約は不要です。但し、質問者が重なった場合は、お待ちいただく場合があります。
6. 問合せ先及び連絡先

電話 03-3203-1903
メール gwc-off@gakushuin.ac.jp

以上

令和6年3月

合格者の皆さまへ

学習院女子大学 学長 大桃敏行

学習院大学 学長 荒川一郎

学習院女子大学と学習院大学との統合計画について

このたびは、合格おめでとうございます。

すでに、入試要項の記載等にてお知らせしているとおり、学習院女子大学は、令和8年4月を最短の目標として学習院大学と統合する計画を立てています。

繰り返しになりますが、計画の概要は、次の通りです。

- 令和8年4月以降に、計画通り統合が実施された場合、学習院女子大学国際文化交流学部は、学習院大学国際文化交流学部となります。
- 皆さまは、入学後から統合までは、学習院女子大学国際文化交流学部の学生です。
- 皆さまには、学習院女子大学国際文化交流学部から学習院大学国際文化交流学部への転学の承諾を行っていただき、統合以降は、学習院大学国際文化交流学部の学生になっていただく計画です。
- 学習院女子大学国際文化交流学部の学科構成やカリキュラムは、統合後も原則として現状のまま維持する予定です。
- 統合以降の学習院大学国際文化交流学部の授業は、基本的には学習院女子大学がある戸山キャンパスにて開講されます。

皆さまの在学中に統合が実施される計画のため、学習院女子大学国際文化交流学部に入學された皆さまは、入学後に、学習院大学国際文化交流学部へ転学していただくこととなりますので、あらためて本計画をご理解の上、ご入学くださいますようお願い申し上げます。申すまでもなく、転学に際して、試験などはありません。

なお、転学の承諾書の提出につきましては、令和6年4月の入学式後にご案内いたしますので、ご入学まで転学に関して皆さまに手続きをしていただくことはありません。

それでは、4月に皆さまにお会いできることを楽しみにしております。

問合せ先

学習院女子大学 03-3203-1906

以上